令和4年度 (2022年度)

教育計画

滋賀県立総合保健専門学校 看護専門課程 看護学科 2年・3年

# 目 次

I 教育目的・目	目標(看護専門課程 看護学科)	1
1. 教育理念		1
2. 教育目的		1
3. 教育目標		1
II 授業科目・授	受業時間数および単位数	2
Ⅲ 実習要綱		
1. 授業科目	(臨地実習)	4
2. 実習計画表	長	5
3. 実習施設		6
IV 行事計画		7
V 授業科目内容	\$	
1. 基礎分野		S
2. 専門基礎分	分野	23
3. 専門分野 I	I	4 5
基礎看護	雙学	4 6
(臨地実	<b>론習</b> )	63
4. 専門分野Ⅱ	I	6 5
成人看護	雙学	6 6
(臨地実	<b>론習</b> )	7 2
老年看護	雙学	7 5
(臨地実	<b></b> 怪習)	7 9
小児看護	雙学	8 1
(臨地実	<b>尾習</b> )	8 7
母性看護	雙学	8 8
(臨地実	<b>尾習</b> )	9 2
精神看護	雙学	93
(臨地実	<b>론習</b> )	9 9
5. 統合分野		l 0 1
在宅看護	隻論	102
(臨地実	<b>丰</b> 習) 1	l 0 6
看護の統	売合と実践 ·····1	107
(臨地実	<b>丰</b> 習)1	l 12
VI 事例のマトリ	Jックス ······1	l 13
VII 看誰技術のマ	マトリックス ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	117

# I 教 育 目 的・目 標(看護専門課程 看護学科)

### 1. 教育理念

人々のニーズを的確に捉え、人間尊重を基盤とした看護を追及し、実践できる専門職業人を育成する。

## 2. 教育目的

看護師として必要な基礎的知識及び技術を主体的に学び、人間の生命の尊厳および人権の尊重を基に 地域の人々に貢献し得る有能な人材を育成する。

## 3. 教育目標

- (1) 人間を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。
- (2) 人間の健康と生活を、環境との相互作用の観点から理解する能力を養う。
- (3)人々の健康上の問題に対応するため、科学的根拠に基づいて判断し、実施できる基礎的能力を養う。
- (4) 健康の保持増進、疾病予防と治療、リハビリテーション、終末期など健康や障害の状態に応じた 看護を実践するための基礎的能力を養う。
- (5) 人々に対する共感的態度を身につけ、倫理に基づいた行動がとれる。
- (6) 保健・医療・福祉制度を理解し、他職種の人々と協働しながら看護が実践できる能力を養う。
- (7) 豊かな教養と感性を身につけ、自らを向上させる能力を養う。

Ⅱ 授業科目・授業時間数および単位数

	1	L 授業科日・授業時間数表	<u>ه (</u>	り、中	11/	奴	/T:	\/ <del></del>		
		単位	時間	1 E	F次	年		റ മ	<b>□</b> 1/4→	
		<b>半</b> 1仏	时间				F次 ※#	3年前期		
		か、田子	1	30	14 47 74	(区)	刖刔	仮規	削刔	1友 丹
		物理学	1							
	科学的思考の	国語表現法	1	15	15					
	基盤	情報科学	1	30				30		
	ZE IIII.	環境人間学	1	30	30					
		小計	4	105						
		文化人類学	1	30	30					
韭.		人間関係論 I (人間関係形成の基礎)	1	30	30					
基礎		人間関係論 II (援助的人間関係の基礎)	1	15	30			15		
分			1	30				10	30	
野野	1 月月 ) ガニンゴ	哲学	1		0.0				30	
到	人間と生活、	教育学	1	30	30					
	社会の理解	心理学	1	30	30					
		英語	1	30	30					
		経済学	1	30					30	
		芸術(身体表現)	1	15			15			
		小計	9	240						
		計 1	13	345						
			13		20					
		解剖生理学Ⅰ(細胞と組織、運動器、アレルギー・免疫)	1	30	30					
		解剖生理学Ⅱ(呼吸器・循環器・血液)	1	30	30		<b>.</b>			
	人体の構造と	解剖生理学Ⅲ(消化器・腎泌尿器、生殖器)	1	30	30					
	機能	解剖生理学IV(神経、内分泌、感覚器)	1	30	30		L			
		生化学	1	30	30					
			5	150						
		栄養学	1	30		30				
			1	30		30				
		薬理学	1							
		微生物学	1	30		30				
専		病理学	1	15	15					
門	佐佐の出り立た	疾病・治療論 I (筋・骨格器系疾患、アレルギー・免疫疾患)	1	30		30				
	疾病の成り立ち と回復の促進	疾病·治療論 II (呼吸器疾患、循環器疾患)	1	30		30				
基	こ回後が促進	疾病・治療論Ⅲ(血液・造血器疾患、消化器疾患)	1	30		30				
礎		疾病・治療論Ⅳ(腎・泌尿器疾患、女性生殖器疾患)	1	30			30			
分			1	30			30			
野		疾病・治療論V(脳神経疾患、内分泌疾患)	1				30	1 -		
		疾病・治療論VI (感覚器疾患)	1	15				15		
		小 計	10	270						
		公衆衛生学	1	15					15	
		健康支援論	1	15		15				
		リハビリテーション論	1	15			15			
	健康支援と社会	社会保障制度	1	30			T	30		
	保障制度	総合医療論	1	15			1	50	15	
			1	15			<del>                                     </del>		15	
		関係法規	1						19	
		小計		105						
		計	21	525	_					
		基礎看護学概論	1	30						
		共通基本技術 I (技術の概念・人間関係成立の技術)	1	15	15					
		共通基本技術 Ⅱ (環境・バイタル・感染予防)	1	30	30					
		共通基本技術 Ⅲ (看護過程)	2	45		45				
			1	30	30					
		H '星' 宇' 古' 卷 田 ' 拉' M T   ( 1   1   1   1   1   1   1   1   1		50	50	30				
専	其磁套灌学	日常生活援助技術 I (運動・休息) 日常生活援助技術 II (清潔・衣)	1	20						
門	基礎看護学	日常生活援助技術Ⅱ (清潔・衣)	1	30						
門	基礎看護学	日常生活援助技術 II (清潔・衣) 日常生活援助技術 III (食・排泄)	1	30		30				
門分	基礎看護学	日常生活援助技術Ⅲ (清潔・衣) 日常生活援助技術Ⅲ (食・排泄) 診療に伴う技術 I (診療の補助技術)	1 1	30 30						
門分野	基礎看護学	日常生活援助技術Ⅲ (清潔・衣) 日常生活援助技術Ⅲ (食・排泄) 診療に伴う技術 I (診療の補助技術) 診療に伴う技術 II (治療時の看護)	1	30 30 30		30	30			
門分	基礎看護学	日常生活援助技術Ⅲ (清潔・衣) 日常生活援助技術Ⅲ (食・排泄) 診療に伴う技術 I (診療の補助技術)	1 1	30 30		30	30			
門分野	基礎看護学	日常生活援助技術Ⅱ (清潔・衣) 日常生活援助技術Ⅲ (食・排泄) 診療に伴う技術 I (診療の補助技術) 診療に伴う技術 II (治療時の看護) 臨床看護総論	1 1 1	30 30 30		30	30			
門分野		日常生活援助技術Ⅱ (清潔・衣) 日常生活援助技術Ⅲ (食・排泄) 診療に伴う技術 I (診療の補助技術) 診療に伴う技術 II (治療時の看護) 臨床看護総論 フィジカルアセスメント	1 1 1 1	30 30 30 30 30	45	30	30			
門分野	基礎看護学	日常生活援助技術Ⅱ (清潔・衣) 日常生活援助技術Ⅲ (食・排泄) 診療に伴う技術 I (診療の補助技術) 診療に伴う技術 II (治療時の看護) 臨床看護総論 フィジカルアセスメント 基礎看護学実習 I (療養生活の理解)	1 1 1 1 1	30 30 30 30 30 45	45	30 30 30	30			
門分野		日常生活援助技術Ⅱ (清潔・衣) 日常生活援助技術Ⅲ (食・排泄) 診療に伴う技術 I (診療の補助技術) 診療に伴う技術 II (治療時の看護) 臨床看護総論 フィジカルアセスメント	1 1 1 1	30 30 30 30 30	45	30	30			

年次

. . . . . . .

1		授業科目	単位	時間	1年	淡	2年	E次	3 年	F次
					前期	後期	前期	後期	前期	後期
		成人看護学概論	1	30		30				
		成人看護学援助論I(急性期にある対象の看護)	2	45			45			i I
	成人看護学	成人看護学援助論Ⅱ(回復期にある対象の看護)	1	30			30			
		成人看護学援助論Ⅲ(慢性期にある対象の看護)	1	30				30		
		成人看護学援助論IV(終末期にある対象の看護)	1	30				30		
		成人看護学実習I(成人期の特徴をふまえた看護)	2	90			90			
	臨地実習	成人看護学実習Ⅱ (急性期・回復期の看護)	2	90					90	
		成人看護学実習Ⅲ(慢性期・終末期の看護)	2	90						90
.		小 計	12	435						
		高齢者看護学概論 I (老年期、加齢の概念)	1	15		15				
		高齢者看護学概論Ⅱ (高齢者と社会)	1	15		10	15			
	老年看護学		1	30			30			
		高齢者看護学援助論 I (日常生活援助と終末期看護)	1	30			30	30		
		高齢者看護学援助論Ⅱ (治療処置別・症状別看護)					4 =	30		
	臨地実習	高齢者看護学実習I(高齢者の理解)	1	45			45	105		
		高齢者看護学実習Ⅱ(高齢者の特徴をふまえた看護)	3	135				135		
専		小 計	8	270						
門		小児看護学概論 I (小児看護の役割)	1	15		15				
分	小児看護学	小児看護学概論Ⅱ(小児の成長と発達)	1	30			30			
野	/1 /0/日 12 1	小児看護学援助論I(疾患の理解と症状別看護)	1	30			30			
$\Pi$		小児看護学援助論Ⅱ(健康の段階、発達段階に応じた看護)	1	30				30		
	臨地実習	小児看護学実習	2	90					90	
		小計	6	195						
		母性看護学概論	1	15		15				
	口从毛类兴	母性看護学援助論 I (母性のライフサイクルと看護)	1	30			30			
	母性看護学	母性看護学援助論Ⅱ (妊娠期、分娩期の看護)	1	30			30			
		母性看護学援助論Ⅲ(産褥期、新生児期の看護)	1	30				30		
	臨地実習	母性看護学実習	2	90					90	
	MILT COV CI	小 計	6	195						
		精神看護学概論 I (精神看護の基本概念と精神の健康支援)	1	30		30				
		精神看護学概論 I (精神保健福祉活動の動向)	1	15		- 00	15			
	精神看護学		1	30			30			
		精神看護学援助論Ⅰ(精神疾患の理解と精神看護の特徴)	1	30			30	30		
	哈州宝羽	精神看護学援助論Ⅱ (疾病の経過に応じた看護)   禁油季薄学宝羽	2	90				30		00
	臨地実習	精神看護学実習 小計								90
			6	195						
		計 + ウェ * * # * * * * * * * * * * * * * * * *	38	1290	$\vdash$		1 =			
		在宅看護概論 I (在宅看護の概念)	1	15			15			
J	在宅看護論	在宅看護概論Ⅱ(在宅ケアシステム)	1	15			15			
		在宅看護援助論 I (日常生活援助・医療処置を伴う援助)	1	30				30		
		在宅看護援助論Ⅱ(在宅で療養する人と家族の援助)	1	30				30		
統	臨地実習	在宅看護論実習	2	90						90
合		小 計	6	180						
나	<del></del>	総合看護	1	30					30	
分野	看護の統合と	看護医療安全	1	30				30	$oldsymbol{L}$	
푀	実践	災害看護	1	30					30	
		看護技術評価	1	15					15	
,	臨地実習	統合実習	2	90						90
ľ	···· -2 * H	小計	6	195						
		計	12	375						
		H I	- 10	0.0	F 40		600	405	450	360
		İ			540	ກກກ	000	495	450	.)(1()
		合 計	99	3000	540 109	555 95	10	495 95	450 81	

# Ⅲ 実習要綱

# 1. 授業科目(臨地実習)

分野		授業科目	単位	時間	時期	施設	目的
専門	基礎	基礎看護学実習 I (療養生活の理解)	1	45	1年前期	病院	病院での療養生活を理解し、看護を実践 するための基礎的能力を養う。
分 野 I	看 護 学	基礎看護学実習Ⅱ (日常生活の援助)	2	90	1年 後期	病院	看護の対象者を理解し、対象者に合わせ た看護を実践するための基礎的能力を 養う。
	成	成人看護学実習 I (成人期の特徴を ふまえた看護)	2	90	2年前期	病院	健康障害をもつ成人期の対象の看護を 実践する能力を養う。
	人看護	成人看護学実習II (急性期・回復期の 看護)	2	90	3年前期	病院	急性期・回復期にある成人期の対象を理解し、看護が実践できる能力を養う。
	学	成人看護学実習Ⅲ (慢性期・終末期の 看護)	2	90	3年後期	病院	慢性期・終末期にある成人期の対象を理解し、看護が実践できる能力を養う。
	老年看護学	高齢者看護学実習 I (高齢者の理解)	1	45	2年前期	介護老人保健施設介護老人福祉施設	高齢者の特徴を理解し、看護の実践に必要な基礎的能力を養う。
専門分司		高齢者看護学実習Ⅱ (高齢者の特徴を ふまえた看護)	3	135	2年 後期	病院	疾病や障害をもちながら療養生活をお くる高齢者を理解し、看護を実践できる 能力を養う。
野Ⅱ	小児看護学	小児看護学実習	2	90	3年	特別支援学校病院	子どもとその家族を理解し、小児看護を実践する能力を養う。
	母性看護学	母性看護学実習	2	90	3年	病院	周産期の対象を通し、看護が実践できる 基礎的能力を養う。
	精神					病院	精神に障害のある対象の特徴を理解し、 看護を実践できる能力を養う。
	看 護 学	精神看護学実習	2	90	3年	社会復帰施設	社会復帰支援施設での活動を通して、精神に障害のある対象が地域で生活する ための支援について学ぶ。
	在宅					訪問看護 ステーション	在宅療養者とその家族を理解し、看護を 実践できる能力を養う。
統合分	在宅看護論	在宅看護論実習	2	90	3年	地域包括支援 センター	地域包括支援センターの活動の実際を 理解し、地域包括ケアについて学ぶ。
野	<b>看護の統</b>	統合実習	2	90	3年 後期	病院	既習の学習を統合し、専門職として看護 が実践できる能力を養う。

# 2. 実習計画表

月	4	5		6	7		8	9	1	.0	11	12		1	2	3
1年						基礎看護学実習Ⅰ	百叉			•			冬	基礎看護学実習Ⅱ		
2年					高齢者看護学実習Ⅰ		期	成人看護学実習Ⅰ					期休		高齢者看護学実習Ⅱ	
3年		看護学実習	人看護学実習 II 児看護学実習・母性看護学実神看護学実習・在宅看護論実	人看護学実習Ⅱ 児看護学実習・母性看護学実神看護学実習・在宅看護論実			暇		人看護学実習	人看護学実習Ⅲ 児看護学実習·母性看護学実 日本報告等	生 性 看 護 論 実 実	合実習	暇			

# 3. 実習施設

	病院	訪問看護ステーション					
1	滋賀県立総合病院	1	訪問看護ステーションなかさと				
2	近江八幡市立総合医療センター	2	訪問看護なかさとCCS				
3	滋賀医科大学医学部附属病院	3	市立野洲病院訪問看護ステーション				
4	滋賀県立小児保健医療センター	4	訪問看護ステーションヴォーリズ				
5	滋賀県立精神医療センター	5	甲賀市社協訪問看護ステーション				
6	市立野洲病院	6	友仁訪問看護ステーションすずらん				
7	湖南病院		地域包括支援センター				
8	公立甲賀病院	1	野洲市地域包括支援センター				
9	済生会滋賀県病院	2	守山市地域包括支援センター				
10	済生会守山市民病院	3	近江八幡市地域包括支援センター				
11	高島市民病院		養護学校				
12	東近江総合医療センター	1	滋賀県立草津養護学校				
13	淡海医療センター	2	滋賀県立野洲養護学校				
14	ヴォーリズ記念病院						
		精神障害者福祉施設					
		1	社会福祉法人こなんSSN				
			就労継続支援B型事業所こなんSSN				
	介護老人福祉施設	2	社会福祉法人こなんSSN				
1	ゆいの里	2	就労継続支援B型事業所 シエスタ				
2	淡海荘		介護老人保健施設				
3	悠紀の里	1	アロフェンテ彦根				
4	美松苑	2	寿々はうす				
5	桐生園	3	滋賀病院附属介護老人保健施設				
6	真盛園	4	ケアタウン南草津				
7	近江第二ふるさと園	5	ケアポート栗東				

# IV 行事計画

月	1年	2年	3年
4	入学式 入学時研修 合同親睦会 健康診断	始業式 合同親睦会 健康診断	始業式 合同親睦会 健康診断
5			
6	健康診断 特別講義(人権研修)	健康診断	健康診断
7	特別講義 大掃除	特別講義 大掃除	特別講義 2学科学習交流会 大掃除
8	夏期休暇	夏期休暇	夏期休暇
9			
1 0	防災訓練	防災訓練	防災訓練
1 1		2年次研修	
1 2	シンポジウム 個人情報保護研修 大掃除	シンポジウム 個人情報保護研修 大掃除	シンポジウム 個人情報保護研修 大掃除
1	冬期休暇	冬期休暇	冬期休暇
2			(看護師国家試験)
3	大掃除春期休暇	大掃除 春期休暇	大掃除卒業式
	11797111111111111111111111111111111111	10000000000000000000000000000000000000	

# V 授業科目内容

# 1. 基 礎 分 野

授	竞業科目	単位	時間
	物理学	1	3 0
科学的思考の基盤	国語表現法	1	1 5
付子の心与の基盤	情報科学	1	3 0
	環境人間学	1	3 0
	文化人類学	1	3 0
	人間関係論 I (人間関係形成の基礎)	1	3 0
	人間関係論Ⅱ (援助的人間関係の基礎)	1	1 5
	哲学	1	3 0
人間と生活、社会の理解	教育学	1	3 0
	心理学	1	3 0
	英語	1	3 0
	経済学	1	3 0
	芸術(身体表現)	1	1 5
合計		1 3	3 4 5

分野	基礎分野	授業 科目名	物理学	担当講師	
開始 年次	1年 前期	単位数 時間数	1 単位 3 0 時間	実 務 経 験	

授業の目的及びねらい 物理学の基本法則を理解して看護の実践場面で活用できる能力を養う。 授業のキーワード

	シキーワード シモーメント てこの原理	 ! ボディメカニクス <u> </u>	王力 体温制御	
時間	目標	主題	内容	指導方法
	1. 重いものを持つには どうしたらよいかが理 解できる。	(1) 力のモーメント	<ul><li>①力のモーメント(トルク) とは</li><li>②ものを支えるとは</li><li>③力のモーメントの応用</li><li>④看護動作にみられる力のモーメントの応用</li></ul>	講義
		(2) てこの原理	<ul><li>①第1、第2、第3種のてこ</li><li>②てこの原理の人体への活用</li></ul>	講義
		(3)筋肉の張力と関節に 働く力	①重いものを持つときの基本	講義
	2. ボディメカニクスに ついて理解できる。	(1)ボディメカニクスの 物理的重点事項	①水平移動、摩擦力 ②急激な速さや方向の変化をさける	講義
		(2)ボディメカニクスの 活用	遠心力、向心力 ① 育柱起立筋、椎間板にかかる力 ② ベッド上の対象の移動 ③ 体位変換の時の物理学的考察	講義講義
	3. 身近な圧力について 理解できる。	(1)圧力とは	①力と圧力の違い ②圧力の単位 ③大気圧の大きさ ④気圧の変化と人間	講義
		<ul><li>(2)体の重心の測定</li><li>(3)治療・検査に関する</li><li>物理学</li></ul>	①人体における重心の測定 ①酸素吸入 ②真空採血	講義
	4. 体温制御の物理が理 解できる。	(1)体温制御の物理	①温度と熱 ②身体各部の温度 ③身体の熱収支の計算 ④体温異常のメカニズム	
テキス	、ト・参考文献	「 完全版 ベッドサイドを	を科学する 一看護に生かす物理学―」	学研
成績評	で価の方法	筆記試験100%		

分野	基礎分野	授業 科目名	国語表現法	担当講師	
開始 年次	1年 前期	単位数 時間数	1 単位 1 5 時間	実 務 経 験	

- 1. 「読む」・「書く」・「話す」という日本語の表現方法の基礎を理解する。
- 2. 論文の書き方の基礎を理解する。
- 3. 論理的思考ができる能力を養う。

授業のキ	テーワード						
論文	論理的思考	読解力 文章表明					
時間	目標	主題	内容	指導方法			
	1. 論理的思考ができ る。	(1)論理的思考	①論理的思考の基礎 ②読解の仕方 ③表現力を磨く	講義			
	2. 論文の書き方が理解できる。	(1) 文章表現	<ul><li>①文章作成の原則</li><li>・テーマを見つけるコツ</li><li>・キーワードで正しい現状分析</li><li>・問題解決は「論理の3ステップで」</li><li>・事実を観察する目を育てる</li><li>・テーマのヒントは「日常の実践」にあり</li></ul>	講義			
			②文章作成の実際	演習			
テキスト	、・参考文献	指定なし					
成績評価	面の方法 <u>——</u>	筆記試験100%					

分野	基礎分野	授業科目名	情報	<b>殿科学</b>	担当講師	野村	佳絵子
開始 年次	2年 後期	単位数 時間数		単位 ) 時間	実 務 経 験		
授業の	目的及びねらい						
統計	の基礎を学び、調査及び	情報処理の基礎的	能力を養う。				
授業の	キーワード						
情報	調査分析	インターネッ	ト情報	設倫理 セ	キュリティ		
時間	目標	主題			内容		指導方法
	1. 統計学を学ぶ意義 を理解する。	(1)情報科学の基	(	①情報とは ②情報科学とは ③保健統計の必			講義
	2. 調査方法及び情報 の処理について理 解する。	(1) 調査データの		①扱う数字のタイプ ②母集団と標本 ③一つの変数の分折 ・度数分布表 ・基本統計量 ④二つの変数の分折 ・クロス集計 ・相関			講義
	3. コンピュータの基本 的な活用ができる。	(1)情報倫理とセティのための	のガイド (	①著作権 ②情報の公開と ③法律の遵守 ④就業規則関係		護	講義
		(2) コンピュータ のための基础		①基礎知識 ②インターネッ	ット		演習
		(3) ソフトウェア	(	①Word による〕 ②Excel による ③PowerPoint l 作成	表作成・グラ	フ作成	演習
テキス	ト・参考文献	指定なし	<u> </u>				1

- 12 -

筆記試験100%

成績評価の方法

分野	基礎分野	授業 科目名	環境人間学	担当講師	
開始 年次	1年 前期	単位数 時間数	1 単位 3 0 時間	実 務 経 験	

, , .	が人々の生活や健康に及る	」 ぼす影響について学び、人	間とその生活について理解する基礎的能力を	養う。
授業の	キーワード			
地球	環境  環境問題	現代社会の環境 滋	賀の環境	
時間	目標	主題	内容	指導方法
	1. 環境が人々の生活や健康に及ぼす影響について理解する。	(1)地球環境	①人々の生活と環境 地球環境問題	講義
	2. 環境の今後の課題について理解する。	(1) 環境問題の歴史	①環境問題の歴史的変遷 公害(大気、水、音、化学物質) 核実験 高度経済成長と大量消費 地球規模の環境破壊	講義講義
		(2) 現代社会の環境と 健康問題	①現代社会の環境からみた健康問題 オゾン層の破壊と紫外線 温暖化、乾燥化 大気汚染他	講義
		(3)環境問題克服のための取り組み	①環境問題の克服 概説 国連・政府の取り組み 環境法、環境経済の必要性、3R	講義
		(4)身近な環境	①滋賀の環境と環境問題の今後の課題 滋賀の環境 琵琶湖・山々・居住地	
テキス	、ト・参考文献	指定なし		
成績評	価の方法	筆記試験100%		

分野	基礎分野	授業 科目名	文化人類学	担当講師	
開始 年次	1年 前期	単位数 時間数	1 単位 3 0 時間	実 務 経 験	

授業の目的及びねらい
個人や社会、文化について、また、他民族の生活様式・風俗・儀礼などを学び、多様な人間と人間の生活について 理解する基礎的能力を養う。

授業の	キーワード			
人間	•	ールドワーク 異文化理	1	110000
時間	目標	主題	内容	指導方法
	1. 人間・社会・文化につ いての基礎を理解で きる。	(1)人間と文化	①言語とは何か ②シンボルと文化 ③異文化へのアプローチ ④フィールドワーク	講義
		(2)人間関係と社会	<ul><li>①男と女生殖、婚姻、家族</li><li>②おとなと子ども通過儀礼</li><li>③身内とよそ者親族、ネットワーク</li></ul>	講義
		(3)生活	①集団と社会 ②農耕、狩猟、経済	講義
		(4)信仰	①日常生活の中の宗教 ②信仰・世界観・儀礼	講義
		(5)死	①文化と身体観 ②文化と病気観 ③文化と病気治療 ④死の考え方 ⑤死者儀礼と先祖崇拝	講義
	2. 他民族の文化・社会を 通し、多様な人間につ いて理解できる。	(1)多様な人間・文化・ 社会	①他民族の多様な人間・文化・社会	講義
	ト・参考文献	指定なし		1
成績評	価の方法	筆記試験100%		

分野	基礎分野	授業	人間関	関係論 I	担当	
	<b>圣</b> 梴刀判	科目名	(人間関係	形成の基礎)	講師	
開始	   1年 前期	単位数		単位	実務	
年次	, , , , , , ,	時間数	3 (	)時間	経験	
	目的及びねらい		<b>広ナ</b> 、笠ノナン	との出土ナギミ		
	関係の基礎理論を理解し、 <i> </i>  キーワード		徐を染くたる	の犯別を養り	) <sub>o</sub>	
	·	     理解 コミ	ュニケーショ	ョン 集団詩	揺	
時間	目標	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			内容	指導方法
7,7	1. 保健・医療における人	(1)人間生活。	 と人間関係	①自己紹介・		講義
	間関係の重要性及び			②心の構造は	こついて	演習
	人間関係の理論と技			③自己を知る	ること	
	法を理解できる。			④人間関係の	りとらえ方	
		(a) ±1. Δ (b) ==		(A) = 1 Not	·	-44- A
	2. 社会的相互作用と社	(1)社会的相互	1.作用	①自己と他者		講義
	会的役割が理解で きる。			③他者による	ティティと人間関係	演習
	<i>≥</i> ⊘。				の承認 五作用を規定する要因	
					出た用を規定する安因 過程、集団討議	
					四年、未四中城	
		(2)社会的役割	割	<ul><li>①社会的役割</li></ul>	削とは	講義
				②役割関係に	こおける葛藤とその解決	
				_		
	3. 人間関係形成の技法が	(1) コミュニ			ケーション理論	講義
	理解できる。	の理論と	<b>美</b> 際	(2)プライン	ドウォークの体験	演習
		(2) 人間関係	向トへのフ	①休龄学羽;	を通して基本姿勢の理解	講義
		は八川関係	H] T. (0)//	共感的理解		演習
		1//			ャ 音を受容する	181
				感受性を豊		
					EN (-) W	
テキス	ト・参考文献	指定なし				•

筆記試験100%

成績評価の方法

分野	基礎分野	授業 科目名		関係論Ⅱ 間関係の基礎)	担当講師	中村	珠美
開始年次	2年 後期	単位数 時間数		単位 5時間	実 務 経 験		
	<u> </u>  目的及びねらい	时间级	1	0 时间	产 架		
	かのは、	   ・	して仙老レ問	U区を筑くためσ	)能力を養る		
	カラー フェン を A )キーワード	日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日		可が色栄くため	7胎月で食 万	)	
		」 1者理解 カウ	ンセリング	援助的コミ	ミュニケーシ	ョン	
時間	目標	主題		450,731.13	内容		指導方法
	1. カウンセリングの基	(1)カウンセリ		①カウンセリン			講義
	本的理論について理			②対人援助の種	類		演習
	解できる。			③人の話を聞く	くこと		
				④カウンセリン		態度	
				⑤カウンセリン			
				⑥人間関係のと	こらえ方		
	2. 援助的コミュニケー	   (1)援助的コミ	ュニケーシ	   ①自己理解と化	11者理解の宝	摩	講義
	ションの実際につい	ヨン		②アイコンタク			演習
	て理解できる。			③繰り返し	. = , .,	-	
				④座り方			
				⑤表現の読み取	対り方		
ニュっ	· 1 . <del>公本·</del> 本	七分とこ					
アキス	(ト・参考文献	指定なし					
\\\		<i>/</i> //	2.0/				
灰績計	価の方法	筆記試験100	J%				

分野	基礎分野	授業 科目名	哲学	担 当 講 師	眞泉 善章
開始 年次	3年 前期	単位数 時間数	1 単位 3 0 時間	実 務 経 験	

- 1. 人間の存在の意味や本質のとらえ方を学び、人間観を深める。
- 2. 人間の生と死に対する考えを深め、倫理観を養う。

授業のキーワー	K.
1 <del>2 x</del> 0/1 /	١,

授業のキ	ーワード			
人間の	存在 生と死 倫理	! 人権 価値観		
時間	目標	主題	内容	指導方法
	1. 哲学とは何かが理 解できる。	(1)哲学とは何か	①哲学の成立 ②哲学と宗教 ③科学と哲学	講義
	2. 近代の思想とは何かが理解できる。	(1) 諸外国の哲学家の 思想	①近代とは何か ②西洋近代思想 カント デカルト ロック	講義
	3. 生命倫理問題の経緯とその特質について理解できる。	(1)生命倫理とは	①生命倫理の基本的な考え方 ②人格論 胎児や脳死など	講義
	4. 生命の扱いに関す る実践問題につい て理解を深める。	(1)生と死について	①日本人の死生観 ②安楽死・尊厳死について	講義演習
テキスト	・参考文献	指定なし	1	
成績評価の方法		筆記試験100%		

分野	基礎分野	授業 科目名	教育学	担当講師	
開始 年次	1年 前期	単位数 時間数	1 単位 3 0 時間	実 務 経 験	

- 1. 教育の意義や目的を理解する。
- 2. 人間の成長と教育のあり方を理解する。
- 3. 現代の教育の現状と諸問題・課題が理解できる。

人間	学習教育	<u></u> 育     成長		
時間	目標	主題	内容	指導方法
	1. 人間の成長・発達と 教育が理解できる。	(1)人間の成長・発達と教育	<ul><li>①教育とは</li><li>②人間と学習</li><li>③社会と教育</li><li>④教育の必要性</li></ul>	講義
		(2)子どもの教育と社会	①教育の目的 ②家庭、学校、社会の教育 ③人間の発達と教育	講義
	2. 現代の教育の現状 と課題が理解でき る。	(1)家族の変容と教育	①女性の家族における地位 ②日本における主婦の誕生と変化	講義
	<i>•</i> ⊌₀	(2)子ども観、教育観の変遷	①普遍的でない子ども価値 ②日本における家庭教育の変化 ③サラリーマン家庭の意識	講義
		(3) 現代家族の課題	①貧困 ②虐待 ③生活習慣	講義
		(4)教育・保育の歴史	①保育制度の発展 ②公教育制度	講義
		(5) 学校教育の諸問題	①学校教育とジェンダー ②教育における「平等」と「不平等」 ③学校種間連携と接続	講義
		(6) 学校と地域の連携	①学校・家庭・地域の連携 ②チーム学校	講義
		(7)生涯教育について	①生涯学習と社会教育 ②生涯学習の指導者の役割	講義
テキス	ト・参考文献	「改訂 未来に生きる教育学		
			J WAY A FAMILY	
成績評	価の方法	筆記試験100%		

分野	基礎分野	授業科目名		心理学	担当講師		
開始	1年 前期	単位数		1単位	実 發	;	
年次	\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	時間数		3 0 時間	経験		
	目的及びねらい		ルトフ甘	で林みかとします。辛ょう			
	]のこころや行動について学 )キーワード	一首し、八囘を理解	‡9 0 基	(地)			
人間		 知    脳	記憶	知能 学習	発達		
時間	目標	主題	口口心	八明 丁日	<u> </u>		指導方法
. 3163	1. 心理学とは何か理解	(1)心理学の問題	i	①心理学の対象、		 考え方	講義
	できる。	(1) 1 1 1 7 1 1 1	•	②心理学の領域	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	3,2,3	演習
				③心理学の方法			, , ,
	2. 人間の知覚の成立条	(1)知覚の心理		①知覚の成立条件	牛		講義
	件を学び知覚・認知			②知覚の種類			演習
	とズレについて理解			③脳とこころ			
	できる。						
	3. 記憶と忘却について	(1)記憶の心理		①記憶の諸相	②記憶		講義
	理解できる。			③忘却の心理	4記憶	の工夫	演習
		/1\ H + + + 1/4 =	<b>==</b> ∓	<u>ОН</u> <b>Ж</b> /КП	⊙ <b>ш</b> ±и	上 の 3% 土	=#± <del>} /-</del>
	4. 思考・想像の相違点	(1)思考・想像・	言語の	①思考作用		力の発達	講義
	と共通点と言語の機 能について理解で	心理		③創造性 ⑤言語の心理	<ul><li>4.想像</li></ul>	の心理	演習
	きる。						
	5. 知能の発達と知能検	(1)知能の心理		①知能とは			講義
	査について理解で			②知能の発達と変	変化		叶子文
	きる。			③知能検査	~ 1		
	6. 学習理論と学習に影	(1)学習の心理		①学習の種類		②学習理論	講義
	響する条件を理解で			③学習に影響する		④練習の心理	
	きる。						
	7. 感情・情緒・情操に	(1)感情・情緒・情	青操の	①感情の心理		②情緒の心理	講義
	ついて理解できる。	心理		③情操の心理			
	8. 自己と他者、個人と	(1)適応の心理		①人と環境		②適応・不適応	講義
	集団について理解で			③適応の規制			-11.37
	きる。	(2)性格の心理		①性格の形成		>	講義
		(の) 佐口のき四		性格の理解、性の形式した		、適性検査	±# <del>*</del> ±
		(3)集団の心理		①集団の形成と村田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田		海しひたこと	講義
				個人と集団、第 ②集合行動	未凶り符		演習
	   9. 人間各期の発達段階	(1)発達の心理		②集合11動 ①発達の原理			講義
	の特徴とその心理に	(エ/ プロスモップ/ロジエ		②発達段階の特征	戦		四十字式
	ついて理解できる。	   (2)医療と心理学	:	①心の病と心理療	-		講義
テキス	ト・参考文献	心理学「カレ					404
成績評	価の方法	筆記試験100%	%				

分野	基礎分野	授業 科目名	英語	担当講師	
開始 年次	1年 後期	単位数 時間数	1 単位 3 0 時間	実 務 経 験	

- 1. 国際化に対応できるコミュニケーション手段としての英語力、特に「聞く」・「話す」・「読む」能力を養う。
- 2. 英語の文献が読解できる能力と日常生活の英会話ができる能力を養う。

読解	力 ヒアリング コミュニ	ケーション能力 国際化				
時間	目標	主題	内容	指導方法		
	1. 英文を読んで和訳する ことができる。	(1) 読解力	①英文の資料にそって和訳	講義		
	2. 英文を聞き内容が理解で きる。	(1) ヒアリング	①外国映画の鑑賞	講義		
	3. 英会話ができる。	(1)日常生活の英会話	①オーラルコミュニケーショ ンの育成	講義		
			②医療現場での英会話	演習		
テキスト・参考文献		Introduction to Medical English				
上个生主	価の方法	「医療英語入門-医療の現場から日常のシーンまで」松柏社				
<i>万</i> 义消具 計	·IMIVノ <i>刀 伝</i>	筆記試験100%				

分野	基礎分野	授業 科目名	経済学	担講	当 師	木下 英雄
開始 年次	3年 前期	単位数 時間数	1 単位 3 0 時間	実経	務 験	

日本経済の動向を理解し、社会の状況を把握するための基礎的能力を養う。

授業のキーワード 日本経済の動向

日本経済の動向 日本経済を取り巻く諸問題

		対参く諸問題		
時間	目標	主題	内容	指導方法
	1. 「経済学とは」を理解できる。	(1)経済学とは	<ul><li>①経済学の考え方</li><li>②経済学の分類</li><li>ミクロ経済学とマクロ経済学</li><li>③経済学の必要性</li></ul>	講義
	2. 日本経済の動向について理解できる。	(1)日本経済のあゆみと 経済政策	①戦後の経済再建と高度経済成長 ②石油危機と成長率の低下 ③バブルの発生と崩壊	講義
		(2)世界経済の変化と日本	①世界経済の動向 ②国際金融市場の動向 ③国際貿易システムの変容	講義
		(3)日本経済の現状	①長期停滞とデフレ ②財政赤字の拡大と再建への取り組 み ③デフレ下の金融政策 ④日本経済の課題	講義
	3. 日本経済を取り巻く 諸問題について理解 できる。	(1)雇用環境の変化と課題	①労働需給の変化と雇用のミスマッチ ②日本的雇用慣行の変容 ③非正規雇用増加の背景と課題	講義
		(2) 国民生活の現状と格差 問題	①家計の消費・貯蓄の現状 ②家計保有資産の現状と特徴 ③所得格差と貧困	講義
		(3) 少子高齢化時代の社会 保障	①年金・医療・介護 ②子育て支援 ③社会保障と税の一体改革	講義
テキスト	・参考文献	「日本経済読本 第19版」	東洋経済新報社	
成績評価	の方法	筆記試験100%		

分野	基礎分野	授業 科目名	芸 術 (身体表現)	担当講師	岩下 徹
開始 年次	2年 前期	単位数 時間数	1 単位 1 5 時間	実 務 経 験	

# 授業のキーワード

感性 感情 自己表現

感性	感情 目己表現					
時間	目標	主題	内容	指導方法		
	1. 身体表現とは何かを 理解できる。	(1)身体表現	①身体表現とは	講義		
	2. 身体の開放とリフレッシュができる。	(1)感情表現	①身体感覚の自覚 ②身体のほぐし ③身体を意識した二人の動き	講義演習		
	3. 自己表現ができる。	(1)心地よい自分なりの 表現 (2)規律と自由	<ul><li>①決められた動きではなく、自身で動きの創作</li></ul>	講義演習		
テキス	ト・参考文献	指定なし				
成績評価の方法		筆記試験100%				

# 2. 専 門 基 礎 分 野

	授業科目	単位	時間
	解剖生理学 I (細胞と組織、運動器、アレルギー・免疫)	1	3 0
1/4の排光が終光	解剖生理学Ⅱ(呼吸器・循環器・血液)	1	3 0
人体の構造と機能	解剖生理学Ⅲ(消化器・腎泌尿器、生殖器)	1	3 0
	解剖生理学IV(神経、内分泌、感覚器)	1	3 0
	生化学	1	3 0
	栄養学	1	3 0
	薬理学	1	3 0
	微生物学	1	3 0
	病理学	1	1 5
	疾病・治療論 I (筋・骨格器系疾患、アレルギー・免疫疾患)	1	3 0
疾病の成り立ちと	疾病・治療論 II(呼吸器疾患、循環器疾患)	1	3 0
回復の促進	疾病・治療論Ⅲ(血液・造血器疾患、消化 器疾患)	1	3 0
	疾病・治療論IV(腎・泌尿器疾患、女性生殖器疾患)	1	3 0
	疾病·治療論V(脳神経疾患、内分泌疾患)	1	3 0
	疾病·治療論VI(感覚器疾患)	1	1 5
	公衆衛生学	1	1 5
	健康支援論	1	1 5
健康支援と	リハビリテーション論	1	1 5
社会保障制度	社会保障制度	1	3 0
	総合医療論	1	1 5
	関係法規	1	1 5
合計		2 1	5 2 5

分野	専門基礎分野	授業 科目名	解剖生理学 I (細胞と組織、運動器、アレルギー・免疫)	担当講師	
開始 年次	1年 前期	単位数 時間数	1 単位 3 0 時間	実 務 経 験	

- 1. 看護の対象である人間の正常な生命活動の理解のために、筋骨格系、生体の防御機構のからだの構造と生理機能について学ぶ。
- 2. 人体をそのはたらきから捉え、器官系を有機的に結びつけて理解を深める。
- 3. 疾病によって人体が受ける構造と機能の変化を学習する土台となる正常な人体について理解する。
- 4. 看護学における援助技術等の学習の基礎知識として、日常生活行動と生命活動のつながりと人体が日常生活行動をどのようなしくみで行っているかを理解する。

を	どのようなしく	くみで行って	いるかを理	理解する。						
授業の	)キーワード									
人体	xの基本単位	細胞	組織	骨	骨格	筋	皮膚	膜	免疫	
時間	目標	票		主題			内约	容		指導方法
	1. 解剖生理学 識が理解で		(2)細胞・	上理学の理・組織 ・組織 と機能から		①人体の	はどのよう 素材として :機能からみ	の細胞・約	組織	講義
	2. 筋・骨格系 能が理解で		(1)骨格系	系・筋系		②骨の連 ③骨格筋 ④体幹の ⑤上肢の ⑥下肢の	骨格と筋 骨格と筋 骨格と筋 の骨格と筋			講義
	3. 生体の防御 ついて理解		(1)皮膚 (2)免疫 (3)体温			①皮膚の ①生体の ①体温と				講義
テキス	スト・参考文献		「系統看	護学講座	人体の	- 構造と機能	〔1〕解剖	生理学」	医学書院	Ž L
成績評	呼価の方法		筆記試馬	<b>倹100</b> %	o o					

分野	専門基礎分野	授業 科目名	解剖生理学Ⅱ (呼吸器・循環器・血液)	担当講師	
開始 年次	1年 前期	単位数 時間数	1 単位 3 0 時間	実 務 経 験	

- 1. 看護の対象である人間の正常な生命活動の理解のために、血液、循環器系、呼吸器系のからだの構造と生理機能について学ぶ。
- 2. 人体をそのはたらきから捉え、器官系を有機的に結びつけて理解を深める。
- 3. 疾病によって人体が受ける構造と機能の変化を学習する土台となる正常な人体について理解する。
- 4. 看護学における援助技術等の学習の基礎知識として、日常生活行動と生命活動のつながりと人体が日常生活行動をどのようなしくみで行っているかを理解する。

#### 授業のキーワード

血液 循環 リンパ管

時間	目標	主題	内容	指導方法
	1. 循環器系の構造と機 能が理解できる。	(1)循環器系	①循環器系の構成 ②心臓の構造 ③心臓の拍出機能 ④末梢循環系の構造 ⑤血液の循環とその調節	講義
	2. 血液の機能について 理解できる。	(1)血液系	①血液の循環とその調節 ②リンパ管 ③血液	講義
	3. 呼吸器系の構造と機 能が理解できる。	(1)呼吸器系	①呼吸器の構造 ②呼吸	講義
	ト・参考文献		    の構造と機能〔1〕解剖生理学」 医学	<b>書院</b>
成績評	価の方法	筆記試験100%		

分野    専門基礎分野		授業	解剖生理学Ⅲ	担当	
刀町	守门左啶刀到	科目名	(消化器・腎泌尿器、生殖器)	講師	
開始	1年 前期	単位数	1単位	実 務	
年次	1 十 削粉	時間数	3 0時間	経 験	

- 1. 看護の対象である人間の正常な生命活動の理解のために、消化器系、腎泌尿器系、生殖器系のからだの構造と生理機能について学ぶ。
- 2. 人体をそのはたらきから捉え、器官系を有機的に結びつけて理解を深める。
- 3. 疾病によって人体が受ける構造と機能の変化を学習する土台となる正常な人体について理解する。
- 4. 看護学における援助技術等の学習の基礎知識として、日常生活行動と生命活動のつながりと人体が日常生活行動をどのようなしくみで行っているかを理解する。

授業のキーワード									
栄養		吸収	泌尿器	生殖器	体液	受精	成長	老化	
時間		標		主題			内容		指導方法 講義
	1. 消化器系の能が理解で		(1)消化器系		②腹部 ③膵臓	①ロ・咽頭・食道の構造と機能 ②腹部消化管の構造と機能 ③膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能 ④腹膜			
	2. 泌尿器系の能が理解で		(		②排尿	①腎臓の構造と機能 ②排尿路 ③体液の調節			講義
	3. 生殖器系の 能が理解で		(2) 生殖器系		①男性 ②女性 ③受精 ④成長	生殖器 と胎児の発	生		講義
テキス	テキスト・参考文献		「系統看護学講座 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学」 医学書院				₹		
成績評	価の方法		筆記試	験100%					

分野	専門基礎分野	授業	解剖生理学IV	担当	
刀到	守门座爬刀打	科目名	(神経、内分泌、感覚器)	講師	
開始	1年 前期	単位数	1単位	実 務	
年次	1 十 削捌	時間数	3 0 時間	経 験	

- 1. 看護の対象である人間の正常な生命活動の理解のために、神経系、内分泌系、感覚器系のからだの構造と生理機能について学ぶ。
- 2. 人体をそのはたらきから捉え、器官系を有機的に結びつけて理解を深める。
- 3. 疾病によって人体が受ける構造と機能の変化を学習する土台となる正常な人体について理解する。
- 4. 看護学における援助技術等の学習の基礎知識として、日常生活行動と生命活動のつながりと人体が日常生活行動をどのようなしくみで行っているかを理解する。

授業の	キーワード					
中枢	神経 末梢神経 視	覚 聴覚 呼	嗅覚	自律神経	内分泌	
時間	目標	主題			内容	指導方法
	1. 自律神経系の構造と機 能が理解できる。	(1) 自律神経系		①自律神経の機能 ②自律神経の構造 ③自律神経の神能		講義
	2. 内分泌系の構造と機能 が理解できる。	(1) 内分泌系		<ul><li>①内分泌系による</li><li>②全身の内分泌</li><li>③ホルモン分泌</li><li>④ホルモンによる</li></ul>	腺と内分泌細胞 の調節	講義
	3. 神経系の構造と機能が 理解できる。	(1)神経系		①神経系の構造。 ②脊髄と脳 ③脊髄神経と脳 ④脳の高次機能 ⑤運動機能と下る ⑥感覚機能と上る ⑦自律神経の構造	神経 行伝導路 行伝導路	講義
	4. 感覚器の構造と機能が 理解できる。	(1)感覚器系		①眼の構造と視 ②耳の構造と聴 ③嗅覚と味覚 ④頭痛	_	講義
テキス	ト・参考文献	「系統看護学講座	人体	の構造と機能〔1	[〕解剖生理学] 医学	<b>計</b> 院
成績評	価の方法	筆記試験100%	)			

分野	専門基礎分野	授業 科目名	生化学	担 当 講 師	
開始 年次	1年 前期	単位数 時間数	1 単位 3 0 時間	実 務 経 験	

生きする		 ける様々な物質やそこで起	こる様々な化学反応やプロセスを分子レ	ベルで理解
	<u>。</u> キーワード			
生命	現象 生体成分 作	 V謝 ATP D	NA RNA ホルモン	
時間	目標	主題	内容	指導方法
	1. 医学を学ぶ者として臨 床医学と生化学の関係 が理解できる。	(1)生化学とは	①医学と生化学 ②生体分子 ③生体の構成物質	講義
	2. 解剖生理学で学んだ内容をもとに、細胞小器官内での生化学的反応が理解できる。	(1) 細胞の基本構造と 機能	<ul><li>①細胞の基礎</li><li>②膜</li><li>③細胞骨格</li><li>④細胞小器官</li></ul>	講義
	3. 生体を構成する細胞の 周期と細胞増殖の機構 が理解できる。	(1)生体成分の構造と 機能	<ul><li>①糖質</li><li>②脂質</li><li>③アミノ酸とタンパク質</li><li>④核酸</li></ul>	講義
		(2)代謝	<ul><li>①酵素と代謝</li><li>②エネルギー代謝とその調節</li><li>③糖質の代謝</li><li>④脂質の代謝</li><li>⑤アミノ酸とタンパク質の代謝</li><li>⑥代謝のまとめ</li><li>⑦ヌクレオチドの代謝</li></ul>	講義
		(3) 核酸とタンパク質 の生合成	①核酸の構造と機能 ②DNAの複製 ③DNAの修復 ④RNAの合成 ⑤タンパク質の生合成 ⑥遺伝の生化学	講義
		(4)ホメオスタシスと ホルモン	<ul><li>①ホルモンの分類</li><li>②ホルモンの作用機序</li><li>③ホルモン各論</li></ul>	講義
テキス	ト・参考文献	「系統看護学講座 人体	」 本の構造と機能〔2〕生化学」 医学書院	<u> </u>
成績評	が価の方法	筆記試験100%		

分野	専門基礎分野	授業 科目名	栄養学	担当講師	
開始 年次	1年 後期	単位数 時間数	1 単位 3 0 時間	実 務 経 験	

- 1. 人間にとっての栄養の意義を理解する。
- 2. 臨床栄養の基礎知識を学び、食事療法の基本を理解する。

栄養	素 栄養所要量 生	 ニ活習慣病と栄養    臨	訴栄養	
時間	目標	主題	内容	指導方法
	1. 人間にとっての栄養の 意義を理解できる。	(1)栄養学とは	①栄養学のなりたちと目的	講義
		(2) 栄養素	<ul><li>①各栄養素の栄養的目的と役割</li><li>・糖質</li><li>・タンパク質</li><li>・脂質</li><li>・ビタミン</li><li>・ミネラル</li></ul>	講義
		(3)エネルギー代謝と エネルギー所要量	①エネルギー代謝 ②食事摂取基準とエネルギー必要量 ③ライフステージと栄養 ④食品構成と各種食品の特徴	講義
		(4) 栄養状態の判定	①栄養状態の判定 ②わが国の栄養の現状と栄養改善 ③飲食物の摂取と消化・吸収	講義
	2. 臨床栄養の基礎知識を 学び、食事療法の基本	(1)臨床栄養の意義	①臨床栄養の意義	講義
	が理解できる。	(2)食事療法の概要	①食事療法の概要 ・栄養状態の評価 ・栄養摂取経路の選択 ・摂取エネルギーの求め方 ・疾病時の栄養所要量 ・病人食の種類 ・食事療法 ②疾患別食事療法の実際	講義
テキス	、ト・参考文献	「系統看護学講座 人体	本の構造と機能 [3] 栄養学」 医学書院	
成績評	価の方法	筆記試験100%		

分野	専門基礎分野	授業 科目名	薬理学	担当講師	
開始 年次	1年 後期	単位数 時間数	1 単位 3 0 時間	実 務 経 験	

薬物の特徴と作用機序、人体への影響について理解する。

薬理作用	体内動態
**************************************	

薬理	!作用 体内動態			
時間	目標	主題	内容	指導方法
	1. 薬物の特徴と作用機 序、人体への影響に ついて理解できる。	(1)薬理学総論	①薬理学の概念、薬事法規 ②薬理作用 ③薬効に影響を及ぼす要因 ④薬の有害作用 ⑤薬の適用 ⑥各種製剤と処方箋 ⑦処方の実際と看護	講義
		(2) 薬理学各論	①抗感染症薬 ②抗がん薬 ③免疫治療薬 ④抗アレルギー薬・抗炎症薬 ⑤末梢での神経活動に作用する薬物 ⑥中枢神経系に作用する薬物 ⑦心臓、血管系に作用する薬物 ⑧呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物 ⑨物質代謝に作用する薬物 ⑩皮膚科用薬・眼科用薬 ⑪救急の際に使用される薬物 ⑫漢方薬	講義
テキス	ト・参考文献	「ナーシンググラフィカ	疾病の成り立ち② 臨床薬理学」 メデ	<u> </u> ィカ出版
成績評	価の方法	筆記試験100%		

分野	専門基礎分野	授業 科目名	微生物学	担当講師	
開始 年次	1年 後期	単位数 時間数	1 単位 3 0 時間	実 務 経 験	

- 1. 微生物の特徴と生体に及ぼす影響を理解する。
- 2. 感染症の基礎知識を学び、感染症対策の基礎を学ぶ。

成集のスーク   ド						
時間	目標	主題	内容	指導方法		
	1. 微生物の特徴と生体に 及ぼす影響を理解でき る。	(1) 微生物学の基礎	①微生物と微生物学 ②細菌の性質 ③真菌の性質 ④原虫の性質 ⑤ウイルスの性質	講義		
	2. 感染症の基礎知識を学び、感染症対策の基礎について理解できる。	(1)感染とその防御	①感染と感染症 ②感染に対する生体防御機構 ③感染源・感染経路からみた感染症 ④感染症の予防 ⑤感染症の診断 ⑥感染症の治療 ⑦感染症の現状と対策	講義		
	3. 主な病原微生物の感染の特徴と診断・治療について理解できる。	(1)おもな病原微生物	①病原細菌と細菌感染症 ②病原真菌と真菌感染症 ③病原原虫と原虫感染症 ④おもなウイルスとウイルス 感染症	講義		
テキスト・参考文献		「系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進 [4] 微生物学」 医学書院				
成績評価の方法		筆記試験100%	0%			

分野	専門基礎分野	授業 科目名	病理学	担当講師	
開始 年次	1年 前期	単位数 時間数	1 単位 1 5 時間	実 務 経 験	

- 1. 病理学の概念を理解する。
- 2. 先天的異常の成り立ち、種類を理解する。
- 3. 組織の退行変性や過形成など進行変性による疾患の成り立ちを理解する。
- 4. 血液の循環障害による疾患の成り立ちを理解する。
- 5. 炎症の定義、病変、種類、免疫と疾患について理解する。
- 6. 腫瘍の定義、性質、種類について理解する。

び、						
病因 - 先天異常 - 代謝障害 循環障害 炎症 免疫 - 腫瘍						
時間	目標	主題	内容	指導方法		
. 31143	1. 病理学の概念が理解でき	(1)病理学の概念	①病理学とは	講義		
	る。	(1) / 3, 11 3	②病因論	11.132		
			③疾病の分類			
	2. 細胞・組織の変性の成り	(1)細胞・組織の障害	①細胞の損傷と修復	講義		
	立ちが理解できる。	と修復	委縮、肥大、過形成、化生、			
			壊死			
			②組織の修復と創傷治癒			
	3. 血液の循環障害による疾	(1)循環障害	①循環血液量の障害	講義		
	患の成り立ちを理解でき		浮腫、充血、うっ血、虚血、			
	る。		出血、ショック			
			②閉塞性の循環障害			
			血栓症、塞栓症、梗塞			
			播種性血管内血液凝固症候群			
	4. 先天異常と遺伝子異常の	(1) 先天異常・遺伝子	①先天異常の分類	講義		
	成り立ち、種類を理解で	の異常	遺伝障害・胎児障害			
	きる。		②染色体異常と遺伝性疾患			
			③奇形と胎児障害			
	- 小海町かかってファナロの任	/₃\/\∴≐6LV <del>∀</del> ₹₽₽	④先天異常の診断・治療	=#: <del>} ;</del>		
	5. 代謝障害による疾患の種	(1)代謝障害	①脂質代謝障害	講義		
	類と成り立ちを理解でき		②タンパク質代謝障害			
	<b>る</b> 。		③糖質代謝障害 ④そのほかの代謝障害			
	   6. 炎症の定義、病変、種類	(1)炎症と免疫	①炎症とその分類	講義		
	免疫と疾患について理解	(1) 火炬 乙元/文	②免疫と免疫不全	四件寻戈		
	できる。		③アレルギーと自己免疫疾患			
	7. 腫瘍の定義、性質、種類	(1)腫瘍	①腫瘍の定義と分類	講義		
	について理解できる。	(1/1) (1/1)	②悪性腫瘍の広がりと影響	III-4X		
	(4 2 ( 4 2 1) ( 6 2 0 0		③腫瘍の発生病理			
			4腫瘍の診断と治療			
テキスト・参考文献		「系統看護学講座 疾	病のなりたちと回復の促進 [1] 病理学	<u> </u>		
			<u>医</u>	学書院		
成績評	価の方法	筆記試験100%				

分野	専門基礎分野	授業 科目名	疾病・治療論 I (筋・骨格器系疾患、アレルギー・免疫疾患)	1旦	当師	
開始 年次	1年 後期	単位数 時間数	1 単位 3 0 時間	実	務験	

- 1. 筋・骨格系疾患の病態生理、検査、治療を理解する。
- 2. アレルギー疾患・免疫疾患の病態生理、検査、治療を理解する。

		の病態生理、検査、治療を理解	解する。	
, , .	キーワード			
	1		態生理検査治療	T
時間	目標	主題	内容	指導方法
	1. 筋・骨格系疾患の病態生理、検査、治療について理解できる。	(1)筋・骨格系疾患の病態生理と治療	①病態生理と治療(外科治療を含む) ・骨折、脱臼、神経の損傷 ・筋・腱・靱帯の損傷 ・先天性疾患 ・骨・関節の炎症性疾患 ・骨腫瘍 ・神経の疾患 ・椎間板ヘルニア ・脊髄腫瘍 ・脊髄損傷 ・上肢、下肢の疾患 ・ロコモティブシンドローム・運動器 不安定症 ②主な検査 ・画像検査 ・関節造影、脊髄造影検査 ・関節強 ・関節液検査 ・関節液検査	講義
	2. アレルギー疾患・免疫疾患の病態生理、検査、治療について理解できる。	(1)アレルギー・免疫疾患の病態生理と治療	①病態生理と治療 ・アレルギー反応とその機序 ・アレルギー疾患 ・関節リウマチ ・全身性エリテマトーデス ・強皮症 ・皮膚筋炎・多発性筋炎 ・血管炎症候群 ・膠原病類縁疾患 ②主な検査 ・血液検査 ・免疫学的検査 ・画像検査	講義
テキスト・参考文献			護学〔10〕運動器」 医学書院 護学〔11〕アレルギー 膠原病 感染症」医	学書院
成績評価の方法		筆記試験100%		

分野	分野  専門基礎分野		疾病・治療論Ⅱ (呼吸器疾患、循環器疾患)	担 当 講 師	
開始 年次	1年 後期	単位数 時間数	1 単位 3 0 時間	実 務 経 験	

- 1. 呼吸器疾患の病態生理、検査、治療を理解する。
- 2. 循環器疾患の病態生理、検査、治療を理解する。

授業のキーワー	K.	

42 42 1 4	)キーワード			
	と	病態生理 検査	治療	
時間	目標	主題	内容	指導方法
	1. 呼吸器疾患の病態生理、 検査、治療について理解 できる。 2. 循環器疾患の病態生理、 検査、治療について理解 できる。	(1) 呼吸器疾患の病態 生理と治療 (1) 循環器疾患の病態 生理と治療	①病態生理と治療(外科治療を含む) ・気道の疾患 気管支拡張症 慢性肺疾患 ・肺の疾患 ・肺結核、肺気腫、肺線維症 肺炎、間質性肺疾患 ・肺腫瘍 ・胸膜・縦隔・横隔膜の疾患 ・胸部外傷 ②主な検査 ・両保験検査 ・内視機能査 ・呼吸機検査 ・呼吸機検査 ・喀痰検査 ・性検理と治療(外科治療含む) ・心整脈 ・心症を患 ・心症を患 ・心筋疾患 ・心筋疾患 ・心筋疾患 ・心筋疾患 ・心筋疾患 ・心筋疾患 ・心が変さ ・血管の者 ・心臓が疾患 ・心が変さ ・血管の者 ・心臓が変さ ・血管の者 ・心臓が変さ	講義
テキス		「系統看護学講座 成人 「系統看護学講座 成人	 看護学〔2〕呼吸器」 医学書院 看護学〔3〕循環器」 医学書院	
成績評	価の方法	筆記試験100%		

分野 専門基礎分野		授業	疾病・治療論Ⅲ		当	
刀割	守门基礎刀到	科目名	(血液・造血器疾患、消化器疾患)	講	師	
開始	1年後期	単位数	1 単位	実	務	
年次		時間数	3 0 時間	経	験	

- 1. 血液・造血器疾患の病態生理、検査、治療を理解する。
- 2. 消化器疾患の病態生理、検査、治療を理解する。

授業のキーワード	٠
----------	---

授業の	キーワード			
血液	で・造血器疾患が消化	器疾患病態生理	検査 治療	
時間	目標	主題	内容	指導方法
	1. 血液・造血器疾患の 病態生理、検査、治 療について理解でき る。	(1)血液・造血器疾患の病態生理と治療	<ul><li>①病態生理と治療</li><li>・貧血</li><li>・白血病</li><li>・悪性リンパ腫</li><li>・多発性骨髄腫</li><li>・播種性血管内凝固症候群</li><li>②主な検査</li><li>・末梢血検査</li><li>・骨髄検査</li><li>・リンパ節生検</li></ul>	講義
	2. 消化器疾患の病態 生理、検査、治療に ついて理解できる。	(1)消化器疾患の病態生理と治療	①病態生理と治療(外科治療を含む) ・食道の疾患(食道癌) ・胃・十二指腸潰瘍 ・胃癌 ・腸および腹膜疾患:潰瘍性大腸炎 クローン病、腹膜炎 ・ヘルニア ・イレウス ・腸管ポリープ ・結腸癌・直腸癌 ・肛門疾患 ・肝臓・胆嚢・胆管の疾患 肝炎、肝硬変症、門脈圧亢進症、肝癌、胆石症 ・膵臓の疾患:膵炎、膵癌 ②主な検査 ・肝機能検査 ・ 回像検査 ・ 内視鏡検査 ・ 腹部超音波検査 ・ 肝生検	講義
テキス	ト・参考文献	「系統看護学講座 成人看 「系統看護学講座 成人看	護学〔4〕血液・造血器」 医学書院 護学〔5〕消化器」 医学書院	
成績評	価の方法	筆記試験100%		

分野	専門基礎分野	授業 疾病・治療論IV 科目名 (腎・泌尿器疾患、女性生殖器疾患)		担講	当師	有村 哲朗 四元 文明
開始 年次	2年 前期	単位数 時間数	1 単位 3 0 時間	実 経	務 験	

- 1. 腎泌尿器疾患の病態生理、検査、治療を理解する。

2. 女	で性生殖器疾患の病態生理	、検査、治療を理解する。		
授業の	キーワード			
腎泌	<b>尿器疾患</b> 女性生殖	器疾患病態生理	検査治療	
時間	目標	主題	内容	指導方法
N/IEJ	1. 腎泌尿器疾患の病態 生理、検査、治療に ついて理解できる。	(1)腎・泌尿器疾患の病態生理と治療	①病態生理と治療(外科治療を含む) ・腎不全 急性腎不全、慢性腎不全 ・糸球体腎炎 ・ネフローゼ症候群 ・尿路感染症 ・結石症 ・尿路の腫瘍 腎実質腫瘍 腎盂及び尿管腫瘍 膀胱腫瘍、尿道腫瘍 膀胱腫瘍、尿道腫瘍 ・泌尿器の疾患 先天異常 前立腺肥大、前立腺癌 ②主な検査 ・尿検査 ・腎機能検査 ・均視鏡検査	講義
	2. 女性生殖器疾患の病態生理、検査、治療について理解できる。	(1) 女性生殖器疾患の病態生理と治療	①病態生理と治療(外科治療含む) ・性分化疾患 ・膣炎 ・子宮がん ・子宮筋腫 ・子宮内膜症 ・卵巣腫瘍 ・月経異常 ・更年期障害 ・不育症 ・性感染症 ・乳がん ②主な検査 ・画像検査 ・内視鏡検査 ・対視鏡検査 ・細胞診 ・ホルモン測定	講義
テキスト・参考文献			看護学〔8〕腎・泌尿器」 医学書院 看護学〔9〕女性生殖器」 医学書院	
成績評	価の方法	筆記試験100%		

分野	専門基礎分野	授業 科目名	疾病・治療論V (脳神経疾患、内分泌疾患)	担講	当師	長谷川 浩史 北条 雅人
開始 年次	2年 前期	単位数 時間数	1 単位 3 0 時間	実経	務験	
授業の目的及びねらい						

- 1. 脳神経疾患の病態生理、検査、治療を理解する。
- 2. 内分泌・代謝系疾患の病態生理、検査、治療を理解する。

授業の	キーワード			
脳神	経疾患 内分泌・代	謝系疾患病態生理	検査治療	
時間	目標	主題	内容	指導方法
	1. 脳神経疾患の病態生理、検査、治療について理解できる。	(1)脳神経疾患の病態 生理と治療	①病態生理と治療(外科治療を含む) ・脳血管障害 ・脳腫瘍 ・パーキンソン病 ・脊髄小脳変性症 ・多発性硬化症 ・多発性硬化症 ・神経・筋疾患 重症筋無力症 進行性筋ジストロフィー 筋萎縮性側索硬化症 ②主な検査 ・画像検査 ・髄液検査 ・脳波 ・筋電図	講義
	2. 内分泌・代謝系疾患 の病態生理、検査、 治療について理解で きる。	(1) 内分泌・代謝系疾 患の病態生理と治 療	①病態生理と治療 ・下垂体の疾患	講義
テキス	ト・参考文献		 看護学〔7〕脳・神経」 医学書院 看護学〔6〕内分泌・代謝」 医学書院	
成績評	価の方法	筆記試験 100%		

分野	専門基礎分野	授業 科目名	疾病・治療論VI (感覚器疾患)	担当講師	岸本
開始年次	2年 後期	単位数 時間数	1 単位 1 5 時間	実 務 経 験	
-	H // H 493 > 1	411-422/	2 3 3 114	, L. 197	

1 50			F11H13A	10	μ./1 [H]			
	目的及び 治器系疾患の		 査、治療につい	て理解する。				
	キーワー							
45 45 1 4		· 耳鼻咽喉疾	I 患    眼疾患	皮膚疾患	息病態生理	検査	治療	
時間		目標	主		<u> </u>		.,,,,,,	指導方法
村田	生理、	呼疾患の病態 検査、治療に 理解できる。	生理と治療	患の病態	①病態生理と治療 ・中耳炎、難聴 ・副鼻腔炎、鼻 ・上顎癌 ・喉頭癌 ・で頭癌 ・口唇裂、口蓋・②主な検査 ・聴力検査 ・平衡機能検査 ・内視鏡検査	(外科治療を 、メニエー/ 炎 裂		講義
		の病態、生理、 治療について きさる。	(1) 眼疾患の病 療	態生理と治	・画像検査 ①病態生理と治療 ・結膜炎、屈折・白内障、緑内 ・糖尿病性網膜・斜視 ・眼瞼疾患 ②主な検査 ・視力・屈折・し ・眼底検査	異常 璋、網膜剥腐 症		講義
	理、検	度患の病態、生 査、治療につ 2解できる。	(1)皮膚疾患の と治療	病態生理	①病態生理と治療 ・湿疹・皮膚炎・皮膚感染症 (一般細菌・腫瘍性疾・膠原病・薬疹・毒傷・薬傷・水の骨質を変える。 (2)主な検査・パッチには、 (2)主な検査・パッチに関係をしている。 (2)主な検査・パッチに関係をしている。 (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4)	、蕁麻疹 真菌・ウイバ		講義
テキス	ト・参考)	文献	「系統看護学詩	構座 成人看護	学〔12〕皮膚」  图 学〔13〕眼」 医等 学〔14〕耳鼻咽喉」	学書院	Ž	
成績評	価の方法		筆記試験	100%				

分野	専門基礎分野	授業 科目名	公衆衛生学	担当講師	苗村 光廣
開始 年次	3年 前期	単位数 時間数	1 単位 1 5 時間	実 務 経 験	

- 1. 公衆衛生の概念を理解し、地域で生活するさまざまな人の健康維持・増進のために、我が国がどのような法制度に基づいて活動がなされているかを学ぶ。
- 2. 地域における保健活動の実際を学ぶ。

授業のキーワー	ド
1 X <del>7 C</del> V J <sup>*</sup> 1	

健康	キーリート 生活		制度	保健活動	公衆衛生	
時間	1	 目標	111-3/2	主題	内容	指導方法
71.4		の概念を理解で	(1)	公衆衛生の理念		講義
	の法制度は	連康増進のため および保健活動 里解できる。	, ,	公衆衛生の技術	①疫学と健康指標 ②健康づくりを支援する新しい健康教育 ③集団とコミュニケーションを対象と した政策立案 ④活動計画と実践評価のプロセス	講義
			(2)	地域保健	①母子保健 ②成人・老人保健 ③精神保健 ④歯科保健 ⑤感染症対策 ⑥難病支援・障害支援	講義
			(3)	学校と健康	①学校保健	講義
			(4)	職場と健康	①産業保健	講義
テキス	ト・参考文献			系統看護学講座 国民衛生の動向」	健康支援と社会保障制度〔2〕公衆衛生」 厚生労働統計協会	医学書院
成績評	価の方法		7.1	筆記試験100%	/o	

分野	専門基礎分野	授業 科目名	健康	支援論	担当講師		
開始 年次	1年 後期	単位数 時間数		単位 時間	実 務 経 験		
授業の	目的及びねらい				<u> </u>		
人間	にとっての健康の意味を理	  解し、健康を維	持・増進する	るための能力を	き養う。		
授業の	キーワード						
健康	ライフスタイル	健康行動	生活習慣	QOL	環境	予防	
時間	目標	主是	頁		内容		指導方法
	1. 健康を取り巻く現代 社会の状況が理解 できる。	(1)現代社会の 支援	現状と健康	②疾病構造の ③健康の価値 ④ライフスタ ⑤健康支援	D変化 直観の多様化	環境の変化	講義
		(2)健康支援の	方向性		こ根ざしたQ 寮、看護の健 害要因の除去	康アプローチ と促進要因	講義
		(3)健康支援の	取り組み	①個人の自己 ②セルフケフ ③行政責任 ④個人と行政	ア (自助) (公助)	助)	講義
	2. 健康のレベルを向上 させる理論について 理解できる。	(1)健康支援に デルと概念	関係するモ	①健康信念 7 ②エンパワッ ③セルフケブ	メント		講義
		(2)健康支援の	実際	①事例を通し 支援される	って理論の理 る立場からの	• •	演習
テキス	ト・参考文献	「系統看護学記 「国民衛生の動		援と社会保障 生労働統計協		·衆衛生」 医	_  学書院

筆記試験100%

成績評価の方法

分野	専門基礎分野	授業 科目名	リハビリテーション論	担当講師	中馬 孝容 川上 寿一 新里 修一
開始 年次	2年 前期	単位数 時間数	1 単位 1 5 時間	実 發 経 駿	
		ı			

授業の目的及びねらい リハビリテーションの基本的な考え方を理解し、QOLの向上を目指した支援に対する能力を養う。

		本的な考え方	を理解し、QOLの「	句上を目指した	上支援に対する	5能力を養う。	
42 42 1 4	キーワード						
	ビリテーション	障害分類	障害の評価	障害受容	QOL	ノーマライゼ	
時間	目標		主題		内容		指導方法
	1. リハビリテーションの考え方が 理解できる。	(1) リハビリ	テーションの定義		テーションのえ		講義
		(2) リハビリ	テーションの目標	O	てのノーマラ <i>/</i> イゼーションの		講義
		(3) リハビリ	テーションの分野	②職業的リノ ③教育的リノ	ハビリテーシ: ハビリテーシ: ハビリテーシ: ハビリテーシ:	ョンョン	講義
		(4) リハビリ システム	テーション医療		テーションの? 療としてのリ/	荒れ ハビリテーショ	講義
	2. リハビリテーションにおける倫理と法的問題が理解できる。	(1)障害の定		④障害の分類	ご義 対する施策の፺ 質と構造	変遷と基本理念	講義
		(2) 障害の評	価	①機能障害6 ②日常生活館 ③社会活動物 ④主観的障害	能力の評価	り評価	講義
	3. リハビリテーションを必要とす	(1)運動器系 テーショ	の障害とリハビリ ン	①運動機能	章害と日常生活 柔群	舌動作	講義
	る対象の特徴が 理解できる。	(2) 中枢神経 リテーシ	系の障害とリハビ ョン	②高次脳機能	害のリハビリラ 間障害のリハ i のリハビリテー	ビリテーション	講義
			環器系の障害と テーション		ヘビリテーショ 疾患のリハビ!		講義
		(4) 感覚器系 ーション	の障害とリハビリテ	① 視覚障害	害、聴覚障害		講義
	ト・参考文献		<b>洋講座 別巻 リハヒ</b>	゛リテーション	看護」 医学	書院	
成績評	価の方法	筆記試験	100%				

分野	専門基礎分野	授業 科目名	社会保障制度	担当講師	川口 啓子
開始 年次	2年 後期	単位数 時間数	1 単位 3 0 時間	実 務 経 験	

社会保障の理念を理解し、社会の中で生活する人の生活問題に対する法律、政策を学ぶ。

授業のキーワード 憲法 人権 生活者 生活問題 社会保障 社会福祉

憲法			·福祉 Total Control Con	140346 1 3/1.
	目標	主題	内容	指導方法
	1. 社会保障の理念と基本的な制度が理解できる。	(1)社会保障の概念	①社会保障の理念 ②社会保障の目的 ③社会保障の機能 ④社会保障の体系	講義
		(2) 我が国の社会保障 制度	①社会保障制度の動向 ②医療保障制度 ③介護保障制度(介護保険制度) ④所得保障 (所得保障制度・ 年金保険制度・労働保険制度) ⑤社会福祉行政のしくみ 社会福祉と医療・看護との連携 社会保障、社会福祉からみた連携を めぐる課題	講義
	2. 社会福祉の理念と、生活 者としての問題に対する 政策が理解できる。	(1)社会福祉とは	①社会福祉の考え方 ②社会福祉の動向 ③社会福祉法	講義
		(2) 現代社会の変化	<ul><li>①人口の変化</li><li>②地域社会の変化</li><li>③家族・個人の変化</li><li>④経済状況の変化</li><li>⑤雇用状況の変化</li></ul>	講義
		(3) 社会福祉の諸制度と 施策	①老人福祉法 ②障害者基本法 障害者総合支援法 身体障害者福祉法 知的障害者福祉法 精神保健福祉法 ③母子及び父子並びに寡婦福祉法 児童福祉法 ④生活保護法	講義
テキス		統看護学講座 健康支援と 祉小六法」 中央法規	社会保障制度〔3〕社会保障・社会福祉」	医学書院
成績評	価の方法	記試験100%		

分野	分野    専門基礎分野	授業	総合医療論	担当	一山智		
刀割	号[**] 基礎刀對 	科目名		講師	谷口泰弘		
開始	3年 前期	単位数	1単位	実 務			
年次	3 平 削捌 	時間数	15時間	経 験			
授業の	目的及びねらい						
医療	医療の現状と課題を学び、看護師の果たすべき役割を理解する。						
授業の	キーワード						

生命	健康	医療の歴史	医療システム 医療の	つ現状 倫理 医療の動向 地域医療	
間		目標	主題	内容	指導方
	1. 医療・ラ 解できる	看護の原点が理る。	(1) 生命と健康	①生命現象と死 ②健康とは	講義
			(2)病気	①生活と病気	講義
			(3)医療の考え方	①医療的ケア	講義
		歴史と医療観の	(1)医療の歴史	①現代医療の起源	講義
	変遷が	理解できる。		②20 世紀の医療	
				③医療観の移り変わり	
		本の医療システ	(1)生活と医療との関連	①日本の保険医療のしくみ	講義
	ムが理解	解できる。		②生活と環境衛生、保健・福祉行政	
				③疾病の一次予防と生活習慣病	
				④障害者プラン ⑤こころの健康と精神医療	
				<b>少ここの</b> が廃棄る精神医療	
	4. 医療技術	析の進歩の成果	(1) 先端医療技術と課題	①現代医療技術の成果と影響	講義
	と課題に	こついて理解で		②産業社会の発展と健康への影響	
		対する人々の意	(1)医療体制と人々の	①日本の医療供給体制	講義
	識変革は	こついて理解で	意識	②人々の意識	
	きる。			③インフォームドコンセントの法理	
				④医療情報の開示と診療録	
	6. 医療をと	めぐる新たな視	(1)医療の論理	①人々の受療行動	講義
	点が理解	解できる。	(2)医療の倫理	①生命倫理学	講義
			(3)医療の管理	①医療の質	講義
				②医療の技術評価	
	7. 今後の日	医療のあり方と	(1)保健医療の動向と	①保健・医療の新しい動向	講義
	医療者は 理解でき	こ必要な資質が	医療者の資質	②医療者-患者関係の未来像と求められる る資質	
	土力干へ	こ <i>、</i> シ。		③チーム医療・チームケア	
				<ul><li>④プライマリーケアの将来像</li></ul>	
				⑤医療におけるケアの視点	
				⑥地域包括支援システムの展開	
				⑦保健・医療システムと住民の役割	
キス	ト・参考文	献	系統看護学講座 健康	支援と社会保障制度〔1〕総合医療論」 医学	学書院
	価の方法		筆記試験100%		

分野	専門基礎分野	授業 科目名	関係法規	担当講師	西田 浩美
開始 年次	3年 前期	単位数 時間数	1 単位 1 5 時間	実 務 経 験	

- 1. 保健師助産師看護師法を中心に、看護職を取り巻く法的背景を理解する。
- 2. 関係法規を学ぶことにより、看護職の責任と役割を理解する。 授業のキーワード

医事	デーリード 」 「法 保健師助産師看護師	法 医療法 責任と役害	ıļ	
時間	目標	主題	内容	指導方法
	1. 法に関する基礎的知識と、関係法令の基本となる法を理解できる。	(1) 法の概念	①看護業務を規定する法と倫理 ②看護者の責務と倫理 ③法の概念 ④医療職のための法規 ⑤厚生労働行政のしくみ	講義
	2. 看護活動に直接的・間接的に関連する法規が理解できる。	(1)保健師助産師看護師法の 歴史的変遷	①保健師助産師看護師法の構造 ②保健師助産師看護師の定義 ③免許・籍の登録・国家試験 ④保健師助産師看護師法の変遷	講義
		(2) 看護に関連する法規	①看護師等の人材確保の促進に関する法律と就職 ②看護師を巡る新しい動き 医療事故、行政処分 ③医師法 ④医療法 ⑤保健衛生法 ⑥薬務法 ⑦社会保険法 ⑧福祉法 ⑨労働法 ⑩個人情報保護に関する法律	<b>業</b>
テキス	、ト・参考文献	「看護六法」 新日本法規	と社会保障制度〔4〕看護関係法令」 労働統計協会	医学書院
成績評	価の方法	筆記試験100%		

# 3. 専 門 分 野 I

	授業科目	単位	時間
	基礎看護学概論	1	3 0
	共通基本技術 I (技術の概念・人間関係成立の技術)	1	1 5
	共通基本技術 II (環境・バイタル・感染予防)	1	3 0
	共通基本技術Ⅲ (看護過程)	2	4 5
基礎看護学	日常生活援助技術 I (運動・休息)	1	3 0
<b>全</b> 爬有成 1	日常生活援助技術 II (清潔・衣)	1	3 0
	日常生活援助技術Ⅲ(食・排泄)	1	3 0
	診療に伴う技術 I (診療の補助技術)	1	3 0
	診療に伴う技術Ⅱ (治療時の看護)	1	3 0
	臨床看護総論	1	3 0
	フィジカルアセスメント	1	3 0
(臨地実習)	基礎看護学実習 I (療養生活の理解)	1	4 5
	基礎看護学実習Ⅱ (日常生活の援助)	2	9 0
合 計		1 5	465

分野	専門分野 I	授業 科目名	基礎看護学概論	担当講師	
開始 年次	1年 前期	単位数 時間数	1 単位 3 0時間	実務     経験	

- 1. 看護の基本となる概念を理解する。
- 2. 看護職者を取り巻く環境、及び専門職者としての責任と義務について理解する。
- 3. 看護の歴史をふまえ、近代理論家の看護を理解する。

授業のキーワード

人間	健康  環境(生活) 看	護 看護理論 看護史	保健・医療・福祉サービス 専門職	
時間	目標	主題	内容	指導方法
	1. 看護とは何かが理解できる。	(1)看護の概念	①看護とは ②看護の定義 ③看護の役割と機能 ④看護実践に求められる倫理	講義
	2. 近代看護の歴史が理解 できる。	(1)職業としての看護の 歴史	①職業としての看護のはじまり ②職業としての看護の確立 ③職業としての看護の充実 ④職業としての看護の新たな展開	講義
	3. 看護の対象としての人間が理解できる。	(1)統合体としての人間	①生物体・心理社会的存在としての 人間 ②ライフコースと人間 ③人間の欲求と行動	講義
		(2)環境と人間	①環境とは ②人に影響を及ぼす環境要因 ③個人・家族・コミュニティ・ 地域社会	講義
	4. 健康について理解できる。	(1)健康の概念	①健康とは ②健康の定義 ・WHOの定義 ・ヘルスプロモーション ・障害の定義 ③人間の健康に影響する要因	講義
		(2)健康に関する統計	①人々の生活と健康を示す統計 ・出生から死亡に関する統計	講義
	5. 専門職としての看護職者について理解できる。	(1)専門職としての看護	①専門職とは ②看護の専門職化 ・法的な規定	講義
		(2) 看護職の養成制度	①看護職の養成制度と就業状況 ②看護基礎教育 ③継続教育 ・専門看護師 ・認定看護師 ・認定看護師 ・認定看護管理者 ・特定行為にかかる看護師の研修 制度	講義

			④看護職者の養成制度の課題	
	6. 看護を取り巻く保健医療福祉サービスが理解できる。	(1)保健・医療・福祉サー ビスにおける看護	①保健、医療、福祉とは ②保健・医療・福祉サービスにおける 理念 ③保健・医療・福祉における看護	講義
		(2) 保健・医療・福祉の提供システム	①保健・医療・福祉サービスのシステム ②保健・医療・福祉サービスを構成する専門職とその役割 ③看護の提供の場 ・医療施設における看護 ・福祉施設における看護 ・地域における看護 ・地域における看護 ・人口における看護	講義
	7. 看護実践のための理論が理解できる。	(1)看護理論	①看護理論とは ②看護理論の分類 ③看護理論の変遷	講義
		(2)近代看護理論家の 理論	①フローレンス・ナイチンゲール ②ヴァージニア・ヘンダーソン ③アイダ・ジーン・オーランド ④アーネスティン・ウィーデンバッグ ⑤ジーン・ワトソン ⑥ドロセア・オレム ⑦ジョイス・トラベルビー ⑧カリスタ・ロイ ⑨パトリシア・ベナー ⑩ヒルデガード・ペプロウ	講義
テキスト・参考文献 「系統看護学講座 基礎看護学〔1〕看護学概論」 医学書院 「看護覚え書き」 現代社				
成績評	価の方法 筆記試	験 100%		

八田マ	古田八田(1	授業	共通基本	文技術 I	担当		
分野	専門分野 I	科目名	(技術の概念・人間	間関係成立の技術)	講師		
開始	1年 前期	単位数	1単位		実務		
年次		時間数	1 5	時間	経験		
	目的及びねらい						
	における共通基本技術	を学び、	<b></b> 「護を実践するため	の基礎的能力を養う	) <sub>0</sub>		
12/2/14	)キーワード						
	術 個人情報 看護記	録 人間		ション クリティズ		・ング リフレクシ	
時間	目標	(a \ 1.1.4);**	主題		内容		指導方法
	1. 看護技術の概念	(1)技術		①技術の定義			講義
	とその重要性が	(o) <del>手是</del> #+	+/ <del>+</del> /-	②技術の本質	:		<b>:</b> #¥
	理解できる。	(2)看護拉	文/们	①看護技術の定義 ②看護技術の特徴			講義
				③看護技術の原則			
				安全性・安楽		ht。	
				4 看護技術の範囲		1工 //土/月 1工	
				⑤実践に必要な要			
				・クリティカル		グ	
				・リフレクショ			
	2. 記録の目的と管	(1)診療性	青報と看護記録	①診療情報とは			講義
	理が理解できる。			②看護記録とは			
				・看護記録の法	的位置づ	け	
				③看護記録の目的	と意義		
				④看護記録の構成			
				・基礎情報(フ	゜ロフィー	ルを含む)	
				・看護計画			
				<ul><li>経過記録(フ</li></ul>		トを含む)	
		(a) 录》 <del>读</del> 。	生却よい トッドコ 臼 の	・看護サマリー			# <b>÷</b>
		(2) 診療 取り扱	青報および記録の		八宵報		講義
		以り扱	V	②記録の媒体   ③記録の留意事項	し営田		
				・記録の開示	(乙目)生		
				4)看護学生の臨地	宝習にお	ける情報と記録の	
				管理	17 H (C40		
				11.7			
	3. 看護における人	(1)看護(	こおける人間関係	①人間関係と看護	į		講義
	間関係の重要性			②相互信頼関係の	構築		
	を理解し、その成						
	立のための技法	(2) コミュ	ュニケーション	①コミュニケーシ			講義
	が習得できる。			②コミュニケーシ			
				③コミュニケーシ			
						ユニケーション	
				・コミュニケー			
				<ul><li>④コミュニケーシ</li><li>⑤コミュニケーシ</li></ul>			
				⑤コミュニケーシ ロールプレイ			
				プロセスレコ			演習
テキス	 、ト・参考文献	 「系 <i>統</i>	護学講座 基礎看護			医学書院	以日
				学〔1〕 <u>看護学概</u>		医学書院	
_ <u></u>		.,		~ 1 ( = ) : DHX 1 M	-1142	→ 1 日/L	

筆記試験100%

成績評価の方法

分野	専門分野 I	授業 科目名	共通基本技術Ⅱ (環境・バイタル・感染予防)	担当講師	
開始 年次	1年 前期	単位数 時間数	1 単位 3 0時間	実 務 経 験	

看護における共通基本技術を学び、看護を実践するための基礎的能力を養う。

	キーワード	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □		
環境 時間	<u>バイタルサイン</u> 目標	<ul><li>感染予防 標準予防策 主 題</li></ul>	内 容	指導方法
NA INT	1. 生活環境を調整することの重要性を理解し、その方法が習得できる。		①環境とは ②環境因子 ③環境調整の意義 ④望ましい環境条件	講義
		(2)健康障害のある人と 生活環境	光 音 室内気候 臭い 空気 プライバシー 色彩 ①入院生活の場における構造・設備・システム 病院・病棟・病室・病床 ②入院生活の場において求められる環境	講義
		(3) 入院生活の場における環境整備	・入院生活を安全におくるための環境 ・入院生活を安楽におくるための環境 ・医療者が治療・検査・看護を効果的・ 効率的に行うための環境 ③環境因子としての看護師 ①環境整備の目的 ②環境整備における看護師の役割 ③環境整備の視点	講義
			<ul><li>④病床環境の整備</li><li>&lt;環境整備&gt;</li><li>≪ベッドメーキング≫</li></ul>	演習
	2. バイタルサインの 測定技術が習得できる。	(1)バイタルサインの測定	①バイタルサインとは ②体温測定 ③脈拍測定 ④呼吸測定 ⑤経皮的動脈血酸素飽和度の測定 ⑥血圧測定 (アネロイド血圧計・電子血圧計)	講義
		(A) pot depende DVI	《バイタルサイン測定》	演習
	3. 感染予防の技術が 習得できる。	(1)医療関連感染	①感染・感染症とは ②医療関連感染とは ③感染の成立と経路	講義
		(2) 感染予防	①感染予防の目的 ②感染予防の方法 標準予防策(スタンダード・プリコーション) ③感染経路別予防策 ④洗浄・消毒・滅菌	講義
			消毒液の希釈法 ⑤感染性廃棄物の取り扱い ⑥針刺し防止策	

	(3) 感染予防の実際	①手指衛生	
		②エプロン・マスクの着脱	
		③無菌操作	
		・滅菌物の取り扱い	
		≪衛生学的手洗い・滅菌物の取り扱い	演習
		滅菌手袋の着脱・防護用具の着脱≫	
テキスト・参考文献	「系統看護学講座 基礎看護	学〔2〕基礎看護技術 I 」 医学書院	
	「系統看護学講座 基礎看護	学〔3〕基礎看護技術Ⅱ」 医学書院	
	「ビジュアル臨床看護技術力	「イド」 照林社	
	「ナーシング・グラフィカ	基礎看護学② ヘルスアセスメント」 メディス	カ出版
成績評価の方法	技術試験 30% 筆記記	<b>試験</b> 70%	

分野	古田八昭 1	授業	共通基本技術Ⅲ	担当	
刀割	専門分野 I	科目名	(看護過程)	講師	
開始	1 年 後期	単位数	2単位	実 務	
年次	1年 後期	時間数	4 5 時間	経 験	

看護における問題解決過程を学び、看護が取り扱うべき問題を判断し介入するための基礎的能力を養う。

# 授業のキーワード

看護過程 ゴードンの機能的健康パターン NANDA-I看護診断

看護	過程 ゴードンの機能	的健康パターン NANI	OA-I 看護診断	
時間	目標	主題	内容	指導方法
	1. 看護過程が理解で	(1)看護過程とは	①看護過程の定義	講義
	きる。		②看護過程の意義	
			③看護過程の構成要素	
			④看護過程と記録	
			⑤看護過程を展開するために必要な能力	
		(2)アセスメント	①情報源・情報収集の手段・情報の種類	講義
		(情報収集)	②情報収集における倫理的配慮	
			③プロフィール	
			④アセスメント (情報収集) の方法	
			データベースアセスメント	
			焦点アセスメント	
			⑤看護診断のためのアセスメントツール	
			・ゴードンの機能的健康パターン	演習
			健康知覚/健康管理パターン	
			栄養/代謝パターン 排泄パターン	
			活動/運動パターン 睡眠/休息パターン	
			認知/知覚パターン	
			自己知覚/自己概念パターン	
			役割/関係パターン	
			セクシュアリティ/生殖パターン	
			コーピング/ストレス耐性パターン	
			価値/信念パターン	
		(3) アセスメント	①情報の整理	講義
		(情報分析)	②分析	演習
			③統合	,
			<b>④</b> 照合	
		(4)問題の明確化	①看護診断	講義
			②看護援助(ケア)	
			③共同問題	
			④優先順位の決定	

	(5)計画	①目標の設定 a)看護診断における目標設定 b)共同問題における目標設定 ②看護問題における援助の目的 ③具体策の立案 a)具体策立案時の留意点 b)具体策の考え方 c)クリティカルパス 標準看護計画(SCP)	講義
	(6) 実施	<ul><li>①対象者の状態の確認</li><li>②対象者への説明と同意</li><li>③実施</li><li>④報告</li><li>⑤日々の看護の評価</li></ul>	講義
	(7)評価	①評価の時期 ②評価の方法	講義
	(8)対象者の全体像 (関連図)	①関連図とは ②関連図作成の目的 ③関連図の作成方法	講義
	(9)事例による看護過程の展開		演習
		書院	出版
成績評価の方法	筆記試験100%		

分野	専門分野 I	授業	日常生活援助技術 I	担当	
刀到	守门万到 I 	科目名	(運動・休息)	講師	
開始	1 年 前期	単位数	1 単位	実 務	
年次	1年 前期	時間数	3 0 時間	経 験	

運動と休息の看護を実践するための基礎的能力を養う。

授業のキーワード

間	目標	主 題	内 容	指導方法
	1. 看護におけるボデ	(1)ボディメカニクス	①ボディメカニクスとは	講義
	ィメカニクスにつ		②看護におけるボディメカニクスの意義	
	いて理解できる。		③ボディメカニクスの原則	
	2. 安楽な体位・体位変	(1)安楽な体位	①体位の種類・特徴	講義
	換・移動・移乗・移		②体位による影響	
	送に関する技術を		③安楽な体位の保持	
	習得できる。	(2)体位変換の援助	①体位変換とは	講義
			②体位変換の目的・方法・留意点	
		(3)移動・移乗・移送の	①移動・移乗・移送とは	講義
		援助	②歩行・移乗・移送の援助における目的・	n11.12
		1/2-/-7	方法・留意点	
		(4)安楽な体位・体位変		演習
		換•移動•移乗•移送		1只日
		の援助の実際	《車いす・ストレッチャーの移送》	
		v / 1反り,1º / 大l尓	≪歩行介助≫	
	   3. 活動・運動について	(1)活動	①活動とは	講義
	理解することがで	(1)(白男)	②生活における活動の区分	研我
	きる。		・1次活動・2次活動・3次活動	
			③日常生活動作(ADL)と手段的日常生活	
			動作(IADL)	
		(a) VIII	④活動の意義	-:44-34-
		(2)運動	①運動とは	講義
			②運動機能の観察点	
			a)動作 b)姿勢 c)筋系	
			d) 骨格系 e) 関節可動域	
			≪筋力の測定・関節可動域の測定≫	演習
	4.休息・睡眠について	(1)休息・睡眠	①休息・睡眠とは	講義
	理解することがで		②休息・睡眠の意義	
	きる。		③休息・睡眠に影響する要因	
		(2)休息・睡眠に関する	①休息・睡眠における看護師の役割	講義
		援助	②休息・睡眠に関する観察点	
			③休息・睡眠に関する援助	
		(3) リラクセーション	①リラクセーションとは	講義
		を促す援助	②リラクセーションを促す援助	
			筋弛緩法 自律訓練法 タッチング	
			罨法 指圧 マッサージ	
			呼吸法 アロマセラピー 音楽療法	
キス	ト・参考文献 「系統	看護学講座 基礎看護学	〔3〕基礎看護技術Ⅱ」 医学書院	
			礎看護学② ヘルスアセスメント」 メディカ	出版
		ュアル臨床看護技術ガイ		
	価の方法 筆記	試験 100%		
		• •		

八田マ	<b>声</b> 明八熙 I	授業	常生活援助技術Ⅱ	担当	
分野	専門分野 I	科目名	(清潔・衣)	講師	
開始	1年 後期	単位数	1単位	実務	
年次		時間数	30時間	経験	
	目的及びねらい !・衣生活の看護を実践す	スたみの甘葉的船力	た差ら		
*****	キーワード	公元(8707至)使り)旧/7	と食り。		
清潔	, - ,				
時間	目 標	 主 題		内 容	指導方法
	1. 日常生活における清	(1) 日常生活におり	する ①日常生活にお	ける身体の清潔	講義
	潔行動を理解し、清	身体の清潔とは	入浴・整容		
	潔に関する技術が習		②身体の清潔 (	(入浴・整容) の意義	
	得できる。		③身体の清潔 (	入浴・整容) に影響する要因	
		(2)清潔の援助	①清潔 (入浴・) 役割	整容)の援助における看護師の	講義
			②清潔の援助に	関する観察点	
			・援助の必要	性を判断するための観察点	
			・援助内容・	援助方法を決定するための	
			観察点		
			・援助の効果	・方法の妥当性を判断する	
			ための観察	為	
			③入浴の援助に	おける目的・方法・留意点	
			入浴・シャワ	一浴・全身清拭・洗髪・	
			手浴・足浴・	陰部洗浄	
			④整容の援助に	おける目的・方法・留意点	
			<b>整髪・髭剃り</b> のケア・口腔	・洗面・爪切り・耳のケア・鼻	
		(3)清潔の援助の実	祭 《全身清拭》		演習
			《洗髮》		
			≪手浴・足浴	・陰部洗浄≫	
			《口腔ケア》		
	2. 日常における衣生活	(1)衣生活とは	①衣服を用いる		講義
	を理解し、衣生活に		②衣生活に影響	, , ,	
	関する技術が習得で	(2)衣生活の援助		助における看護師の役割	講義
	きる。		0	ける衣類の選択	
				に関する観察点	
				性を判断するための観察点	
				援助方法を決定するための	
			観察点		
				・方法の妥当性を判断する	
			ための観察	<b>点</b>	

「系統看護学講座 基礎看護学〔3〕基礎看護技術II」 医学書院 「ビジュアル臨床看護技術ガイド」 照林社

(3)衣生活の援助の

実際

成績評価の方法 筆記試験100%

寝衣交換

《寝衣交換》

<寝衣・リネン交換>

④衣生活の援助における目的・方法・留意点

演習

分野	専門分野 I	授業 科目名	日常生活援助技術 <b>Ⅲ</b> (食・排泄)	担当講師	
開始 年次	1年 後期	単位数 時間数	1 単位 3 0 時間	実 務 経 験	

食生活と排泄の看護を実践するための基礎的能力を養う。

授業のキーワード 食生活 排泄

食生	食生活  排泄						
時間	目 標	主 題	内 容	指導方法			
	1. 日常生活における	(1) 日常生活における	①日常生活における「食」	講義			
	「食」を理解し、食生活	「食」とは	食事内容 食事行動				
	に関する技術が習得		②日常生活における「食」の意義				
	できる。		③日常生活における「食」に影響する要因				
		(2)食生活の援助	①食生活の援助における看護師の役割	講義			
			②栄養サポートチーム				
			③食生活に関する観察点				
			・援助の必要性を判断するための観察点				
			・援助の内容・援助方法を決定するための				
			観察点				
			・援助の効果・援助の妥当性を判断するた				
			めの観察点				
			④食事内容における援助				
			⑤食事行動における援助の目的・方法・留意点	演習			
			<食事介助>	講義			
	2. 日常生活における排		①日常生活における「排泄」	講義			
	泄を理解し、排泄に関	「排泄」とは	②日常生活における「排泄」の意義				
	する技術が習得でき		③日常生活における「排泄」に影響する				
	る。		要因				
		(a) III viii - [519]		-46.34			
		(2)排泄の援助	①排泄の援助における看護師の役割	講義			
			②排泄に関する観察点				
			・援助の必要性を判断するための観察点				
			・援助の内容・援助方法を決定するための				
			観察点				
			・援助の効果・援助の妥当性を判断するた				
			めの観察点				
			③排泄行動の援助における目的・方法・留意点				
			・トイレにおける排泄の援助				
			・ポータブルトイレでの排泄の援助				
			・床上での排泄の援助				
			④自然排泄を促す援助				
			・自然排便を促す援助				
			・自然排尿を促す援助				
		I	I				

	(2) 計學形學	⑤排泄障害の援助における目的・方法・ 留意点 ・浣腸 ・導尿(一時的・持続的導尿)	講義
	(3) 排泄の援助の実際	<ul><li>《ポータブルトイレでの援助》</li><li>《便器の使い方・尿器の使い方》</li><li>《グリセリン浣腸》</li><li>《導尿》</li><li>&lt;膀胱留置カテーテル管理&gt;</li></ul>	演習
テキスト・参考文献	「系統看護学講座 基礎看護学〔3 「ナーシング・グラフィカ 基礎看 「看護過程に沿った対症看護 第3 「ビジュアル臨床看護技術ガイド」	「護学② ヘルスアセスメント」 メディカ 「版」 学研	1出版
成績評価の方法	筆記試験100%		

分野	専門分野 I	授業 科目名	診療に伴う技術 I (診療の補助技術)	担講	当 師	
開始 年次	1年 後期	単位数 時間数	1 単位 3 0 時間	実経	務 験	

診療に伴う看護を実践するための基礎的能力を養う。

授業のキーワード						
診			包带法			
時間	目標	主題	内容	指導方法		
	1. 診療における看護の役	(1)診療における看護の	①診療とは	講義		
	割が理解できる。	役割	②診療のプロセス			
			③診療における看護師の役割			
		(2)身体計測	①身体計測の目的	講義		
			②身体各部の計測			
			身長・体重・胸囲・腹囲			
		(3)包帯法	①包帯とは	講義		
			②包帯の目的			
			③包帯使用時の原則と注意点			
			④包帯の種類と巻き方			
			<包帯法>	演習		
	2. 診察における看護師の	(1)診察とは	①診察とは	講義		
	役割が理解できる。		②診察の目的			
			③診察方法			
		(2)診察における看護師	①安全・安楽に診察を受けるための援助	講義		
		の役割	②円滑に診察を進めるための援助			
	3. 検査における看護師の	(1)検査とは	①検査とは	講義		
	役割を理解し、採血の		②検査の目的			
	技術が習得できる。	(2)検査の種類	①生体検査	講義		
			②検体検査			
		(3)検査における看護師	①生体検査時の看護	講義		
		の役割	X線・CT・MRI・超音波検査			
			②検体検査時の看護			
			検体の取り扱い:血液・尿・便・喀痰			
			③検査における看護師の役割			
		(4)静脈血採血の実際	①静脈血採血の部位	講義		
			②静脈血採血の方法			
			《真空管採血》 《注射器採血》	演習		
	4. 薬物療法における看護	(1)薬物療法における看	①薬物療法とは	講義		
	師の役割を理解し、与	護師の役割	②薬物の種類と吸収・排泄の機序			
	薬に関する技術を習得		③薬物療法における看護師の役割			
	できる。		正しい与薬観察			
			薬物管理(毒薬・劇薬・麻薬)			
			④与薬に伴う事故と安全対策			
		(2) 与薬方法と看護	①経口与薬法 ②直腸内与薬法 (坐薬)	講義		
			③経皮的与薬法 ④点眼・点鼻・点耳法			
			⑤吸入法			
			⑥注射法			
			(皮内注射・皮下注射・筋肉注射・			
			静脈内注射・点滴静脈内注射・中心静脈			
			カテーテル法)			

		(3) 与薬の実際	≪皮下注射・筋肉注射≫ ≪静脈内注射・点滴静脈内注射≫ <直腸内与薬>	演習		
5. 輸血療法に	おける看護	(1)輸血とは	①輸血とは	講義		
	を理解でき		②輸血の目的			
る。			③血液製剤の種類と保管 ④輸血の副作用			
			金剛皿の副介を用   ⑤輸血前に必要な検査			
			①輸血前の看護	講義		
			②輸血中の看護			
			③輸血後の看護			
			④輸血に伴う事故と安全対策			
テキスト・参考文献	',		〕基礎看護技術Ⅱ」 医学書院			
	「系統看	護学講座 基礎看護学〔2	〕基礎看護技術 I 」 医学書院			
	「系統看	護学講座 別巻 臨床放射	線医学」 医学書院			
「ビジュフ		アル臨床看護技術ガイド」 照林社				
成績評価の方法 筆記試		験100%				

分野	専門分野 I	授業 科目名	診療に伴う技術Ⅱ (治療時の看護)	担当講師	山本 はるみ 佐々木 光隆 森川 淳夫
開始	2年 前期	単位数	1 単位	実 務	あり
年次	△十 削朔	時間数	3 0 時間	経 験	「看護師としての臨床経験」

治療に伴う看護を実践するための基礎的能力を養う。

授業のキーワー	2.1
授業(/) キーリー	

授業の	キーワード						
集	中治療  手術療法	麻酔 ME機器					
時間	目標	主題	内容	指導方法			
	1. 手術療法を受ける	(1)手術療法とは	①手術療法とは	講義			
	対象の看護が理解		②手術療法の変遷				
	できる。	(2)麻酔	①麻酔とは	講義			
			②麻酔の種類と作用				
			・全身麻酔(吸入麻酔・静脈麻酔)				
			・局所麻酔(硬膜外麻酔・腰椎麻酔・伝達麻酔)				
		(3)手術・麻酔が人間に	①侵襲とは	講義			
		及ぼす影響	②手術・麻酔が各適応様式に及ぼす影響				
		(4)手術前の看護	①術前看護の目標	講義			
			②術後に順調な回復過程をたどるための準備				
			・身体の準備				
			・精神的準備				
			・術後環境の準備				
			③全身麻酔下で手術療法をうける対象の術前の標				
			<u>準看護計画</u>				
		(5)手術中の看護	①手術室の構造と設備	講義			
			②術中看護の目標				
			③手術室入室から退室まで				
		( ) = ( ) = ( ) = ( )	④手術室看護師の役割	-11.34			
		(6)手術後の看護	①術後看護の目標	講義			
			②術後の身体的・精神的変化に基づいた看護				
			・術直後から麻酔覚醒まで				
			・麻酔覚醒から創傷治癒修復まで				
			③全身麻酔下で手術療法をうける対象の術後の標				
			準看護計画				
	- 41.00.42.43.4	/. \	④社会復帰への援助	-44. A f.			
	2. 集中治療を受ける	(1)集中治療とは	①集中治療とは	講義			
	対象の看護が理解	(a) # _ \vi_t = = = 1 =	②集中治療を受ける環境	-:			
	できる。	(2)集中治療を受ける	①集中治療を受ける対象の特徴	講義			
		対象への看護	②集中治療を受ける家族の特徴				
			③集中治療を受ける対象への看護	=## <del>}                                  </del>			
	3. 医療機器の原理と	(1)医療機器の原理	①ME機器とは	講義			
	取り扱い方が理解		②ME機器使用のための基礎知識				
	できる。	(4) 医连续胆丸医 (4) 、	③ME機器取り扱い上の留意事項	≫ <b>무</b> 괴죄			
		(2)医療機器の取り扱い	①医療機器の取り扱い方と操作の実際	演習			
		方と操作	<心電計 人工呼吸器 輸液ポンプ				
テキュ	<b>▶ ★ 孝 → 志</b> 「 ▽ ◊	太毛珠光建市 四米 哈士	ベッドサイドモニター シリンジポンプ>				
フキス 		充看護学講座 別巻 臨床 発表とは人の思チ後期季護					
十/全主(1)			ド」照林社				
水润計 	価の方法 筆記	記試験100%					

分野	専門分野 I	授業 科目名	臨床看護総論	担当講師	
開始 年次	1年 後期	単位数 時間数	1 単位 3 0 時間	実 務 経 験	

- 1. 疾病の経過をふまえた看護を実践するための基礎的能力を養う。
- 2. 症状・治療・検査をふまえた看護を実践するための基礎的能力を養う。

2. 症状・治療・検査をふまえた	看護を実践するための基礎的	能力を養う。	
授業のキーワード			
経過別看護痛み	呼吸障害 意識障害	血管造影  内視鏡    核医学検	査
穿刺 ドレナージ	放射線療法		
1. 疾病の経過をふまえた	(1)疾病の経過をふまえ	①疾病の経過とは	講義
看護が理解できる。	た看護とは	②疾病に基づく「期」	
		③疾病の経過をふまえた看護の意義	
	(2)急性期の対象の看護	①急性期とは	講義
		②急性期にある対象の特徴	
		③急性期にある対象の看護	
	(3)回復期の対象の看護	①回復期とは	講義
		②回復期にある対象の特徴	
		③回復期にある対象の看護	
	(4)慢性期の対象の看護	①慢性期とは	講義
		②慢性期にある対象の特徴	
		③慢性期にある対象の看護	
	(5)終末期の対象の看護	①終末期とは	講義
		②終末期にある対象の特徴	
		③終末期にある対象の看護	
2. 主要症状〔疼痛•呼吸障	(1)症状をふまえた看護	①症状とは	講義
害・意識障害〕を示す対	とは	②症状をふまえた看護の意義	
象の看護が理解でき	(2)痛みのある対象の看	①痛みとは	講義
る。	護	②痛みがある対象のアセスメント	
		③痛みがある対象の看護	
	(3) 呼吸障害のある対象	①呼吸障害とは	講義
	の看護	②呼吸障害がある対象のアセスメント	
		③呼吸障害がある対象の看護	
		④酸素療法を受ける対象の看護	
		<酸素吸入・酸素ボンベの取り扱い>	演習
		⑤気道浄化のための看護	講義
		<吸入>	演習
	(4) 意識障害のある対象	①意識障害とは	講義
	の看護	②意識障害がある対象のアセスメント	
		③意識障害がある対象の看護	
3. 特殊な検査をうける対	(1)血管造影をうける対	①血管造影の目的・適応・種類	講義
象の看護が理解でき	象の看護	②血管造影をうける対象の看護	
る。	(2)内視鏡をうける対象	①内視鏡の目的・適応・種類	講義
	の看護	②内視鏡をうける対象の看護	
	(3) 核医学検査をうける	①核医学検査の目的・適応・種類	講義
	対象の看護	②核医学検査をうける対象の看護	
	(4) 穿刺をうける対象の	①穿刺の目的・適応・種類	講義
	看護	②穿刺をうける対象の看護	

	4. 特殊な治療をうける対象の看護が理解できる。		(1) ドレナージをうける 対象の看護	<ul><li>①ドレナージの目的・適応・種類</li><li>②ドレナージをうける対象の看護</li></ul>	講義
			(2)放射線療法をうける 対象の看護	①放射線療法とは ②放射線防護の三原則 ③放射線療法の副作用 ④放射線治療をうける対象の看護	講義
テキス	テキスト・参考文献 「新体系 看護学全書 基礎看護学④ 臨床看護総論」 メヂカルフレンド社 「臨床看護学叢書 経過別看護 第2版」 メヂカルフレンド社 「ビジュアル臨床看護技術ガイド」 照林社 「系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学」 医学書院 「看護過程に沿った対症看護 第5版」 学研 「系統看護学講座 成人看護学 〔2〕呼吸器 」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学 〔5〕消化器 」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学 〔1〕成人看護学総論」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学 〔1〕成人看護学総論」 医学書院 「系統看護学講座 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ」 医学書院				
成績割	呼価の方法	筆記試	験100%		

八昭 事用八昭 1		授業	フィジカルアセスメント		当	梨木 由美子 片木 美和子
分野	専門分野 I	科目名	フィンルル/ ピスメント 	講	師	唐島田 順 中川 美千代
開始	2年 前期	単位数	1 単位	実	務	あり
年次	2年 前期	時間数	3 0 時間	経	験	「看護師としての臨床経験」

身体のアセスメントを実践するための基礎的能力を養う。

授業のキーワード

<u>ノイ</u> 時間	・ジカルアセスメント 目標	フィジカルイグザム 主題	内容	指導方法
	1. フィジカルアセ		①フィジカルアセスメントとは	講義
	スメントの意義	メントの意義	②看護過程とフィジカルアセスメントの関連	H14 424
	が理解できる。		③系統別アセスメントと症状別アセスメント	
	2. フィジカルイグ	(1) スクリーニング	①基本情報の聞き取り	講義
	ザムが理解でき		②一般状態の観察	
	る。	(2) フィジカルイグザ	①視診	講義
		ムの方法	②触診 (2) (2) (2) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4	
		(0) 7 . 12 4 4 7 4 7	④打診 ○四時間	=# <del>++</del>
		(3)フィジカルアセス	①環境整備	講義
		メントの準備	②必要物品   ③患者の準備	
	   3. 系統別アセスメ	(1)頭頚部・眼・耳・鼻・	   ①頭頚部・眼・耳・鼻・口のフィジカルアセス	講義
	ントが習得でき	ロのフィジカルア	メントのポイント	11142
	る。	セスメント	②頭頚部・眼・耳・鼻・口のフィジカルイグザ	
	-		ムの方法とアセスメント	
		(2)胸部 (肺・胸郭) の	①胸部 (肺・胸郭) のフィジカルアセスメント	講義
		フィジカルアセス	のポイント	
		メント	②胸部 (肺・胸郭) のフィジカルイグザムの方	
			法とアセスメント	
			③≪胸部(肺・胸郭)の	演習
		(a) 116, day ( ) 1146 ( ) 66-7)	フィジカルイグザムの実際≫	~44· A4·
		(3)胸部 (心臓・血管系)	①胸部 (心臓・血管系) のフィジカルアセスメ	講義
		のフィジカルアセ	ントのポイント	
		スメント	②胸部 (心臓・血管系) のフィジカルイグザム の方法とアセスメント	
			のガ伝とデビヘハンド  ③≪胸部(心臓・血管系)の	演習
			□ ○ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	伊日
		 (4)腹部のフィジカル	①腹部のフィジカルアセスメントのポイント	講義
		アセスメント	②腹部のフィジカルイグザムの方法とアセス	hilax
		, <u> </u>	メント	
			③≪腹部のフィジカルイグザムの実際≫	演習
		(5)神経系のフィジカ	①神経系のフィジカルアセスメントのポイン	講義
		ルアセスメント	F	
			②神経系のフィジカルイグザムの方法とアセ	
			スメント	
			③≪神経系のフィジカルイグザムの実際≫	演習
テキス			基礎看護学② ヘルスアセスメント」 メディカ出	版
D			学〔2〕基礎看護技術 I 」 医学書院	
戎績訊	呼価の方法 1	支術試験 20% 筆記	試験 80%	

#### 実習名 基礎看護学実習 I (療養生活の理解)

時 期	1年 前期
単位(時間)	1単位(45時間)

目的:病院での療養生活を理解し、看護を実践するための基礎的能力を養う。

目標	行 動 目 標
1. 「入院生活の場」に ついて理解できる。	1. 病院の役割・機能を理解し述べることができる。
	2. 病棟の構造・機能の特色を理解し述べることができる。
2. 「入院生活」について 理解できる。	1. 対象者の「入院生活」について、述べることができる。
	2. 対象者の「入院生活」をふまえて、対象者の思いを述べることができる。
3. 人間関係を成立させる ための行動がとれる。	1. 対象者を尊重した行動をとることができる。
4. 看護師の実践場面から 看護について考えるこ	1. 対象への看護について見学した事実を述べることができる。
とができる。	2. 看護における情報伝達と共有について見学した事実を述べることができる。
	3. 看護師の関わりをとおして看護について学んだことを述べることができる。
	4. 実習を通して「看護師を目指すものとして」学んだことを述べることができる。
	5. 看護についての学びを共有することができる。

# 実習名 基礎看護学実習 II (日常生活の援助)

時 期	1年 後期
単位(時間)	2単位 (90時間)

目的:看護の対象者を理解し、対象者に合わせた看護を実践するための基礎的能力を養う。

目標	行 動 目 標
1. 対象者の情報を収集する ことができる。	1. 対象者の看護プロフィールを述べることができる。
	2. 各機能的健康パターンに必要な対象者の情報を述べることができる。
	3. 対象者の情報について逸脱しているものを述べることができる。
2. 対象者に学内で学んだ 看護の技術を活用して	1. 対象者に実施する援助の目的を述べることができる。
援助ができる。	2. 対象者に応じた援助方法を述べることができる。
	3. 実施前に対象者の状況を確認することができる。
	4. 実施時に対象者へ説明し、同意を得ることができる。
	5. 事前に考えた方法で、援助を実施することができる。
	6. 実施した援助について評価することができる。
	7. 報告することができる。
3. 人間関係を成立させるための行動ができる。	1. 対象者を尊重した行動をとることができる。
	2. 対象者との関わりを振り返り、それを活かして対象者へ関わることができる。

# 4. 専 門 分 野 Ⅱ

	授業科目	単位	時間
成人看護学	成人看護学概論	1	30
	成人看護学援助論 I (急性期にある対象の看護)	2	45
	成人看護学援助論Ⅱ(回復期にある対象の看護)	1	30
	成人看護学援助論Ⅲ(慢性期にある対象の看護)	1	30
	成人看護学援助論IV(終末期にある対象の看護)	1	30
(臨地実習)	成人看護学実習 I (成人期の特徴をふまえた看護)	2	90
	成人看護学実習Ⅱ(急性期・回復期の看護)	2	90
	成人看護学実習Ⅲ(慢性期・終末期の看護)	2	90
	小計	12	435
老年看護学	高齢者看護学概論 I (老年期、加齢の概念)	1	15
	高齢者看護学概論Ⅱ(高齢者と社会)	1	15
	高齢者看護学援助論 I (日常生活援助と終末期看護)	1	30
	高齢者看護学援助論Ⅱ(治療処置別、症状別看護)	1	30
(臨地実習)	高齢者看護学実習 I (高齢者の理解)	1	45
	高齢者看護学実習Ⅱ(高齢者の特徴をふまえた看護)	3	135
	小計	8	270
小児看護学	小児看護学概論 I (小児看護の役割)	1	15
	小児看護学概論 Ⅱ (小児の成長と発達)	1	30
	小児看護学援助論 I (疾患の理解と症状別看護)	1	30
	小児看護学援助論Ⅱ (健康の段階、発達段階に応じた看護)	1	30
(臨地実習)	小児看護学実習	2	90
	小計	6	195
母性看護学	母性看護学概論	1	15
	母性看護学援助論 I (母性のライフサイクルと看護)	1	30
	母性看護学援助論Ⅱ(妊娠期、分娩期の看護)	1	30
	母性看護学援助論Ⅲ(産褥期、新生児期の看護)	1	30
(臨地実習)	母性看護学実習	2	90
	小計	6	195
精神看護学	精神看護学概論 I (精神看護の基本概念と精神の健康支援)	1	30
	精神看護学概論Ⅱ(精神保健福祉活動の動向)	1	15
	精神看護学援助論 I (精神疾患の理解と精神看護の特徴)	1	30
	精神看護学援助論Ⅱ(疾病の経過に応じた看護)	1	30
(臨地実習)	精神看護学実習	2	90
	小 計	6	195
合計		38	1290

分野	専門分野Ⅱ	授業 科目名	成人看護学概論	担当講師	
開始 年次	1年 後期	単位数 時間数	1 単位 3 0 時間	実 務 経 験	

成人期の健康を支えるための看護に必要な基礎的能力を養う。

# 授業のキーワード

成人 アイデンティティの確立 仕事 家族 アンドラゴジー 生活習慣 ストレス 危機理論 保健・医療・福祉システム ヘルスプロモーション

時間	送埋論 保健・医療・倫   目標	企ジステム ヘルスプロモ 主題	内容	指導方法
31/4	1. 成人期の対象の特徴が理解できる。	(1) 生涯発達的視点からみ た成人期	①青年期の特徴 a) 身体の発達 b) 心理・社会的発達 c) セクシュアリティの発達 ②壮年期・中年期の特徴 a) 身体の発達 b) 心理・社会的発達 c) セクシュアリティの発達	講義
		(2)成人の生活	①家族の中で成人の果たす役割 ②人として働くことの意味 ③働く成人の生活 ④成人の健康行動	講義
		(3)成人をめぐる衛生統計の概要	①人口と平均寿命 ②死因・死亡率 ③受療率	講義
		(4) 成人の健康な生活を脅かす要因と健康問題	①就労や労働形態の変化がもたらす健 康問題 ②生活習慣がもたらす健康問題 a) 飲酒 b) 喫煙 c) 運動不足 d) 肥満	講義
	2. 成人看護に必要な基礎理論が理解できる。	(1)ストレス	① 成人の生活ストレス ②ストレスコーピング	講義
		(2) 危機理論	<ul><li>①危機の定義</li><li>②危機状態の特徴</li><li>③危機モデル</li><li>アギュララとメズイックのモデル</li><li>フィンクのモデル</li><li>④危機への働きかけ</li><li>a) 危機介入の原則</li><li>b) フィンクの危機モデルを活用した介入</li></ul>	講義

成績訊	価の方法	筆記試験100%		
	スト・参考文献	「国民衛生の動向」 厚生	雙学〔1〕成人看護学総論」 医学書院 労働統計協会	
		(4)保健・医療・福祉の連 携と実際	①生涯発達・健康状態からみた保健・医療・福祉システムの提供と実際 ②保健・医療・福祉システムの重要性	講義
		(3)福祉にかかわる対策	①障害者福祉 ②高齢者福祉	講義
		(2) 医療にかかわる対策	伴う保健事業 <ul><li>①医療法の改正に伴う施策の変遷</li><li>②難病対策</li></ul>	講義
	4. 成人期における保健 医療福祉システムが 理解できる。	(1)保健に関わる対策と実際	①健康増進・生活習慣病対策 ②健康危機管理 ③感染症対策 ④高齢者の医療の確保に関する法律に	講義
		(2)健康問題を持つ対象の 看護	①倫理的判断 ②意思決定支援	講義
	3. 成人看護の特徴が理 解できる。	(1) ヘルスプロモーショ ン	<ul><li>①健康増進への主体性を高めるための支援</li><li>②健康生活の具体的な支援</li><li>a)食生活</li><li>b)運動</li><li>c)休養</li><li>d)ストレスマネージメント</li></ul>	講義演習
		(4)成人教育理論 (アンドラゴジー)	<ul><li>①アンドラゴジーの定義</li><li>②アンドラゴジーにおける成人の特徴</li><li>③アンドラゴジーモデルにおける</li><li>学習プログラムの要素</li></ul>	講義
		(3) 学習に基づく行動形成	<ul><li>①行動の成立</li><li>②行動の動機</li><li>③観察学習</li></ul>	講義

分野	専門分野Ⅱ	授業科目名	成人看護学援助論 I (急性期にある対象の看護)	担当講師	松本 修一 平野 まゆみ 片木 美和子
開始	2年 前期	単位数	2単位	実 務	あり
年次		時間数	4 5 時間	経 験	「看護師としての臨床経験」

急性期にある成人期の対象の看護を実践するための基礎的能力を養う。

1		
授業のキー	ワー	K.

授業の	)キーワード			
急性	期 周手術期 生命	の危機 苦痛 不安	・恐怖 家族の不安 急性期の看護技術	
時間	目標	主題	内容	指導方法
	1. 急性期にある成人期 の対象の看護を理解 できる。	(1) 急性期にある成人期の対象の特徴	<ul> <li>①身体面の特徴         <ul> <li>a) 生命の危機</li> <li>b) 身体の苦痛</li> <li>c) セルフケアの不足</li> </ul> </li> <li>②心理・社会面の特徴         <ul> <li>a) 社会的役割への葛藤</li> <li>b) 不安</li> <li>c) 家族の不安</li> </ul> </li> </ul>	講義
		(2) 急性期にある成人 期の対象の看護	①症状の観察と救命 ②苦痛の軽減 ③不安・恐怖の軽減 ④セルフケアの援助 ⑤家族への援助	講義
		(3) 循環器系で急性期 にある成人期の対象の事例展開	①急性心筋梗塞で中年期にある対象 (男性) の事例展開	講義演習
		<ul><li>(4) 心臓リハビリテーションを受ける対象の看護</li></ul>	①心臓リハビリテーションの目的 ②心臓リハビリテーションの実際と看護	講義
		(5) 周手術期にある成 人期の対象の看護	①全身麻酔のSCPをもとに肺癌で肺切除術を受ける対象の計画立案 ・術前 ・術直後 ・術後	講義
	2. 急性期にある成人期 の対象の看護に必要 な技術を習得でき	(1) 急性期看護に必要 な援助技術	①胸腔ドレーン(低圧持続吸引)留置の目的 ②胸腔ドレーン(低圧持続吸引)留置中の看護、 ドレーン管理 〈創傷処置〉	講義
	る る。		<ul><li>(割) (利) (利) (利) (利) (利) (利) (利) (利) (利) (利</li></ul>	演習 講義 演習
「系統看護学講座 成人看護学 〔2〕呼吸器」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学 〔3〕循環器」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学〔1〕成人看護学総論」 医学書院 「ビジュアル臨床看護技術」 照林社 「看護過程に沿った対症看護」 学研 「NANDA-I 看護診断 定義と分類 2021-2023」 医学書院				
成績評	呼価の方法	筆記試験 100%		

八田立	専門分野Ⅱ	授業	成人看護学援助論Ⅱ	担当	堂本 知子
分野	守门分野Ⅱ	科目名	(回復期にある対象の看護)	講 師	田原恵
開始	2年 前期	単位数	1単位	実 務	あり
年次	2 年 削朔	時間数	3 0 時間	経 験	「看護師としての臨床経験」

回復期にある成人期の対象の看護を実践するための基礎的能力を養う。

		付家の看護を実践するた	上めの基礎的能力を養う	)。		
	ナーワード	人份岭 一州州安生	アクストナー は中立方	ニノファカノルの亦可	上江の古井笠	
回復 時間		合併症・二次的障害	の予防 障害受容		生活の再構築	
時間	目標 1. 回復期にある所 の対象の看護を できる。		a)身体 b)障等 c)合作 d)セ/ ②心理・社 a)回作 b)障等	本機能の低下		
		(2)回復期にある 対象の看護 (3)脳神経系でE	ルス 5成人期の ①機能回称 ②異常の ③セルフグ ④不安の軸 ⑤障害受容 ⑥社会復居 ⑦家族に対	ス 复のための援助 早期発見と悪化の予防 ケアに関する援助	講義	
		る成人期の対 展開 (4)言語障害のも 看護	対象の事例事例展開ある対象の①言語障害②失語症 ③言語障害	開	演習講義	
		(5)運動麻痺の 看護	0 12 424	多乗の援助 ・ベッド間の移 <del>乗</del>	講義	
		(6) 運動器系に随回復期にある 対象の看護	5成人期の ためのえ ②牽引療法	断術を受けた患者の障害受容の 看護 去を受ける対象の看護 療法を受ける対象の看護	か講義	
テキス	「系統看護学講座 成人看護学 〔7〕脳・神経」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学 〔10〕運動器」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学 〔1〕成人看護学総論」 医学書院 「系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護」 医学書院 「看護過程に沿った対症看護」 学研 「NANDA-I 看護診断 定義と分類 2021-2023」 医学書院					
成績評	価の方法	筆記試験 1				

分野	専門分野Ⅱ	授業 科目名	成人看護学援助論III (慢性期にある対象の看護)	担当講師	青木 加代子 勝間 玲蘭
開始 年次	2年 後期	単位数 時間数	1 単位 3 0 時間	実務 経験	あり 「看護師としての臨床経験」

慢性期にある成人期の対象の看護を実践するための基礎的能力を養う。

	キーワード	有護を美践り るにめの <del>基</del> 礎的能	7,00,00	
慢性		自己管理自己効力理論	エンパワーメントモデル  学習支	
時間	目標 1. 慢性期にある成人期 の対象の看護を理解 できる。	主題 (1)慢性期にある成人期の対 象の特徴	内容 ①身体面の特徴 a) 合併症・二次的障害の出現 b) 慢性的な症状による苦痛 ②心理・社会面の特徴	指導方法 講義
			<ul><li>a) ライフスタイルの変更</li><li>b) 役割遂行の困難</li><li>c) 不安</li></ul>	
		(2) 慢性期にある成人期の対象の看護に必要な理論と 活用	<ul><li>①病みの軌跡</li><li>②自己効力理論の活用</li><li>③エンパワーメントモデルの活用</li></ul>	講義
		(3)慢性期にある成人期の対象への学習支援	①学習支援の目標 ②学習支援の場 ③学習支援の時期 ④学習支援の進め方 a) アセスメント b) 目標の設定 c) 学習支援の計画立案 d) 実施 e) 評価	講義
		(4) 慢性期にある成人期の対象の看護	<ul><li>①疾病の自己コントロールのための 援助</li><li>②ライフスタイルの変更への援助</li><li>③不安の軽減</li><li>④家族や社会との調整</li></ul>	講義
		(5) 内分泌系で慢性期にある 成人期の対象の事例展開	①糖尿病で中年期にある対象(男性) の事例展開	講義 演習
		(6) 腎不全で慢性期にある 成人期の対象の看護	<ul><li>①シャントの管理</li><li>②食事療法</li><li>③ライフスタイル変更への援助</li><li>④社会資源の活用</li></ul>	講義
テキス	、ト・参考文献	「系統看護学講座 成人看護学 「系統看護学講座 成人看護学 「系統看護学講座 成人看護学 「系統看護学講座 基礎看護学 「看護過程に沿った対症看護」 「NANDA-I 看護診断 定義と分	学 [8] 腎・泌尿器」 医学書院 学 [1] 成人看護学総論」 医学書院 学 [2] 基礎看護技術 I 」 医学書院 」 学研	
成績評	価の方法	筆記試験100%		

分野	専門分野Ⅱ	授業 科目名	成人看護学援助論IV (終末期にある対象の看護)	担当講師	<ul><li>辻森 弘容</li><li>後藤 奈津子</li><li>山形 友里</li></ul>
開始 年次	2年 後期	単位数 時間数	1 単位 3 0 時間	実 務 経 験	あり 「看護師としての臨床経験」

終末期にある成人期の対象の看護を実践するための基礎的能力を養う。

授業のキーワー	2.5
授業(/) ヤーリー	

授業の	キーワード				
終末	期 全人的苦痛 死	の受容 グリーフケア イ	化学療法 骨髄抑制		
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 終末期にある成人期 の対象の看護を理解 できる。		<ul><li>①身体面の特徴</li><li>a)全身的な苦痛・身体の変化</li><li>b)生命の危機</li><li>c)セルフケアの不足</li><li>②心理・社会面の特徴</li><li>a)死の受容過程</li></ul>	講義	
		(2)終末期にある成人期の対象の看護	b) 役割の喪失 c) 家族の不安・悲嘆 ①全人的な苦痛の軽減 ②死の受容への援助 ③QOLの向上 ④役割変更に対する援助 ⑤家族への援助 ⑥グリーフケア	講義	
		(3) 臨終時の看護	①病状の観察 ①死の3兆候 ②死亡に伴う身体的変化 ③エンゼルケア ④退院時の見送りと手続き	講義	
		(4) 大腸がん、肝転移で終 末期にある成人期の対 象の看護	①全身倦怠感への援助 ②痛みへの援助 ③食欲不振への援助 ④死の不安への援助 ⑤QOLの向上への援助 ⑥家族への援助 ⑦セルフケアへの援助	講義	
		(5) 造血器腫瘍で化学療法 をうける成人期の対象 の看護	①抗ガン剤による被爆と取り扱い上の注意点 ②抗ガン剤漏出の予防と対処 ③化学療法による副作用 ④化学療法による副作用に対する援助 a)易感染 b)易出血 c)悪心・嘔吐 等 ⑤不安への援助	講義	
テキス	「系統看護学講座 成人看護学〔5〕消化器」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学〔4〕血液・造血器」 医学書院 「系統看護学講座 基礎看護学〔3〕基礎看護技術II」 医学書院 「経過別成人看護学④ 終末期看護:エンド・オブ・ライフ・ケア」メヂカルフレン ド社				
評価の	平価の方法 筆記試験100%				

## 実習名 成人看護学実習 I (成人期の特徴をふまえた看護)

時期	2年 前期
単位(時間)	2単位(90時間)

目的:健康障害をもつ成人期の対象の看護を実践する能力を養う。

	日的:健康障害をもつ成人期の対象の看護を実践する能力を養う。				
目標	行動目標				
	1. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、看護プロフィールを述べることが				
害をふまえ、情報を収集	できる。				
することができる。	2. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、各機能的健康パターンに必要な情				
	報を述べることができる。				
	3. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、逸脱した情報を述べることができ				
	る。				
	4. 疾患や治療をふまえ、対象者の状態を分析するために、共同問題にお				
	いて必要な情報を述べることができる。				
2. 成人期の特徴と健康障	1. 成人期の特徴と健康障害をふまえ共同問題につながる情報を分析する				
害をふまえ、アセスメ	ことができる。				
ントをし、問題を明確	2. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、看護診断・看護援助(ケア)につ				
にできる。	ながる情報を分析し、統合することができる。				
	3. 分析をふまえ、問題を明確にできる。				
	4. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、問題の優先順位を述べることがで				
	きる。				
3. 成人期の特徴と健康障	1. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、問題を解決するための目標を述べ				
害をふまえ、計画を立	るこができる。				
案できる。	2. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、具体策を述べることができる。				
4. 成人期の特徴と健康障	1. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、実施前に対象者の状況を確認でき				
害をふまえた援助が実	る。				
施できる。	2. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、実施時に対象者へ説明し、同意を				
	得ることができる。				
	3. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、計画(援助の方法)にそって援助				
	が実施できる。				
	4. 実施した看護を報告できる。				
	5. 日々の援助を評価するための事実を述べることができる。				
	6. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、実施した援助を評価できる。				
	7. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、対象者の変化に合わせて援助方法				
	が変更できる。				
5. 人間関係を成立させる	1. 対象者を尊重した行動をとることができる。				
ための行動ができる。	2. 対象者との関わりを振り返り、それを活かして対象者へ関わることが				
	できる。				

## 実習名 成人看護学実習Ⅱ (急性期・回復期の看護)

時期	3年 前期
単位(時間)	2単位 (90時間)

目的:急性期・回復期にある成人期の対象を理解し、看護が実践できる能力を養う。

目標	世解し、有護が美践でさる能力を養り。 一 行動目標			
1. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、対象者				
のアセスメントができる。	きる。			
	2. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、問題に影響する 因子について述べることができる。			
	3. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、問題を明確にすることができる。			
2. 成人期と急性期・回復期の特徴をふまえ、計画に基づいて実施できる。	1. 成人期と急性期・回復期の特徴をふまえ、実施前に対象者の状況を確認し、必要時は援助の変更ができる。			
	2. 成人期と急性期・回復期の特徴をふまえ、実施時に対象者へ説明し、同意を得ることができる。			
	3. 成人期と急性期・回復期の特徴をふまえ、対象者の反応を確認しながら実施できる。			
	4. 実施した看護を報告できる。			
	5. 日々の看護を評価するための事実を簡潔に述べることができる。			
	6. 成人期と急性期・回復期の特徴をふまえ、看護の評価ができる。			
	7. 成人期と急性期・回復期の特徴をふまえ、対象者の変化に合わせて計画が変更できる。			
3. 人間関係を成立するための行動ができる。	1. 対象者との関わりを振り返り、それを活かして対象者へ関わることができる。			
4. 成人期における経過別看護が理解できる。	1. 実施した看護をとおして、成人期における経過別看 護について述べることができる。			

## 実習名 成人看護学実習Ⅲ(慢性期・終末期の看護)

時期	3年 後期
単位(時間)	2単位(90時間)

目的:慢性期・終末期にある成人期の対象を理解し、看護が実践できる能力を養う。

目標	世解し、看護が実践できる能力を養う。 一 行動目標			
, , ,				
1. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、対象者のアセスメントができる。	1. 病態および治療とその影響について述べることができる。			
	2. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、問題に影響する 因子について述べることができる。			
	3. 成人期の特徴と健康障害をふまえ、問題を明確にすることができる。			
2. 成人期と慢性期・終末期の特徴をふまえ、計画に基づいて実施できる。	1. 成人期と慢性期・終末期の特徴をふまえ、実施前に対象者の状況を確認し、必要時は援助の変更ができる。			
	2. 成人期と慢性期・終末期の特徴をふまえ、実施時に対象者へ説明し、同意を得ることができる。			
	3. 成人期と慢性期・終末期の特徴をふまえ、対象者の反応を確認しながら実施できる。			
	4. 実施した看護を報告できる。			
	5. 日々の看護を評価するための事実を簡潔に述べることができる。			
	6. 成人期と慢性期・終末期の特徴をふまえ、看護の評価ができる。			
	7. 成人期と慢性期・終末期の特徴をふまえ、対象者の変化に合わせて計画が変更できる。			
3. 人間関係を成立するための行動ができる。	1. 対象者との関わりを振り返り、それを活かして対象 者へ関わることができる。			
4. 成人期における経過別看護が理解できる。	1. 実施した看護をとおして、成人期における経過別看護について述べることができる。			

分野	専門分野Ⅱ	授業	高齢者看護学概論 I	担当	
刀刃	41/121	科目名	(老年期、加齢の概念)	講師	
開始	1 年 後期	単位数	1 単位	実 務	
年次	1年 後期	時間数	15時間	経 験	

高齢者の特徴とその生活を理解し、高齢者看護の基本を理解する。

授業のキーワード

老年期 高齢者 加齢と老化 生活 フレイル 高齢者の健康 高齢者と家族

時間	家族 高齢者と社会 目標	 主題	内容	指導方法
3104	1. 老年期を生きる人々の特徴が理解できる。	(1) 老年期の理解	①老年期の定義 ②加齢と老化 ③統計からの高齢者 ④生活の変化 ⑤老年期の発達と成熟の意味	講義
		(2)加齢に伴う変化	①身体的機能の変化 〈高齢者擬似体験〉 ②心理・精神的機能の変化 ③社会的機能の変化 ④フレイル ⑤疾病をめぐる特徴	講義演習
	2. 高齢者をとりまく社会 について理解できる。	(1)高齢化を取り巻く 社会環境	①高齢化の国際的動向 ②わが国の高齢化の特徴	講義
		(2) 高齢者と家族の支援	①介護家族の生活 ②家族エンパワメントの視点 ③介護家族の課題	講義
	3. 高齢者看護の基本的な 考え方が理解できる。	(1)高齢者看護の基本	①高齢者のQOL ②高齢者看護活動の特性 ③高齢者看護の原則 ④高齢者看護に適用する理論・概念	講義
		(2)高齢者看護の倫理	①高齢者の権利擁護 ②高齢者の虐待	講義
テキス	   大・参考文献	「系統看護学講座 老年看記 「国民衛生の動向」 厚生会		
成績評価の方法 筆記試験100%				

分野	専門分野Ⅱ	授業 科目名	高齢者看護学概論Ⅱ (高齢者と社会)	担 当 講 師	西村 優子 長谷川浩史
開始 年次	2年 前期	単位数 時間数	1 単位 1 5 時間	実 務 経 験	

- 1. 社会における高齢者施策の現状と課題を理解する。
- 2. 認知症のある高齢者の理解を深める。

	対応のある同野有の理解	H G 1V 62.20		
,,,	イータード    诸施策   権利擁護	/ 介護保険 認知症 超	高齢社会 地域包括ケアシステム	
時間	目標	主題	内容	指導方法
	1. 高齢者施策の現状 が理解できる。	(1) 高齢者施策	①高齢者の保健・医療・福祉施策の変遷 ②高齢者施策の基本的な考え方 ・高齢社会対策基本法 ③健康づくりの総合的推進 ④地域包括ケアシステム ⑤介護保険 ⑥高齢者医療制度	講義
	2. 高齢者施策の課題 が理解できる。	(1) 高齢者施策の課題	①高齢者の要介護者数の増加 ②認知症のある高齢者の増加 ③介護サービスや支援サービスの提供 ④超高齢社会に対応するための施策	講義
	3. 認知症のある高齢 者について理解で きる。	(1)認知症のある高齢者	<ul><li>①認知症のある高齢者の理解</li><li>・認知症の定義</li><li>・認知症の基本構造</li><li>・認知症の診断・治療・予防</li></ul>	講義
		(2)認知症に対する施策	①認知症のある高齢者へのケアシステム ・認知症予防教室 ・グループホームの整備 ・相談事業 ②認知症のある高齢者の人権と権利擁護 ・権利擁護事業	講義
テキスト・参考文献 「系統看護学講座 老年看護学」 医学書院 「国民衛生の動向」 厚生労働統計協会 「福祉小六法」中央法規			I	
成績評	価の方法	筆記試験100%		

八田玄	古明八配π	授業	高齢者看護学援助論 I	担当	中垣 愛
分野	専門分野Ⅱ	科目名	(日常生活援助と終末期看護)	講師	平野 まゆみ
開始	2年 前期	単位数	1 単位	実 務	あり
年次	2 十 削朔	時間数	3 0 時間	経 験	「看護師としての臨床経験」

- 1. 高齢者の生活に影響を与える障害を理解する。
- 2. 高齢者に対する援助を理解する。

授業のキーワード 高齢者の機能評価 高齢者の日常生活援助 終末期にある高齢者 廃用症候群 時間 目標 主題 内容 指導方法 1. 高齢者の健康を支 (1) 高齢者の包括的機能評価 ①日常生活動作の評価 (ADL) 講義 える看護が理解で ・カッツインデックス きる。 ・バーセルインデックス ②手段的日常生活動作の評価 (IADL) • 老研式活動能力指標 ③高齢者総合機能評価「CGA」 (2) 高齢者の健康と看護 ①健康生活の維持と快適に過ごす 講義 ための援助 2. 高齢者の日常生活 (1)加齢に伴う主要な機能障害 ①摂食障害、嚥下障害 講義 を整える看護が理 の看護 ②脱水 解できる。 ③排尿障害 ④排便障害 ≪おむつ交換・摘便≫ 演習 ⑤睡眠障害 講義 ⑥視覚障害 ⑦聴覚障害 ⑧コミュニケーション障害 (2) 廃用症候群の ①廃用症候群の定義 講義 ②廃用症候群の原因とおもな症状 アセスメントと看護 ③廃用症候群の予防策 (3)転倒のアセスメントと ①転倒が及ぼす影響 講義 看護 ②転倒の原因 ③転倒の予防策 3. 高齢者の終末期の (1) 高齢者の終末期の看護 ①高齢者の終末期の特徴 講義 看護が理解でき ・エンドオブライフ ②苦痛の緩和 る。 ③死への受容への援助 ・アドバンスケアプランニング ・アドバンスディレクティブ ・リビングウィル ④高齢者の人格の尊重 ⑤家族への援助 ・グリーフケア テキスト・参考文献 「系統看護学講座 老年看護学」 医学書院 成績評価の方法 筆記試験100%

分野	専門分野Ⅱ	授業 科目名	高齢者看護学援助論Ⅱ (治療処置別・症状別看護)	担当講師	西村 優子 田原 恵
開始年次	2年 後期	単位数 時間数	1 単位 3 0 時間	実 務 経 験	あり 「看護師としての臨床経験」

- 1. 治療処置を受ける高齢者に対する看護を理解する。
- 2. 認知症のある高齢者に対する援助を理解する。

授業のキーワー	7 0
/学学// シャー・/ ー	

1文未り	シャーリード	_		
	诸の入院 高齢者と	薬物療法 高齢者と検査	高齢者と手術療法 せん妄 認知症剤	護
時間	目標	主題	内容	指導方法
	1. 検査、治療を受け る高齢者の看護が 理解できる。		①薬物療法 ②検査 ③手術療法	講義
		(2) 手術療法を受ける高 齢者の事例展開	①大腿骨頸部骨折で手術療法を受ける後期 高齢者の事例展開	講義
	2. 認知症のある高齢 者の看護が理解で きる。	(1) 認知症高齢者の 看護	①認知症が高齢者の生活に与える影響 ②認知症高齢者とのコミュニケーション ③認知症高齢者の日常生活自立支援 ④認知症高齢者の心身の活性化 ⑤認知症の精神症状・行動障害への対応 ⑥認知症高齢者の安全を守るための援助 ・安全面、健康管理、事故予防 ⑦認知症高齢者を取り巻く環境と環境調整 ⑧認知症高齢者の家族への支援	講義
「系統看護学講座 老年看護学」 医学書院 「系統看護学講座 臨床外科看護総論」医学書院 「系統看護学講座 運動器」医学書院 「系統看護学講座 運動器」医学書院 「高齢者と成人の周手術期看護 2」医歯薬出版株式会社 「NANDA—I 看護診断 定義と分類 2021—2023」医学書院				
成績評	が価の方法	筆記試験100%		

## 実習名 高齢者看護学実習 I (高齢者の理解)

時 期	2年 前期
単位(時間)	1 単位(4 5 時間)

目的: 高齢者の特徴を理解し、看護の実践に必要な基礎的能力を養う。

目 標	行動目標
1. 施設における高齢者の生活を理解できる。	1. 対象の加齢に伴う変化と健康状態を述べることができる。
	2. 対象が受けている援助について述べることができる。
	3. 対象の生活について述べることができる。
2. 施設における高齢者の看護を理解できる。	1. 施設における看護師の役割を述べることができる。
	2. 施設における看護師と多職種との連携について述べることができる。
3. 高齢者施設の役割を理解できる。	1. 施設の位置づけを述べることができる。
	2. 職員の構成と役割を述べることができる。
	3. 施設における利用者の概要を述べることができる。
4. 人間関係を成立させるための行動がとれる。	1. 高齢者の特徴をふまえ、対象を尊重した行動をとることができる。
5. 高齢者の特徴をふまえた看護について 学びを深めることができる。	1. 実習施設で学んだ高齢者の生活や援助を振り返り、高齢者の特徴を ふまえた看護について考えることができる。
	2. 高齢者の特徴をふまえた看護について学びを共有することができる。

## 実習名 高齢者看護学実習Ⅱ (高齢者の特徴をふまえた看護)

時 期	2年 後期
単位(時間)	3単位(135時間)

目的:疾病や障害をもちながら療養生活をおくる高齢者を理解し、看護を実践できる能力を養う。

目標	行動目標
1. 高齢者の特徴と健康障害をふまえたアセスメントができる。	<ol> <li>高齢者の特徴と健康障害をふまえ、看護プロフィールを述べることができる。</li> <li>高齢者の特徴と健康障害をふまえ、各機能的健康パターンに必要な情報を述べることができる。</li> <li>高齢者の特徴と健康障害をふまえ、看護診断・看護援助(ケア)の分析・統合ができる。</li> <li>高齢者の特徴と健康障害をふまえ、共同問題を分析することができる。</li> <li>分析をふまえ、問題を明確にできる。</li> <li>高齢者の特徴と健康障害をふまえ、問題の優先順位を述べることができる。</li> </ol>
2. 高齢者の特徴と健康障害をふまえ、計画が立案できる。	1. 高齢者の特徴と健康障害をふまえ、目標を述べることができる。 2. 高齢者の特徴と健康障害をふまえ、具体策を述べることができる。
3. 高齢者の特徴と健康障害をふまえ、計画 (援助の方法) に基づいて実施ができる。	<ol> <li>高齢者の特徴と健康障害をふまえ、実施前に対象者の状況を確認できる。</li> <li>高齢者の特徴と健康障害をふまえ、実施時に対象者と家族に適切な説明ができ、同意を得ることができる。</li> <li>高齢者の特徴と健康障害をふまえ、計画(援助の方法)に基づいて実施できる。</li> <li>実施した看護を報告できる。</li> <li>高齢者の特徴と健康障害をふまえ、日々の看護を評価できる。</li> </ol>
4. 人間関係を成立させるための行動ができる。	<ol> <li>対象者を尊重した行動をとることができる。</li> <li>対象者との関わりを振り返り、それを活かして対象者へ関わることができる。</li> </ol>
5. 高齢者の特徴をふまえた看護について学 びを共有することができる。	<ol> <li>臨地実習で行った看護を振り返り、高齢者の特徴をふまえた看護について意味づけすることができる。</li> <li>各グループの発表を聞き、高齢者の特徴をふまえた看護について考えることができる。</li> </ol>

八田式	市田八配π	授業	小児看護学概論 I	担当	
分野	専門分野Ⅱ	科目名	(小児看護の役割)	講師	
開始	1 年 後期	単位数	1単位	実 務	
年次	1年 後期	時間数	15時間	経 験	

小児とその家族の健康を支えるための看護に必要な基礎的能力を養う。

授業のキーワード 子ども 家族 子どもの権利

子ども	家族 子ども	の権利		
時間	目標	主題	内容	指導方法
	1. 子どもとその家族	(1)子どもと家族の理解	①子どもの概念	講義
	を取り巻く社会の		②ライフサイクルからみた小児期	
	状況を理解できる。		③子どもと家族	
		(a) → 13.1 ま 元 15 平 15 4 7 4 1 A		34t <del>} \</del>
		(2)子どもを取り巻く社会	①人口動態からみた統計の変化	講義
		<b>状</b> 況	②子ども観の変遷	
			③子どもと家族を支える法律と社会制度 ・母子保健と子育て支援	
			・学校保健	
			• 予防接種	
			・難病・障害児保健福祉	
			(大型)   P 音儿// (全国)   1	
	   2. 小児看護の役割を	   (1)小児看護とは	(1)小児看護の対象	講義
	理解できる。		②小児看護の場	
			③小児看護の目標	
			④小児看護の役割	
		(2) 小児看護の変遷	①小児医療の変遷	講義
			②小児看護の変遷	
			③小児看護の課題	
	ってじょの歩利し手	   (1)小児 <del>看</del> 護における権利	①子どもの人権	講義
	3. 子どもの権利と看護を理解できる。	(1)小児有護における惟利	<ul><li>①子ともの人権</li><li>②子どもの虐待</li></ul>	神我
	受色生件へつる。		③子どもの権利に関する法律・施策	
		(2)小児看護における倫理	①小児看護における倫理的問題	講義
			②小児看護と倫理的配慮	
ニュー	1 <del>2 2 2 2</del> 5 1 -	こハ/ガガニー ユーエロギニ	学①	
アキス		シンググラフィカ 小児 <mark>看護</mark> 衛生の動向」 厚生労働統計		
十分主意			<b>加</b> 五	
八八八百十	価の方法 筆記	試験100%		
1				

分野	専門分野Ⅱ	授業科目名	小児看護学概論Ⅱ	担当	山本 こゆみ
		科目名	(小児の成長と発達)	講師	
開始	2年 前期	単位数	1 単位	実 務	あり
年次	2 十 削剂	時間数	30時間	経 験	「看護師としての臨床経験」
Les VIII	- 11		<u> </u>		<u> </u>

子どもの成長・発達を理解し、健康増進のための子どもと家族への看護に必要な基礎的能力を養う。

## 授業のキーワード

成長・発達 発達段階 発達課題 エリクソンの自我発達理論 ピアジェの認知発達理論 親子関係論

時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 子どもの成長・発達に ついて理解できる。	(1) 子どもの成長・発達とは	①成長・発達の原則 ②成長・発達に影響する因子 ③成長・発達の評価	講義	
		(2)小児看護に必要な理論	①セルフケア理論 ②エリクソンの自我発達理論 ③ピアジェの認知発達理論 ④親子関係論 ⑤家族理論	講義	
	2. 子どもの発達段階の特 徴と健康増進のための 看護を理解できる。	(1)新生児・乳児の特徴と健 康増進のための看護	①新生児・乳児期の成長・発達 ②乳児の栄養 ③運動と遊び	講義	
		(2) 幼児の特徴と健康増進の ための看護	①幼児期の成長・発達 ②基本的生活習慣の獲得 ③幼児の養育および看護 ④安全対策(事故防止)	講義	
		(3) 学童の特徴と健康増進のための看護	①学童期の成長・発達 ②栄養と食生活 ③学習と遊び	講義	
		(4) 思春期の子どもの特徴と 健康増進のための看護	①思春期の成長・発達 ②心理・社会的適応に関する問題 栄養と食生活 ③健康問題行動と家族機能	講義	
	「国民衛生		小児の発達と看護」 メディカ出版		
//////////////////////////////////////	成績評価の方法 筆記試験100%				

分野	専門分野Ⅱ	授業科目名	小児看護学援助論 I (疾患の理解と症状別看護)	J— -	当師	古川 央樹 柳 貴英  多賀 崇 澤井 俊宏  筒井 英美 長井 静世  西倉 紀子 山本 有美
開始	2年 前期	単位数	1単位	実 着	膐	あり
年次	2 十 削朔	時間数	3 0 時間	経り	験	「看護師としての臨床経験」

- 1. 健康障害のある子どもと家族への看護に必要な基礎的能力を養う。
- 2. 子どもの主な疾患の病態生理、検査、診断、治療を理解する。 授業のキーワード

	キーワード			
子ども	の疾病・障害外	来受診   入院   在宅療	養	
時間	目標	主題	内容	指導方法
	1. 疾病・障害のある子どもと家族 への看護が理解	(1)疾病・障害が子どもと家 族に与える影響	①疾病・障害に対する子どもの反応 ②疾病・障害のある子どもと家族の反応	講義
	できる。	(2)子どもの健康問題と 看護	①症状の改善と苦痛の緩和 ②治療における意思決定の支援 ③発達段階に即したセルフケアの支援 ④子どもの日常生活にかかわる援助	講義
		(3) 健康問題のある子どもの家族の看護	①親・きょうだいへの支援 ②家族関係の調整と社会資源の活用	講義
	2. 主要症状を示す 子どもと家族の 看護が理解でき る。	(1)主要症状を示す 子どもと家族の看護	①不機嫌 ②啼泣 ③痛み ④発熱 ⑤嘔吐 ⑥下痢 ⑦脱水 ⑧けいれん ⑨発疹	講義
	3. さまざまな場や 状況にある子ど もと家族への看 護が理解できる。	(1) 入院中の子どもと家族の 看護	<ul><li>①入院環境と家族</li><li>②子どもの入院が家族に及ぼす影響と家族の反応</li></ul>	講義
		(2) 外来における子どもと家 族の看護	①外来を受診する子どもと家族の特徴 ②外来を受診する子どもと家族の看護 ・小児外来の環境 ・外来看護の役割	講義
		(3) 生活制限のある子どもと 家族の看護	①活動制限のある子どもと家族 ②隔離中の子どもと家族 ③食事制限のある子どもと家族	講義
		(4) 在宅療養中の子どもと家 族の看護	①在宅療養中の子どもと家族の特徴 ②在宅療養中の子どもと家族の看護	講義
		(5) 災害を受けた子どもと家 族の看護	①災害を受けた子どもの心と身体への影響 ②災害時の子どもと家族への看護	講義

4. 子どもの主なዎ 患の病態生理、検 査、診断、治療に	の疾患	①呼吸窮迫症候群 ②新生児仮死 ③高ビリルビン血症	講義
ついて理解できる。		①ダウン症候群 ②ターナー症候群 ③脆弱 X症候群	講義
	(3) 感染症	①麻疹 ②風疹 ③水痘 ④百日咳 ⑤インフルエンザ ⑥伝染性単核球症 ⑦手足口病	講義
	(4)消化器疾患	①腸重積 ②幽門狭窄症 ③急性乳幼児下痢症・急性胃腸炎	講義
	(5)循環器疾患	①川崎病 ②先天性心疾患	講義
	(6) 呼吸器疾患	①肺炎 ②気管支炎 ③クループ症候群 ④マイコプラズマ肺炎	講義
	(7)神経疾患	①てんかん ②熱性けいれん ③脳性麻痺 ④筋ジストロフィー	講義
	(8)アレルギー疾患	①アトピー性皮膚炎②気管支喘息 ③アレルギー性紫斑病	講義
	(9) 腎疾患	①ネフローゼ症候群 ②糸球体腎炎	講義
	(10)代謝、內分泌疾患	①低身長 ②フェニルケトン尿症 ③甲状腺機能低下症 ④ I 型糖尿病	講義
	(11)血液・リンパ系疾患	①血友病 ②鉄欠乏性貧血	講義
	(12)悪性新生物	①白血病 ②ウイルムス腫瘍 ③神経芽腫	講義
	↓ ーシンググラフィカ 小児看護 ーシンググラフィカ 小児看護		
成績評価の方法	記試験 100%		

八田玄	分野 専門分野Ⅱ		小児看護学援助論Ⅱ	担	当	津田雪代
刀到	9万万野Ⅱ	科目名	(健康の段階、発達段階に応じた看護)	講	師	齋藤 就美
開始	2年 後期	単位数	1 単位	実	務	あり
年次	2年 後期	時間数	30時間	経	験	「看護師としての臨床経験」

さまざまな状況にある子どもと家族に看護を実践するための基礎的能力を養う。

## 授業のキーワード

疾病の経過 発達段階 看護技術

	I	看護技術		
時間	目標	主題	内容	指導方法
	1. 疾病の経過をふまえ	(1)急性期にある子ども	①急性期の子どもの特徴	講義
	た子どもと家族への	と家族の看護	②急性期の家族の特徴	
	看護を理解できる。		③急性期の子どもと家族への看護	
		(a) Established to a second		mate V
		(2) 周手術期の子どもと	①子どもの手術の特徴	講義
		家族の看護	②手術を受ける子どもの反応	
			③周手術期の子どもと家族の看護	
			④退院への指導や援助と継続看護	
		(の) 旭州中のマキ フ フ ごす	①担処世のフドナト学生の性徴	# <del>*</del>
		(3)慢性期にある子ども	①慢性期の子どもと家族の特徴	講義
		と家族の看護	②慢性期の子どもと家族の看護	
		   (4)慢性期にある子ども	   ①気管支喘息の乳児期、幼児期、学童期にある	講義
		と家族の事例展開	対象の事例展開	演習
		ころがヘックザルが区凹	▽13/2/~ 土 ドイスイスト/11	1六日
		   (5)終末期にある子ども	①子どもの生命、死についてのとらえ方	講義
		と家族の看護	②終末期にある子どもの看護	H1732
			③終末期にある子どもの家族の看護	
			, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	
	2. 小児看護に必要な看	(1)検査・処置をうける	①発達に応じた説明と同意	講義
	護技術を習得でき	子どもと家族の看護	②子どもの安全・安楽への援助	
	る。		③子どもの家族への援助	
		( ) ==== ( ======		-11. ) .
		(2)発達段階に応じた看	①安全な入院環境の整備	講義
		護技術	②バイタルサイン	
			③身体測定	
			④与薬	
			⑤輸液管理	
			⑥吸入療法 ② Table Table	
			⑦酸素療法	
			⑧検体採取	
			⑨乳幼児、学童に必要な看護技術	₩ <del>+</del> यय
			≪援助場面における説明の方法≫	演習
			・乳幼児、学童のバイタルサイン測定	
			・乳幼児、学童の与薬方法 ・乳幼児、学童のコミュニケーション	
			《輸液管理》 《母母空制·無推空制》	
			≪骨髄穿刺・腰椎穿刺≫ ≪吸入療法≫	
			<u> </u>	

テキスト・参考文献	「ナーシンググラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護」 メディカ出版 「ナーシンググラフィカ 小児看護学② 小児看護技術」 メディカ出版 「NANDA-I 看護診断 定義と分類 2021-2023」医学書院
成績評価の方法	筆記試験 100%

## 実習名 小児看護学実習

時 期	3年
単位(時間)	2単位(90時間)

目的:子どもとその家族を理解し、小児看護を実践する能力を養う。

## 小児看護学実習1 (特別支援学校実習)

学習活動	学習活動における評価規準
1. 地域で生活する障害のある子ども・家族の特徴と、支援を理解する。	1) 障害のある子どもと家族への関わりと支援について学んでいる。

## 小児看護学実習2(病院実習)

学習活動	学習活動における評価規準
1. 日々の関わりを通して子ども・家族を多面的にとらえ、理解を深める。	1) 「健康障害」「成長・発達」「子どもと家族の思い」の視点から子どもと家族をとらえ、日々の関わりを通して、その理解を深めている。
2. 子ども・家族にとっての最善の看護 について考え、実践する。	1)子どもと家族の状況に合わせ、成長・発達を促したり、治療意欲が高まったりするよう、工夫して関わっている。
	2) 自己の実践を振り返って分析・意味づけし、よりよい実践を追求している。
	3) 看護チームの一員として、情報を共有している。
3. 見学・体験・実践を通し、小児看護についての理解を深める。	1) 見学・体験・実践した事柄を意味づけし、小児看護の役割について理解を深めている。

分野	専門分野Ⅱ	授業 科目名	母性看護学概論		当 師	
開始 年次	1年 後期	単位数 時間数	1 単位 1 5 時間	実経	務験	
有条り	ロムトフィドしっと)、					

授業の目的及びねらい									
母性	看護の概念、及び、対象	を取り巻く社会の変遷・動向に	ついて学習し、母性看護の基礎的能力を	養う。					
授業の	キーワード								
母性	性 リプロダクテ	ィブヘルス /ライツ ヘルス	プロモーション 母子保健 生命	倫理					
時間	目標	主 題	内 容	指導方法					
	1. 母性看護の基盤と なる概念を理解す る。	(1) 母性とは	①母性とは・父性とは・親とは ②母性看護の対象	講義					
		(2)セクシュアリティ	<ul><li>①性とは</li><li>②人間の性の特徴</li><li>③セックスとジェンダー</li></ul>	講義					
		(3) リプロダクティブヘルス /ライツ	<ul><li>①リプロダクティブヘルス /ライツとは</li><li>②リプロダクティブヘルス /ライツの課題</li><li>③ヘルスプロモーションとは</li><li>④女性の生涯にわたる健康教育</li></ul>	講義					
		(4) 母性看護のあり方	①母性看護とは ②母性看護の役割 ③母性看護の場と職種	講義					
		(5)母性看護における倫理	①生命倫理と看護倫理 ②看護における倫理的意志決定	講義					
		(6) 母性看護における安全	①母性看護の現場における事故 ②母性看護・医療事故の予防	講義					
	2. 母性看護の歴史的 変遷と母性看護の 対象を取り巻く社 会の現状について 理解する。	(1) 母性看護の変遷と社会の 現状	①母性看護の変遷 ②母子保健統計からみた動向 ③母性看護に関する組織と法律 ④母子保健施策からみた現状	講義					
テキス	テキスト・参考文献       「系統看護学講座 母性看護学〔1〕母性看護学概論」 医学書院         「国民衛生の動向」 厚生労働統計協会								
成績評	価の方法 筆記記	験100%							

分野	専門分野Ⅱ	授業	母性看護学援助論 I	担	当	永井 彩乃
刀到		科目名	(母性のライフサイクルと看護)	講	師	永山 夕水
開始	9年 前期	単位数	1 単位	実	務	あり
年次 2年 前期		時間数	3 0時間	経	験	「看護師としての臨床経験」

- 1. ライフサイクル各期の看護について理解する。
- 2. 女性特有の健康問題と看護について理解する。

3. 母性の健康をめぐる課題と看護について理解する。 授業のキーワード ライフサイクル 母性 性機能 性教育 家族計画 不妊 更年期障害 女性生殖器疾患 健康課題 時間 主 題 指導方法 目 標 内 1. 女性のライフ (1) ライフサイクル ①ライフサイクルと健康 講義 サイクル各期の ②現代女性のライフサイクルの変化 特徴と健康の保 (2) 思春期の健康と看護 ①性の発達 講義 持・増進、疾病 生殖器の形態、性機能 の予防、健康問 ② 思春期の特徴と健康教育 題に対する看護 第二次性徵 月経 栄養 性教育 ③思春期の健康問題と看護 について理解す 摂食障害 貧血 月経異常 る。 ④性がもたらす問題の多様性 人工妊娠中絶 性感染症 (3) 成熟期の健康と看護 ①成熟期の特徴と健康教育 講義 婚姻と就労 家族計画 子育て ②成熟期の健康問題と看護 不妊 周産期の死 (4) 更年期の健康と看護 ①更年期の特徴と健康教育 講義 ②更年期におこりやすい健康問題と 看護 ③更年期障害 (5) 老年期の健康と看護 ①老年期の特徴 講義 ②老年期におこりやすい健康問題と 看護 2. 母性機能に影響 (1)女性生殖器疾患をもつ対象 (1)診察時の看護 講義 を与える健康問 ②症状とその病態に対する看護 の看護 ③子宮疾患・卵巣疾患対象の看護 題の看護につい て理解する。 手術療法、化学療法、放射線療法を 受ける対象の看護 ④乳房疾患対象の看護 手術療法、化学療法、放射線療法を 受ける対象の看護 3. 現代社会にお (1)母性の健康をめぐる課題 ①母性看護の対象を取り巻く環境 講義 ける母性の健康 ②国際化社会と母性看護 をめぐる課題に ③育児不安と虐待 ついて理解す ④性暴力 る。 テキスト ・参考文献 「系統看護学講座 母性看護学〔1〕母性看護学概論」医学書院 「系統看護学講座 母性看護学〔2〕母性看護学各論 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学〔9〕女性生殖器」医学書院 成績評価の方法 筆記試験 100%

分野	専門分野Ⅱ	授業科目名	母性看護学援助論 II (妊娠期、分娩期の看護)	担当講師	岩島 あけみ 中井 愛 唐島田 順
開始	2年 前期	単位数	1単位	実 務	あり
年次	△ 平 削朔	時間数	3 0 時間	経 験	「看護師としての臨床経験」
		ı			

授業の目的及びねらい (妊娠期) 1. 妊娠期の生理的変化や、経過および看護について理解する。

2. 妊娠期の主な異常について学習し、予防と対処方法について理解する。

(分娩期) 3. 分娩期の生理的変化や、経過および看護について理解する。

4. 分娩期の主な異常について学習し、母子に及ぼす影響について理解する。

授業のキーワード	
----------	--

胎児 分娩 生理的変化	ハイリスク妊娠 異常	妊娠 異常分娩 早期母子接触 愛着	形成
目標	主題	内容	指導方
1. 正常な経過をたどる 妊婦の看護が理解で	(1)妊娠の生理	①妊娠の成立 ②胎児の発育とその生理	法 講義
きる。	(2)妊婦の身体的、心理・ 社会的特徴と看護	③母体の生理的変化 ①妊娠の受容と看護	講義
	正四时间以下相反	②妊婦の健康診査 <腹囲、子宮底測定>	演習
		保健指導・妊娠の届け出 母乳栄養の利点 胎児心拍モニタリング ④分娩の計画と準備 分娩前教育 バースプラン ⑤事例を用いた妊娠期のアセスメント	
2. 妊娠期にみられる異常と妊婦の看護が理解できる。	(1)ハイリスク妊婦・異常妊娠と看護	②妊娠期の感染症 ③妊娠疾患 妊娠糖尿病 妊娠高血圧症候群・血液型不適合妊娠 ④多胎妊娠 ⑤妊娠持続期間の異常	講義
3. 正常な経過をたどる 産婦の看護が理解で	(1)分娩の進行と産婦の身 体的、心理・社会的特	①分娩の要素 ②分娩の経過	講義
きる。	徴と看護	<胎児付属物の観察> ③産婦と家族の看護 早期母子接触 バースレビュー	演習
4. 分娩期にみられる異常と産婦の看護が理解できる。	(1) 分娩の異常と看護	④事例を用いた分娩期のアセスメント ①分娩にみられる異常 産道の異常・陣痛の異常・胎児付属物 の異常(羊水混濁・MASを含む) 分娩時異常出血・産科処置と産科手術 ②異常分娩時の産婦の看護	講義
	目標  1. 正常な看護がを理解があるで、とのできる。  2. 妊娠というのは、	1. 正常な経過をたどる 妊婦の看護が理解できる。 (2)妊婦の身体的、心理・社会的特徴と看護 常と妊婦の看護が理解できる。 (1)ハイリスク妊婦・異常 生婦の看護が理解できる。 (1)分娩の進行と産婦の身体的、心理・社会的特徴と看護 な理解できる。 (1)分娩の進行と産婦の身体的、心理・社会的特徴と看護	主題   内容   上題   内容   日標   主題   内容   日標   上頭   日報   日報   日報   日報   日報   日報   日報   日

分野	専門分野Ⅱ	授業	母性看護学援助論Ⅲ	担当	寺本 美智代
刀到	号门刀到 11	科目名	(産褥期、新生児期の看護)	講師	中川 美千代
開始	2年 後期	単位数	1単位	実 務	あり
年次	2 午 夜朔	時間数	3 0 時間	経 験	「看護師としての臨床経験」

(産褥期) 1. 産褥期の生理的変化及び、母子、家族への看護について理解する。

2. 産褥期の主な異常について学習し、予防と対処方法について理解する。

(新生児期) 3. 新生児期の機能と生理的変化について理解する。

4. 子宮外生活への適応を促進する看護の基礎的能力を養う。

## 授業のキーワード

産褥 退行性変化 進行性変化 役割獲得 新生児 愛着・母子相互作用 子宮外適応現象 生理的変化 産後うつ

時間	目標	主題	内容	指導方法
	1. 正常な経過をたど	(1)産褥の身体的、心	①退行性変化 ②進行性変化	講義
	る褥婦の看護が理	理・社会的変化	③褥婦・家族の心理的変化	-11. \
	解できる。	(2) 褥婦と家族の看	①身体機能回復への看護	講義
		護	活動・休息 栄養 排泄	
			子宮底の高さと硬さの観察	
			②母乳栄養確立への看護	
			栄養授乳搾乳乳房・乳頭の観察	
			③役割獲得への看護	
		/a\ ===     ==	愛着・母子相互作用 育児技術 退院指導	-46-34-
		(3)産褥期にある対	①正常な経過をたどる壮年期にある経産婦の	講義
		象の事例展開	事例展開	演習
	2. 産褥期にみられる	(1) 産褥の異常と褥	①子宮復古不全 ②産褥感染症	講義
	異常と看護が理解	婦の看護	③産褥血栓症 ④マタニティブルーズ	研我
	できる。	が中でノー目・皮	⑤産後うつ ⑥産褥期の異常と看護	
	C C ⊘₀		<u> </u>	
	   3. 正常な経過をたど	(1) 新生児の機能と	①新生児の機能	講義
	る新生児の看護が	生理的変化	②生理的変化	11172
	理解できる。		生理的体重減少・生理的黄疸	
		(2) 出生直後の看護	①出生直後の観察・測定	講義
		.,,,,,	②出生直後のアセスメント	.,,,,,
		(3) 新生児期の生理	①子宮外生活への適応状態	講義
		的変化と看護	日々の観察とアセスメント	
			②子宮外生活適応への看護	
			保育環境 沐浴・感染予防 栄養	
			《全身の観察・バイタルサインの測定、更衣・	演習
			沐浴・臍処置、移動・移送≫	
			<調乳> <身体測定>	
			③新生児期におこりやすい医療事故	講義
			取り違え防止	
テキス	 スト・参考文献 「系統	看護学講座 母性看護	  学 〔2〕  母性看護学各論」医学書院	
	「NAND	A-I 看護診断 定義と	分類 2021-2023」 医学書院	
成績部	平価の方法 筆記	試験100%		

## 実習名 母性看護学実習

時 期	3年
単位 (時間)	2単位(90時間)

目的:周産期の対象を通し、看護が実践できる基礎的能力を養う。

目標	行動目標
1. 妊娠期・産褥期	1. 妊娠・分娩・産褥経過を判断するための事実を述べることができる。
にある対象者の アセスメントが できる。	2. 妊娠・分娩・産褥経過が順調であったのか、問題があったのかを述べる ことができる。
	3. 産褥経過に妊娠・分娩の経過が及ぼす影響について述べることができる。
2. 妊娠期・産褥期 にある対象者の	1. 妊婦・褥婦に対して、計画にそった実施ができる。
看護が実施でき る。	2. 妊婦・褥婦に実施した看護を報告することができる。
20	3. 妊婦・褥婦に実施した看護を評価することができる。
3. 胎児期・新生児 期にある対象者 の看護が実施で	1. 胎児の経過及び出生時の状態を判断するための事実を述べることができる。
きる。	2. 胎児の経過および出生時の状態が順調であったのか、問題があったのか を述べることができる。
	3. 子宮外生活適応に、胎児の経過および出生時の状態が及ぼす影響について述べることができる。
	4. 胎児・新生児に対して、計画にそった実施ができる。
	5. 胎児・新生児に実施した看護を報告することができる。
	6. 胎児・新生児の状態と実施した看護を評価することができる。
4. 周産期にある対象の看護を通して、母性看護に	1. 見学・実施した看護を通して、妊娠期・分娩期・産褥期・胎児期・新生児期の看護について自らの考えを述べることができる。
ついて述べるこ とができる。	2. 見学・実施した看護を通して、妊娠期・分娩期・産褥期・胎児期・新生児期における母性看護の特徴について述べることができる。
	3. 臨地実習で行った看護を振り返り、母性看護の学びを共有することができる。

分野	専門分野Ⅱ	授業 科目名	精神看護 (精神看護の基 の健康	本概念と精神	担当講師	
開始 年次	1年後期	単位数 時間数	1単 3 0 <sup>日</sup>	•	実 務 経 験	
授業の	目的及びねらい					
1. 精	神看護の基本概念、基本理論	まと健康支援 しゅうしょう かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かい	を理解する。			
	キーワード					
	健康 パーソナリティの発			青神の健康問題 -		11.34.1.31
邿間	目標		主題	=	内容	指導方法
	1. 精神看護の考え方と 精神看護に必要な基礎 理論を理解できる。	(1)精神者語	護の基本概念	①精神の健康 ②精神障害の ③精神看護の ④精神看護の ・リエゾン看	のとらえ方 D対象 D役割	講義
			構造・機能と ナリティの発達	②防衛機制 ③パーソナ! ・フロイトの	の3層の人格構造 リティの発達理論 の性的発達理論 ノの漸成的発達理論	講義
		(3) ストレン	スと危機	・ストレスへ (コーピン ②危機(クラ ・危機とは ・危機介入と	文応の現れ方 への対処 レグ) ライシス) とは の理論的背景	講義
	2. 現代社会における精神の健康問題、健康支援について理解できる。	(1) ライフ・ おけるが	サイクルに 危機	②学童期にお	青年期における危機 中年期における危機	講義
		(2)精神の他 健康支持	健康問題と 援	・自傷行為	いきこもり ・不登校 ・薬物乱用 ・依存症 ・犯罪被害 ・過労列	

筆記試験100%

成績評価の方法

分野	専門分野Ⅱ	授業 科目名	精神看護学概論 II (精神保健福祉活動の動向)	担当講師	森 このみ 中島 彰子
開始年次	2年前期	単位数 時間数	1 単位 1 5 時間	実 務 経 験	あり 「看護師としての臨床経験」

- 1. 精神医療・看護の現状と精神保健医療福祉施策および倫理的課題について理解する。
- 2. 精神に障害のある対象の地域生活を支える精神保健医療福祉施策を理解する。

#### 授業のキーワード

精神保健医療福祉活動の変遷 地域精神保健医療福祉活動

精神保健福祉法

心神喪失者等医療監察法 障害者総合支援法

時間	目標	主題	内容	指導方法		
	1. 精神保健医療福祉と法	(1)精神保健医療福祉の変遷	①精神病概念の変遷	講義		
	制度について理解でき		②精神病者の処遇の歴史			
	る。		③現行法にいたるまでの法律の変遷			
			④社会的偏見と差別			
			・社会的烙印(スティグマ)			
		(2)精神保健医療福祉の	①精神保健福祉法	講義		
		法制度	②心神喪失者等医療観察法			
			③障害者総合支援法			
		(3) 精神保健医療福祉施策の	①我が国における精神保健医療福祉	講義		
		動向	施策の現状			
			②今後の課題			
		(4)精神保健医療福祉領域に	①看護の倫理とアドボカシー	講義		
		おける倫理的課題	②インフォームドコンセント			
			③精神に障害のある対象の権利擁護			
			と自己決定支援			
	0、特种但种医房边为江洋和	/1/水手が上がリッチがナブ リーン 12 川	①全人的リハビリテーション	±±±		
	2.精神保健医療福祉活動 とリハビリテーション	(1) 精神科におけるリハビリ テーションの考え方		講義		
	について理解できる。	ケーションの考え方	②国際生活機能分類(ICF)の 考え方			
	について理解できる。		与ん力			
		(2) 地域精神保健医療福祉	①治療を継続するための場	講義		
		活動における社会資源の	•病院、診療所	n1142		
		活用	・デイケア、ナイトケア			
		147.13	<ul><li>訪問看護</li></ul>			
			②障害者総合支援法における			
			サービス			
			③雇用および就労支援			
			④家族や当事者によるサポート			
			・ピアサポート			
			⑤精神科チームによる連携			
			⑥在宅医療との連携			
テキスト・参考文献 「ナーシング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本」メディカ出版						
	「ナーシン	ノグ・グラフィカ 精神看護学②	) 精神障害と看護の実践」 メディ	カ出版		
	「国民衛生	上の動向」 厚生労働統計協会				
		<b>美100%</b>				

分野	専門分野Ⅱ	授業	精神看護学援助論 I	担	当	井上 香里
刀對	● 守门刀野 Ⅱ	科目名	(精神疾患の理解と精神看護の特徴)	講	師	上野 竜也
開始	2年前期	単位数	1 単位	実	務	あり
年次	△ + 削舟	時間数	30時間	経	験	「看護師としての臨床経験」

精神に障害のある対象の特徴を理解し、看護を実践するための基礎的能力を養う。

授業の	キーワード			
	疾患 精神症状		関わり リスクマネジメント	1
時間	目標	主題	内容	指導方法
	1. 精神症状のとらえ方と 主な疾患、検査、治療 について理解できる。	(1)精神医学の基礎的知識	①精神医学を学ぶ理由 ②精神医学の対象	講義
		(2)精神症状と状態像のとらえ方	①感情の障害 ②知覚の障害 ③思考の障害 ④意欲の障害 ⑤記憶の障害 ⑥知能の障害 ⑦意識の障害 ⑧自我意識の障害	講義
		(3)主な精神疾患の理解	①精神疾患の分類 ・国際疾病分類(ICD分類法) ・DSM分類法 ②神経発達症 ・自閉症スペクトラム ・知的能力障害 ③統合失調症 ④抑うつ障害と双極性障害 ⑤不安障害(パニック障害) ⑥強迫性障害 ⑦ストレス因関連障害(PTSD) ⑧解離性障害 ⑨身体症状症および関連症 ⑩摂食障害 ⑪物質関連障害(アルコール、薬物) ⑫パーソナリティ障害	講義
		(4)医学的検査と心理検査	①医学的検査 ・脳検査 ②心理検査 ・知能検査 ・性格検査	講義
		(5)主な精神科治療	①薬物療法 ②精神療法(CBT) ③社会療法(作業療法、SST) ④電気けいれん療法	講義

2. 精神に障害	のある対象 特徴と基本	(1)精神に障害のある対象の理解	①精神に障害のある対象及び家族の特性	講義
的援助を理		V 72±77∓	1.1.	
		(2)精神科看護におけるケアの方法	①治療的関わりの考え方 ・看護師に求められるコミュニケーション技術 ②日常生活行動の援助 ・入院患者の日常生活 ・治療としての生活援助 ・社会学習への援助 ③服薬治療にかかわる援助	講義
		(3) 環境の治療的意義とその活用	①病院・病棟の環境 ②環境の治療的意義 ③環境の治療的活用	講義
		(4) リスクマネジメント	①自殺 ②暴力行為 ・包括的暴力防止プログラム (CVPPP) ③無断離院 ④誤嚥・窒息 ⑤転倒・転落	講義
テキスト・参考文献		グ・グラフィカ 精神看護学 グ・グラフィカ 精神看護学		
成績評価の方法	筆記試験	100%		

分野	専門分野Ⅱ	授業	精神看護学援助		担	当		祐樹	市	木 康妇
	41 324.4 =	科目名	(疾病の経過に応じ)	た看護)	講	師	中島	彰子	, <b>k</b> 10	
開始 年次	2年後期	単位数時間数	1 単位 3 0 時間		実経	務験	Γ <b>≠</b> ÷	生品 し	あり	哈古汉縣
	目的及びねらい	时间级	3 U时间		栓	<b></b>	「有i	護印と		臨床経験
	に障害のある対象と家族	マ対して健	:事団復に向けた手雑坪	日力・ハミチ甲希召っ	ナス					
	キーワード		がお口(文(CIPJV) / C/目(支)及	(2)1/1/21/17	) ·o/o					
経過	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	と休息の確	保 現実感の獲得	セルフク	ケア	追	院支援	<u>Z</u>		
謂	目標		主題			内	-			指導方法
日標 1. 精神に障害のある対象 の疾病の経過と症状、 治療をふまえた看護に ついて理解できる。		象(	注期〜回復期にある対 )看護	①本人お ・行動制 ・隔離、 ②身家睡以寒 ・ の の の の の の の の の の の の の の の の の の	限拘態の体態である。	アセン 助 の確信 得 意形!	スメン 呆 成	F		講義
		(2)慢性	生期にある対象の看護	①セルフ ②社会復 ③長期入 ④地域に ⑤訪問・	帰に 院患 おけ	向け 者の記 る支持	ての支持 退院支持 爰シス <sup>3</sup>	援 テムの活	5用	講義
			マな精神症状を呈する 象の看護	①幻覚· ②意欲低 ③不安 ④強迫 ⑤希死念 ⑥躁、抑 ⑦依存 ⑧攻撃 ⑨操作等	下 慮 1うつ					講義
			マな治療を受ける対象 看護	①薬物療 ②精神療 ③社会療 ④電気け ⑤その他	法(d 法(d いれ	作業派	療法、	SST)		講義
	2.主な精神疾患をもつ 対象の看護について 理解できる。	(1)主机	は精神疾患の看護	①神経発 ・自閉症 ・知的能 ②統合失 ③抑うつ ④不安障	スペッカ (力) (清) (清) (清) (清)	クト 害 の看記 と双材 パニ	ラム 獲 <u></u> 変性障 ック障		-	講義

⑤強迫性障害の看護

の看護

⑥ストレス因関連障害(PTSD)

		(2)慢性期にある精神に障害 のある対象の事例展開	⑦解離性障害の看護 ⑧身体症状症および関連症の看護 ⑨摂食障害の看護 ⑩物質関連障害(アルコール、薬物) の看護 ・セルフヘルプグループ(AA) の活動 ⑪パーソナリティ障害の看護 ①統合失調症で壮年期にある対象の 事例展開	特別講義 講義 演習	
			②プロセスレコードの考察		
テキスト・参考文献	「ナーシン	グ・グラフィカ 精神看護学① グ・グラフィカ 精神看護学② ·I 看護診断 定義と分類 20	精神障害と看護の実践」 メディ		
成績評価の方法 筆記試験100%					

## 実習名 精神看護学実習

時 期	3年
単位 (時間)	2単位(90時間)

## 精神看護学実習1(病院実習)

目的:精神に障害のある対象の特徴を理解し、看護を実践できる能力を養う。

目標	行動目標
1. 精神に障害のある対象の療養環境を理解することができ	1. 入院環境の治療的意義を述べることができる。
る。	2. リスクマネジメントの実際について述べることができる。
2. 精神に障害のある対象者を理 解することができる。	1. 健康障害を考慮して看護プロフィールを述べることができる。
	2. 健康障害をふまえ、対象者の情報を収集し分析することができる。
	3. 健康障害が対象者の生活に与える問題を明確にできる。
3. 精神に障害のある対象者の特徴をふまえた看護を実施でき	1. 精神に障害のある対象者の特徴をふまえた計画立案ができる。
る。	2. 精神に障害のある対象者の特徴をふまえ、目標の達成に向けて実施できる。
	3. 実施した看護を報告できる。
	4. 精神に障害のある対象者の特徴をふまえ、日々の看護を評価できる。
4. 治療環境としての自己を活用 することができる。	1. 対象者の言動の意味・原因について述べることができる。
	2. 自己の言動が対象者に及ぼす影響について述べることができる。
	3. 対象者と自己の相互作用を考察し、関わりを振りかえることができる。
	4. 対象者と自己の相互作用における考察を日々の関わりにいかすことができる。
5. 対象者—看護者関係の発展に ついて理解できる。	1. 実施した看護を通して、対象者―看護者関係の発展について考察することができる。

## 精神看護学実習2(社会復帰施設実習)

目的:社会復帰施設での活動を通して、精神の障害のある対象が地域で生活するための支援について学ぶ。

目標	行動目標
1. 精神に障害のある対象が地域で生活するための支援につい	1. 施設に通所している利用者と家族の実際について述べることができる。
て理解できる。	2. 社会復帰施設の役割を述べることができる。
	3. 社会復帰支援に対する自己の考えを述べることができる。

# 5. 統 合 分 野

	授 業 科 目	単位	時間
	在宅看護概論 I (在宅看護の概念)	1	1 5
	在宅看護概論Ⅱ(在宅ケアシステム)	1	1 5
在宅看護論	在宅看護援助論 I (日常生活援助・医療処置を伴う援助)	1	3 0
	在宅看護援助論 II (在宅で療養する人と家族の援助)	1	3 0
(臨地実習)	在宅看護論実習	2	9 0
	小計	6	180
	総合看護	1	3 0
	看護医療安全	1	3 0
看護の統合と実践	災害看護	1	3 0
	看護技術評価	1	1 5
(臨地実習)	統合実習	2	9 0
	小計	6	1 9 5
合 計		1 2	3 7 5

	·					
分野	統合分野	授業	1	宅看護概論 I	担当	
	772 173 77	科目名	(在	に名養の概念)	講師	
開始	2年 前期	単位数		1 単位	実務	
年次	DW. Tank	時間数		15時間	経験	
	目的及びねらい					
	活護の特徴および役 キーワード	きまたついく理解する	) <sub>0</sub>			
, ,,,,	イーリート 活護 訪問看護	 生活者 生活の	)近 大学は	養者と家族 権利	<b>赤</b> 彦准	
	<u> </u>		月 任七族 題	1	<del>难受</del>	指導方法
<u>+∆ </u> ⊨1	1. 在宅看護の概念を 1. 本宅看護の概念を		· <del>-</del>	①日本の在宅看護の		講義
	理解できる。		(C14	②在宅看護の目的	及近で江云の日京	四十十五
	71.77 C 0°			③在宅看護の内容		
		(2)在宅看護	の特性	①在宅で療養しなか	ら生活するとは	講義
				②在宅療養を支える	人々	
				③訪問看護とは		
				④訪問看護の制度		
				⑤訪問看護の役割		
		(3)在宅看護	における	①療養者と家族の意	講義	
		倫理		②療養者と家族の権	<b>在</b> 打排信隻	
	   2. 在宅看護の対象を	と (1)在宅療養	老の性徴	□年齢からみた特徴	<del>(1</del>	講義
	理解できる。		日の小山政	②疾患からみた特徴	四件寻艾	
	ADJT (C 3)			③障害からみた特徴		
				④在宅療養状態別に		
		(2)家族の特	徴	①家族の機能と変遷	丘	講義
				②家族を理解するた	上めの基礎理論	
				・家族システム理	1論	
				・家族対処理論		
				• 構造 機能理論	H H	
				③介護家族の状況		
テキス	ト・参考文献	ナーシンググラフィ	カー在宅看護	  論① 地域療養を支	えるケア」 メディス	出版
	Г	- ナーシンググラフィ	力 在宅看護	論② 在宅療養を支	える技術」 メディス	出版
	Γ	国民衛生の動向」	厚生労働統計	協会		
<u>─</u> 戊績評	価の方法	筆記試験100%				

分野	法人八昭	授業	在宅看護概論Ⅱ	担当	
刀到	統合分野	科目名	(在宅ケアシステム)	講師	
開始	2年 前期	単位数	1 単位	実 務	
年次	24 削翔 	時間数	15時間	経 験	

- 1. 在宅ケアシステムの機能を理解し、関係機関・関係職種の役割について学ぶ。
- 2. ケアマネジメントについて理解する。
- 3. 訪問看護活動と訪問看護ステーションの役割について理解する。

授業のキーワード 地域包括ケアシステム 連携・協働 ケアマネジメント 社会資源 訪問看護ステーション 時間 指導方法 目 標 主題 内 容 1. 在宅ケアとケアマネ (1) 在宅ケアと ①ケアマネジメントの目的 講義 ジメントについて理 ケアマネジメント ②ケアマネジャーの役割 解できる。 ③ケアマネジメントの記録・情報管理 2. 関係機関の機能と (1)保健医療福祉機関 ①医療施設、介護保険施設、保健機関等の 講義 関係職種の役割につ 役割 ②関係職種の役割 いて理解できる。 ③関係職員・機関との連携 3. 地域包括ケアシステ (1) 在宅ケアに関わる 講義 ①介護保険制度における在宅要介護者等への ムと在宅ケアシステ 保健医療福祉施策 サービス・施設サービス ムについて理解でき ②医療保険制度における施設および在宅サー ビス る。 ③地域包括支援センター (2)在宅ケアシステムの ①看護職と他の関係職種との連携と協働 講義 機能 ②病院内の看護の連携 ③施設内看護(臨床看護師)と在宅看護(訪 問看護師) 間の連携 ④退院調整看護師の役割 ⑤ボランティア、近隣の人々との交流と協働 (3)地域の社会資源(在 ①在宅福祉サービス、施設福祉サービス 講義 宅ケア関連サービス) ②保健・医療サービス等 の種類とその活用 ③地域の社会資源の効果的な活用 4. 訪問看護活動を理解 (1)地域包括ケアシステ ①訪問看護師の役割 講義 できる。 ムにおける訪問看護 ②在宅ケアを支える訪問看護ステーションの 活動 設置と管理運営 ③訪問看護ステーションの活動の実際 ④訪問看護記録 「ナーシンググラフィカ 在宅看護論(1) 地域療養を支えるケア」 メディカ出版 テキスト・参考文献 「国民衛生の動向」 厚生労働統計協会 成績評価の方法 筆記試験 100%

分野	統合分野	授業	在宅看護援助論I	担当	
		科目名	(日常生活援助・医療処置を伴う援助)	講師	
開始	2年 後期	単位数	1 単位	実 務	
年次	2年 後期	時間数	3 0時間	経 験	

- 1. 在宅での療養生活に必要な環境の調整と日常の生活行動の援助を習得する。
- 2. 在宅での医療処置の方法や療養者・家族への看護について理解する。

## 授業のキーワード

マナー 在宅での日常生活援助 在宅での医療処置

マナ	ー 住宅(切)	日常生活援助  在名で	· の医療処置	1	
時間	目標	主 題	内 容	指導方法	
	1. 在宅療養の場に応 じた日常生活援助技 術を習得できる。		①在宅における援助の特徴 ②家庭訪問の意義と訪問時のマナー 在宅におけるコミュニケーション技術	講義	
		(2)日常生活の援助	①住環境の整備 ②食事の援助 ③排泄の援助 ④清潔・衣生活の援助	講義	
			<ul><li>≪入浴、家庭にある物品を使用した洗髪・</li><li>陰部洗浄≫</li><li>⑤移動の援助</li></ul>	演習	
			《福祉用具を使用した移動》 ベッド上での体位変換 ベッドと車椅子間の移乗	演習	
	2. 在宅で医療処置を 必要とする人の看		①服薬支援 ②経管栄養法	講義	
	護を理解できる。		《 経鼻栄養・胃瘻栄養 》 ③在宅輸液管理 ④膀胱留置カテーテル管理 ⑤在宅酸素療法(HOT) ⑥在宅人工呼吸療法(HMV) ⑦持続携行式腹膜灌流(CAPD) ⑧在宅における褥瘡予防と褥瘡ケア	溝義	
			<褥瘡予防と褥瘡ケア> ⑨在宅におけるストーマケア <人工肛門> 人工膀胱	演習講義演習	
テキス					
テキスト・参考文献 「ナーシンググラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア」 メディカ出版 「ナーシンググラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術」 メディカ出版 「ビジュアル 臨床看護技術ガイド」 照林社					
		記試験100%			

分野	統合分野	授業	在宅看護援助論Ⅱ	担当	
		科目名	(在宅で療養する人と家族の援助)	講師	
開始	2年 後期	単位数	1 単位	実 務	
年次	2 年 後期	時間数	30時間	経 験	

- 1. さまざまな状況にある在宅療養者・家族の看護の実際を理解する。
- 2. 在宅での終末期看護を理解する。

	主もじの終末期有護を基	世件 9 る。 - T				
	キーワード		L United States			
	活護 療養者と家族		<b>末期のケア</b>	1143344 1 34		
時間	目標	主題	内 容	指導方法		
	1. 在宅における対	(1)在宅における療養者	①療養者と家族の生活状況	講義		
	象の看護を理解	と家族の理解	②療養者とその家族の生活史・生活習慣・			
	できる。		価値観			
			③療養者と家族の社会資源の活用			
			④療養者と家族の生活に影響を及ぼす因子			
		(a) move to telephone and a standard and	⑤療養者と家族の看護	mette V		
		(2)脳血管障害で後遺症	①脳梗塞後遺症のある療養者と介護者の看護	講義		
		をもつ療養者と家族		演習		
		の事例展開				
	2. 在宅で療養する	(1)在宅における慢性	   ①慢性疾患のある療養者の特徴	講義		
	人と家族の状況	疾患のある療養者	②在宅で生活する慢性疾患の療養者の看護	四円才文		
	に応じた看護を	と家族の看護	佐川七く工行り 分良  江穴心 / 原長行 V / 有時			
	理解できる。	(2)在宅における難病	①難病の療養者の特徴	講義		
		のある療養者と家族	②在宅で生活するALSの療養者の看護			
		の看護				
		(3)在宅における精神	①精神疾患の療養者の特徴	講義		
		疾患の療養者と家族	②在宅で生活する統合失調症の療養者の看護			
		の看護				
		(4)在宅における小児	①在宅ケアを必要とする小児の特徴	講義		
		と家族の看護	②在宅における小児看護			
		(5)在宅におけるリスク	①感染の予防とその対応	講義		
		マネジメント	<b>②リスクマネジメント</b>			
			・在宅看護におけるリスク			
			・事故防止と危機管理			
	り ナウにわけてぬ	(1) 左ばによりまり <b>分士</b> 畑	①幼士田) ************************************	幸業		
	3. 在宅における終末期の看護を理	(1)在宅における終末期 療養者の特徴	①終末期にある療養者の特徴	講義		
	解できる。	(2)終末期プロセスと療	   ①終末期プロセスとケアの特徴	講義		
	7+ ( C ' S ' )	養者および家族への	訪問導入期・安定期・不安定期・	11177X		
		支援	死亡直前期・死亡後			
			②訪問看護師が支える終末期ケア			
			CMAILA BRXIIIA WALCOUNTINATA			
テキス	テキスト・参考文献 「ナーシンググラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア」 メディカ出版					
成績評	成績評価の方法 筆記試験100%					
/ / VID (H I	77.5	,,				

#### 実習名 在宅看護論実習

時 期	3年
単位(時間)	2単位 (90時間)

#### 在宅看護論実習1 (訪問看護ステーション)

目的:在宅療養者とその家族を理解し、看護を実践できる能力を養う。

目標	行 動 目 標
1. 在宅療養者とその家族を生活者として捉えることができる。	1. 療養者とその家族の生活の状況を述べることができる。
	2. 療養者とその家族の生活史・生活習慣・価値観を述べることができる。
	3. 療養者とその家族の生活に影響を及ぼしている因子とその関連を述べることができる。
2. 在宅療養者とその家族の主体性	1. 訪問時の援助計画を立案できる。
を尊重し、QOLの向上をめざ	1. 切印が7友切可四で立来くさる。
す看護が実施できる。	2. 療養者とその家族の意向や生活のペースを尊重した実施ができる。
	3. 訪問時の基本的な態度をとることができる。
3. 在宅ケアを効果的に行うための 保健・医療・福祉の連携と看護職	1. 訪問看護ステーションの概要と役割を述べることができる。
の役割が理解できる。	2. 療養者とその家族を支える保健・医療・福祉の連携の実際を述べることができる。
	3. 在宅ケアシステムを理解し、その中での看護師の役割を述べることができる。

#### 在宅看護論実習2(地域包括支援センター)

目的:地域包括支援センターの活動の実際を理解し、地域包括ケアについて学ぶ。

	大学を記述している。
目標	行 動 目 標
1. 地域包括支援センターの概要と	1. 地域包括支援センターの概要を述べることができる。
役割を理解することができる。	
	2. 地域包括支援センターの活動の実際を述べることができる。

分野	統合分野	授業 科目名	総合看護	担当講師	水谷 真由美 西村 路子 東 美香
開始	3年 前期	単位数	1 単位	実 務	
年次	3 平 削朔	時間数	3 0 時間	経 験	

#### 授業の目的及びねらい

- 1. 看護を取り巻く諸制度や看護管理について理解できる。
- 2. 看護倫理が理解できる。
- 3. 看護の国際協力のあり方や看護の動向が理解できる。
- 4. 看護研究の基礎が理解できる。

授業のキーワード

	<b>養倫理</b> 看護管理	リーダーシップ メ	ンバーシップ 国際看護 看護	
時間	目標	主題	内容	指導方法
	1. 看護管理について理解する。	(1)看護管理	①看護管理とは ②看護におけるマネジメント ③看護サービスのマネジメント ・看護の質の保障 ・人材のマネジメント ・物品・設備環境のマネジメント ・情報のマネジメント ・組織のリスクマネジメント ・看護サービスの評価	講義
		(2) チーム医療	①看護職の責任と役割 ②多職種との連携・協働	講義
		(3) 看護業務におけるチームワークとリーダーシップ	<ul><li>①組織とマネジメント</li><li>②リーダーシップ</li><li>③看護チームでの情報伝達・共有</li><li>④看護師長の役割と業務</li><li>⑤チームリーダーの役割と業務</li><li>⑥チームメンバーの役割</li></ul>	講義
		(4) 看護職のキャリアマネ ジメント	看護職のキャリア形成と成長	講義
	2. 生命の尊重及び人 権の擁護を踏まえ て看護職者の倫理 について理解でき る。	<ul><li>(1)看護職に求められる倫理</li><li>(2)生命の尊厳と倫理</li></ul>	①患者の権利 ②看護職の職業倫理 ①現代の医療・看護をめぐる倫理的 問題	講義
	3. 看護の動向と課題 について理解でき る。	(1)看護の国際協力	①世界の健康問題の現状 ②国際協力の仕組み ③プライマリーヘルスケア ④異文化の理解	講義
		(2)日本での看護の課題と 活動の方向性	①社会状況の変化と看護 ②看護活動に期待されるもの ③多職種との協働の中で看護の果たす 役割	講義

4. 看護研究の基礎が 理解できる。	(1) 看護における研究の意味	①研究とは ②看護研究とは ③研究過程の外観	講義
	(2)看護研究における倫理	①研究における倫理の必要性 ②研究と基本的人権 ③倫理上の原則 ④研究計画審査機構の設置	講義
	(3) 文献検討(検索)	①文献検討(検索)の意義 ②文献検索の資料と活用の仕方 ③文献の読み方 ④文献整理の方法	講義
	(4) 研究デザイン	<ul><li>①研究過程における研究デザインの位置づけ</li><li>②研究デザインの種類</li></ul>	講義
	(5)論文のまとめ方	①研究計画書作成の目的と概要 ②研究計画書の作成 ③論文の作成 ④学会発表の意義	講義
テキスト・参考文献	「系統看護学講座 看護研究 「系統看護学講座 看護の総 「系統看護学講座 基礎看護	統合と実践〔1〕看護管理」 医学書院	
成績評価の方法	筆記試験100%		

分野	統合分野	授業 科目名	看護医療安全	担当講師	松田 昌子 脇 千代 勝間 玲蘭
開始 年次	2年 後期	単位数 時間数	1 単位 3 0 時間	実 務 経 験	

#### 授業の目的及びねらい

1. 医療事故の問題について学び、リスクマネジメントの基礎を理解する。

2. 医療事故防止の方法を理解する。 授業のキーワード 医療事故 看護事故 リスクマネジメント ヒューマンエラー 事故の防止と方法 時間 目標 指導方法 主題 内容 1. 医療の現場における (1) 医療安全を学ぶことの ①人間の特性とヒューマンエラー 講義 リスクマネジメント 意味 ②事故発生のメカニズム (2) 医療事故防止の考え方 の基礎が理解できる。 ①医療事故と看護業務 講義 と防止のためのシステ a) 看護業務から見る医療事故 b) 看護事故の構造 c) 看護事故防止の考え方 ②リスクマネジメントの考え方 ③医療事故の分析 a) インシデントレポートと分析 b) 事故分析の方法 ④組織としての医療安全対策 演習 KYT(危険予知トレーニング) ⑤国内外の医療安全対策 講義 (1)診療の補助業務に伴 ①注射業務と事故防止 講義 2. 看護事故を自分自身 に起こりうる身近な う事故防止 ②注射業務で用いる機器での事故防止 ③輸血業務と事故防止 問題として捉え、その 防止の方法について ④内服与薬業務と事故防止 ⑤経管栄養注入と事故防止 理解できる。 ⑥チューブ管理と事故防止 ①転倒·転落事故防止 (2)療養上の世話におけ 講義 る事故防止 ②誤嚥事故防止 ③異食事故防止 ④入浴中の事故防止 (3) 共通する間違いと事故 ①患者間違い 講義 の発生要因 ②タイムプレッシャーと途中中断 ③思い込み (4) 医療安全とコミュニケ ①事故防止のためのコミュニケーション 講義 ーション (5) 医療従事者の安全と事 ①感染 ②放射線被爆 講義 故防止 ③医薬品の曝露 ④暴力 (6) 事故防止の実際 演習 ≪看護事故体験 ≫ テキスト・参考文献 「系統看護学講座 看護の統合と実践〔2〕医療安全 医学書院 成績評価の方法 筆記試験100%

分野	統合分野	授業 科目名	災害看護	担当講師	松浦和彦
開始 年次	3年 前期	単位数 時間数	1 単位 3 0 時間	実 務 経 験	

### 授業の目的及びねらい

- 1. 災害が人々の生命や生活に及ぼす影響を理解し、災害時における看護の役割・機能を学ぶ。
- 2. 災害時の看護が実践できる能力を養う。

	キーワード			
	サイクル 災害種類		ージ 心のケア 感染予防	
時間	目標	主題	内容	指導方法
	1. 災害および災害看 護に関する基礎知 識が理解できる。	(1)災害と看護	①災害・災害看護の定義 ②災害と災害看護の歴史 ③災害の種類と被害の特徴 ④災害サイクル	講義
		(2) 災害発生時の社会の対 応・しくみ	①災害に関連する国の政策、法律、制度 ②災害時の組織体制 ③災害時の情報収集と伝達 ④災害時の連携と協働、感染症対策 ⑤わが県の支援体制	講義
		(3) 災害が生命や生活に及ぼす影響と看護	①配慮を必要とする人への支援と看護 ②被災者と支援者の心理の理解と援助	講義
	2. 災害時における看 護の役割と機能に ついて理解できる。	(1) 災害時の看護の役割と 看護活動	①災害サイクルに準じた看護活動 静穏期・準備期、超急性期、急性期、 亜急性期、復旧復興期 ②避難所、仮設住宅、復興住宅での看護	講義
	3. 災害時に必要な看護技術を習得できる。	(1) 災害発生時の看護	①災害時必要な看護技術 《災害発生時指示に従った行動》 《トリアージ》 《小児の心肺蘇生》 《心肺蘇生(AEDを含む)》 《救急技術(止血法、包帯法)》	講義演習
テキス	、ト・参考文献	ナーシング・グラフィカ	看護の統合と実践 ③ 災害看護」 メディ	力出版
成績評	価の方法	筆記試験100%		

分野	統合分野	授業 科目名	看護技術評価	担当講師	十川優	花
開始	3年 前期	単位数時	1 単位	実 務		
年次	3 午 刑券	間数	15時間	経 験		
授業の	り目的及びねらい					
ß	艮られた時間の中で、複	数の対象者に必要な	看護を実践するための能	力を養う。		
	ウキーワード					
	持間管理 優先順位	複数対象者の援助	状況に応じた援助	多重課題		I
時間	目標	主題		内容		指導方法
	1. チームの一員として対象に必要な看護を実施する方法について理解できる。	(1)一日の業務の組	<ul><li>立 ①複数対象者を受ける</li><li>②一日のスケジュータイムスケジュー。</li><li>複数対象者への等</li><li>業務に要する時間</li></ul>	-ルの立案と業 ルの作成 援助の優先順例	務時間の管理	講義
	,, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	(0) 女子知明 の地	人的資源とチーク		<b>為力</b>	±± ¥±
		(2)多重課題への対	処 ①多重課題とは ②多重課題遂行時の ③多重課題発生時の	. —		講義
	2. 複数の対象者の行動計画を作成する 方法を習得できる。	(1)一日の行動計画 作成	の ①複数の対象者の事 ②複数の対象者の行 ③行動計画における 明確化	「動計画を作成		講義演習
		(2)複数の対象者の 況に応じた行動 画の立案	計複数の対象者の	)状況と看護計 )状況に応じた	行動計画の立案	講義演習
	3. 複数の対象者の状 況に応じて看護を 実施・評価する方	(1)複数の対象者の 況に応じた援助 実施と評価		る援助		講義
	法を習得できる。		②複数の対象者の状 優先順位の妥当	況に応じた援 作、時間管理		演習講義
		(2)多重課題発生時 対処の実際と評		記把握と判断 け処	·>	講義演習
		[short] are a second with the	②多重課題発生時の 優先順位の妥当 受持ち時に必要	援助の評価 作、時間管理 な情報、チー	の妥当性	講義
テキン	スト・参考文献	新体系  看護学全	書 看護の統合と実践①	)看護実践マ	ネジメント 医療: メヂカルフレ:	-

課題 30% レポート 70%

成績評価の方法

#### 実習名 統合実習

時期	3年後期
単位 (時間)	2単位(90時間)

目的: 既習の学習を統合し、専門職として看護が実践できる能力を養う。

日的:既省の子首を統合し、専門職とし	行動目標
1. 看護管理の実際を理解できる。	1. 病棟師長業務の見学をとおして、師長業務の実際と役割を述べることができる。
	2. リーダー業務の見学をとおして、リーダー業務の実際と役割を述べることができる。
	3. メンバー業務の体験をとおして、チームの一員としての役割を述べることができる。
2. 複数の対象者に対して看護を実践	1. 複数の対象者の現在の状況を把握し述べることができる。
できる。	2. 複数の対象者における1日の行動計画を、優先順位を考慮して立案できる。
	3. 複数の対象者に対して、実施前に対象者の状況を確認し 必要時は援助の変更ができる。
	4. 複数の対象者に対して、実施時に対象者へ説明し同意を得ることができる。
	5. 複数の対象者に対して、対象者の状況に応じた援助を反応を 確認しながら実施できる。
	6.複数の対象者に対して、優先順位を考慮し適切な時間内で援助が実施できる。
	7. 複数の対象者の日々の看護を評価できる。
	8. 複数の対象者の援助を実施して、優先順位の判断と時間管理の妥当性を評価できる。
3. 看護チームの一員として調整・報	1. 1日の行動計画の調整ができる。
告ができる。	2. 対象者の状況と援助の進行状況について報告・調整できる。
4. 専門職である看護師をめざすもの として基本的な態度をとることが できる。	1. 看護師として人間関係形成のための行動をとることができる。
C C S 0	2. 看護師としての自己課題を明確にできる。

# VI 事例のマトリックス

### Ⅵ 事 例 の マ ト リ ッ ク ス

領域	基礎看護学	成人看護学	成人看護学	成人看護学
講義時期	1年次•後期	2年次•前期	2年次•前期	2年次•後期
発達段階·性	老年期・男性	中年期·男性	中年期·女性	中年期・男性
疾患	細菌性肺炎	急性心筋梗塞	脳梗塞	糖尿病
疾病の経過	回復期	急性期	回復期	慢性期
	呼吸困難	胸痛	高血圧	高血糖
	分泌物増加	脂質異常症	脂質異常症	脂質異常症
症状	咳嗽		運動機能障害	糖尿病神経障害
			感覚障害	
	薬物療法	経皮的冠状動脈インター ベーション	理学療法	食事療法
治 療	安静療法	安静療法	薬物療法(内服)	薬物療法(インスリン・内服)
· 処 置		薬物療法(内服・輸液)		運動療法

老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	在宅看護論
2年次・後期	2年次•後期	2年次・後期	2年次•後期	2年次•後期
老年期・女性	幼児期・男児	壮年期・女性(経産婦)	壮年期·女性	老年期・女性
大腿骨頸部骨折	気管支喘息	正常分娩	統合失調症	脳梗塞後遺症
急性期~回復期	急性期	産褥期·新生児期	慢性期	慢性期
術後せん妄	不機嫌	<生理的変化> <生理的変化>	意欲低下	右片麻痺(不全麻痺)
脱臼	呼吸困難	子宮底の変化 体重減少	関心の低下	運動障害
	咳嗽	悪露の変化 黄疸	幻覚(幻聴)	嚥下障害
	喘鳴	乳汁分泌	妄想	言語障害
		心理的変化	認知機能障害	
手術療法	薬物療法 (輸液・吸入・内服)		薬物療法(抗精神病薬)	薬物療法
理学療法			社会療法	経管栄養(胃瘻)
			精神療法	

# VII 看護技術のマトリックス

### Ⅲ 看護技術のマトリックス

1 調	項目 ①患者にとって快適な病床環境をつくることができる	時到達レベル	領域	専門	『基礎分野		基礎看護学	l	成人看護学
1 調	①患者にとって快適な病床環境をつくることができる		基礎		-m (-k		-m 1-b +b 14b		
調	@ ## 1 1/5 to 0 10 1 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10	I	在宅	講義	環境人間学		_		
*××	②基本的なベッドメーキングができる 	I	基礎			演習	ベッドメーキング		
	③臥床患者のリネン交換ができる	П	基礎基礎				寝衣リネン交換		
	①患者の状態に合わせて食事介助ができる(嚥下障害のある患者を除く)	I	老年			演習	食事介助		
	②患者の食事摂取状況(食行動、摂取方法、摂取量)をアセスメントできる	I	基礎			講義			
	③経管栄養法を受けている患者の観察ができる 	I	在宅						
良	④患者の栄養状態をアセスメントできる	П	基礎			講義			
2 の	⑤患者の疾患に応じた食事内容が指導できる	П	成人					講義	
前	⑥患者の個別性を反映した食生活の改善を計画できる	П	成人					講義	
	⑦患者に対して、経鼻胃チューブからの流動食の注入ができる	П	在宅						
	⑧モデル人形での経鼻胃チューブの挿入・確認ができる	Ш	在宅						
	⑨電解質データの基準値からの逸脱がわかる	IV	基礎			講義			
	⑩患者の食生活上の改善点がわかる	IV	成人 基礎					講義	
	①自然な排便を促すための援助ができる	I	老年			講義			
	②自然な排尿を促すための援助ができる	I	基礎 老年			講義			
	③患者に合わせた便器・尿器を選択し、排泄援助ができる	I	基礎			演習	便・尿器の使い方		
	④膀胱留置カテーテルを挿入している患者の観察ができる	I	基礎在宅			講義			
	⑤ポータブルトイレでの患者の排泄援助ができる	П	基礎			演習	ポータブルトイレでの排泄援助		
***	⑥患者のおむつ交換ができる	П	老年						
3 援	⑦失禁をしている患者のケアができる	П	老年 在宅						
助	⑧膀胱留置カテーテルを挿入している患者のカテーテル固定、カテーテル管理、感染予防の管理ができる	П	基礎在宅			演習	膀胱留置カテーテル管理		
	⑨モデル人形に導尿または膀胱留置カテーテルの挿入ができる	Ш	基礎在宅			演習	導尿		
	⑩モデル人形にグリセリン浣腸ができる	Ш	基礎			演習	浣腸		
	⑪失禁をしている患者の皮膚粘膜の保護がわかる	IV	在宅						
	⑩基本的な摘便の方法、実施上の留意点がわかる	ℼ	老年						
	⑬ストーマを造設した患者の一般的な生活上の留意点がわかる	IV	在宅						
	①患者を車椅子で移送できる	I	基礎			演習	車椅子の移乗・移送		
	②患者の歩行・移動介助ができる	I	基礎			演習	安楽な体位・体位変換移動と移送		
	③廃用症候群のリスクをアセスメントできる	I	老年						
	④入眠・睡眠を意識した日中の活動の援助ができる	I	基礎			講義			
	⑤患者の睡眠状況をアセスメントし、基本的な入眠を促す援助を計画できる	I	基礎			講義			
活動	⑥臥床患者の体位変換ができる	П	基礎 在宅			演習	体位変換		
4 休	⑦患者の機能に合わせてベッドから車椅子への移乗ができる	П	基礎成人 在宅			演習	車いすの移乗	講義	
息	⑧廃用症候群予防のための自動・他動運動ができる	П	老年						
援助	⑨目的に応じた安静保持の援助ができる	П	基礎			演習	安楽な体位の保持		
	⑩体動制限による苦痛を緩和できる	П	基礎			演習	安楽な体位の保持		
	⑪患者をベッドからストレッチャーへ移乗できる	П	基礎			演習	ストレッチャーの移乗		
	⑫患者のストレッチャー移送ができる	П	基礎			演習	ストレッチャーの移送		
	⑬関節可動域訓練ができる	П	基礎	講義	リハビリテーション論	演習	関節可動域の測定		
	1	IV	老年						
	①入浴が生体に及ぼす影響を理解し、入浴前・中・後の観察ができる	I	基礎 在宅			講義			
	②患者の状態に合わせた足浴・手浴ができる	I	基礎			演習	手浴、足浴		
	③清拭援助を通して、患者の観察ができる	I	基礎			演習	全身清拭		
	④洗髪援助を通して、患者の観察ができる	I	基礎			演習	洗髮		
	⑤口腔ケアを通して、患者の観察ができる	I	基礎			演習	口腔ケア		
清潔	⑥患者が身だしなみを整えるための援助ができる	I	基礎			講義			
	⑦持続静脈内点滴注射を実施していない臥床患者の寝衣交換ができる	I	基礎			演習	寝衣交換、寝衣リネン交換		
生	8入浴の介助ができる	П	基礎 在宅			講義			
活援	⑨陰部の清潔保持の援助ができる	П	基礎 在宅			演習	陰部洗浄		
助	⑩臥床患者の清拭ができる	П	基礎			演習	全身清拭		
	⑪臥床患者の洗髪ができる	П	基礎 在宅			演習	洗髮		
	⑫意識障害のない患者の口腔ケアができる	П	基礎			演習	口腔ケア		
	③患者の病態・機能に合わせた口腔ケアを計画できる	П	老年 在宅						<b>おボニハ・チュナ</b> のサタニ
	⑭持続静脈内点滴注射実施中の患者の寝衣交換ができる	П	成人					演習	輸液ライン挿入中の対象の 寝衣交換
	⑤沐浴が実施できる	П	母性						

		老年看護学		小児看護学		E	母性看護学		精神看護学		在宅看護論	看護の統合と実践		
П	1									講義				
1	2													
	3													
		講義												
	2													
	3									演習	経管栄養法(経鼻・胃瘻)			
	4													
	(5)													
2	6													
	7									演習	経管栄養法(経鼻·胃瘻)			
	8									演習	経管栄養法(経鼻·胃瘻)			
	9													
	10													
	1	講義												
	2	講義												
	3													
	4									講義				
	⑤													
	6	演習	おむつ交換											
3	7	演習	おむつ交換							演習	在宅における陰部洗浄			
	8									講義				
	9													
	10													
	11)									講義				
	-	演習	モデル人形で摘便											
	13									講義				
	1													
	2													
	3	講義												
	4													
	(5)										<b>短加田目を住田! もはなる</b>			
	6										福祉用具を使用した体位変換			
4	7									演習	福祉用具を使用した移乗			
		講義												
	9													
	10													
	11)													
	(13)													
		講義												
	1									講義				
	2													
	3													
	4													
	(5)													
	6													
	7													
5	8									演習	在宅における入浴介助			
	9									演習	在宅における陰部洗浄			
	10													
	11)									演習	在宅における洗髪			
	12)													
		講義								講義				
	14)													
	15)					演習	沐浴							

			項目	当校の卒業 時到達レベル	領域	基礎分野 門基礎分野		基礎看護学	成人看護学		
			①酸素吸入療法を受けている患者の観察ができる	I			講義				
			②患者の状態に合わせた温罨法・冷罨法が実施できる	I			講義				
			③患者の自覚症状に配慮しながら体温調節の援助ができる	I	基礎		講義				
### 10 전			<ul><li>④末梢循環を促進するための部分浴・罨法・マッサージができる</li></ul>	I	基礎		演習	手浴・足浴			
		กสัง		п			1				
### 1					基礎		1				
□ 전 전 전 교육 전 전 전 전 전 전 전 전 전 전 전 전 전 전 전									演習		
10元子ル人形名に19万里間で特性パレナーグを実施できる   □   京人   京音   京音   京音   京音   京音   京音   京音	6	を								排痰の援助 {吸引(口腔・ 鼻腔・気管切開孔) 体位ド	
日本の	_	_									
		る					演習	酸素ボンベの取り扱い			
					成人				講義		
おより							講義				
世紀 正确 (中国							1				
			(4)低圧胸腔内持続吸引中の患者の観察点がわかる				,		講義		
過去の場合を含めた後でヤスルーできる							讃義				
2 個条予所のためのケブが目面できる 1					基礎		+				
1					基礎		1				
		創			基礎		1				
正学生間で基本的な空帯点が実施できる	7	傷					1		講義		
の制御を置のたかの無面操作ができるにレーン種の得入他の設置も含む。					基礎		演習	包帯法			
□ 日本語 (日本語 日本語 日本語 日本語 日本語 日本語 日本語 日本語 日本語 日本語								• • •	演習	創傷処置	
1				IV	基礎		講義				
2 製皮・外用栗の投与前後の観察ができる					基礎		+				
お直接性別の主要を対すている患者の観察点がわかる			2 ②経皮・外用薬の投与前後の観察ができる				講義				
3 直流静脈内注射をつけている患者の観察点がわかる					基礎						
				п	基礎		1				
日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日				ш	基礎		1	直腸内与薬			
□ モデル人形または字生間で仮下注射が実施できる Ⅲ 基礎			⑥点滴静脈内注射の輸液の管理ができる	ш			講義				
8 日本デル人形に点滴静脈内注射が実施できる							演習	モデル人形で皮下注射			
1			<ul><li>⑧モデル人形または学生間で筋肉内注射が実施できる</li></ul>	Ш	基礎		演習	モデル人形で筋肉注射			
18   18   18   18   18   18   18   18			⑨モデル人形に点滴静脈内注射が実施できる	Ш	基礎		演習	モデル人形に点滴静脈内注射			
日本日本の仕事の内が広がわかる			<ul><li>⑩輸液ポンプの基本的な操作ができる</li></ul>	Ш	基礎		演習	医療機器の取り扱い			
1			<ul><li>①経口薬の種類と服用方法がわかる</li></ul>	Ш			講義				
日本の日本的での大変を受けている語名の数条点がわかる			②経皮・外用薬の与薬方法がわかる	IV			講義				
砂皮内注射後の観察点がわかる	8		③中心静脈内栄養を受けている患者の観察点がわかる	IV	基礎		講義				
□ 節筋肉内注射後の観察点がわかる		*	④皮内注射後の観察点がわかる	IV	基礎		講義				
(助納内に注射後の観察点がわかる IV 基礎 講義			15皮下注射後の観察点がわかる	IV	基礎		講義				
(事無内注射の実施方法がわかる (事業理作用をふまえた静脈内注射の危険性がわかる (事務脈内注射実施中の異常な状態がわかる (事務脈内注射実施中の異常な状態がわかる (事務脈内注射実施中の異常な状態がわかる (事務脈内注射実施中の異常な状態がわかる (事務脈内注射実施中の異常な状態がわかる (事務脈内注射実施中の異常な状態がわかる (事務			⑥筋肉内注射後の観察点がわかる	IV	基礎		講義				
(3 静脈内注射実施中の異常な状態がわかる IV 基礎 講義			①静脈内注射の実施方法がわかる	Ш	基礎		1				
②抗生物質を投与されている患者の観察点がわかる			18薬理作用をふまえた静脈内注射の危険性がわかる	IV	基礎		講義				
(①インシュリン製剤の種類に応じた投与方法がわかる IV 成人 講義 (②麻薬を投与されている患者の観察点がわかる IV 成人 講義 (③麻薬を投与されている患者の観察点がわかる IV 成人 講義 (④薬剤等の管理(毒薬・劇薬・麻薬・血液製剤を含む)方法がわかる IV 基礎 講義 (⑤輸血が生体に及ぼす影響をふまえ、輸血剤・中・後の観察点がわかる IV 基礎 講義 (①緊急なことが生じた場合にはチームメンバーへの応援要請ができる I 統合 (②患者の意識状態を観察できる II 統合 (②患者の意識状態を観察できる II 統合 (④モデル人形で気道確保が正しくできる II 統合 (④モデル人形で気道確保が正しくできる II 統合 (⑤・モデル人形で気道確保が正しく実施できる II 統合 (⑥・モデル人形で気道を保が正しく実施できる II 統合 (⑥・モデル人形で見頭式心マッサージが正しく実施できる II 統合 (⑥・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			⑨静脈内注射実施中の異常な状態がわかる	IV	基礎		講義				
②インシュリン製剤を投与されている患者の観察点がわかる   IV 成人   講義     ③麻薬を投与されている患者の観察点がわかる   IV 成人     「 成人     「 成人     「 成人     「 成人   			⑩抗生物質を投与されている患者の観察点がわかる	IV	基礎		講義				
②麻薬を投与されている患者の観察点がわかる			②インシュリン製剤の種類に応じた投与方法がわかる	IV	成人				講義		
図薬剤等の管理(毒薬・劇薬・麻薬・血液製剤を含む)方法がわかる     IV     基礎     講義       ⑤輸血が生体に及ぼす影響をふまえ、輸血 <b>前・</b> 中・後の観察点がわかる     IV     基礎     講義       ①緊急なことが生じた場合にはチームメンバーへの応援要請ができる     I     統合       ②患者の意識状態を観察できる     II     統合       ③モデル人形で気道確保が正しくできる     III     統合       ②モデル人形で人工呼吸が正しく実施できる     III     統合       ⑤エデル人形で閉鎖式心マッサージが正しく実施できる     III     統合       ⑥除細動の原理がわかりモデル人形にAEDを用いて正しく実施できる     III     統合       ②定済機とでは、アルの担保方法がわかる     基礎     講義			②インシュリン製剤を投与されている患者の観察点がわかる	IV	成人				講義		
事業     事業       1     基礎     講義       1     銀名の意識状態を観察できる     I     統合       2     患者の意識状態を観察できる     II     統合       3     3モデル人形で気道確保が正しくできる     III     統合       4     ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			⑬麻薬を投与されている患者の観察点がわかる	IV	成人				講義		
1 緊急なことが生じた場合にはチームメンバーへの応援要請ができる     I 統合       2 患者の意識状態を観察できる     II 統合       数 ③モデル人形で気道確保が正しくできる     III 統合       4 をデル人形で人工呼吸が正しく実施できる     III 統合       5 モデル人形で閉鎖式心マッサージが正しく実施できる     III 統合       6 除細動の原理がわかりモデル人形にAEDを用いて正しく実施できる     III 統合       7 定 競出の 押提布 きがわかる     IV 基礎       事業			②薬剤等の管理(毒薬・劇薬・麻薬・血液製剤を含む)方法がわかる	IV	基礎		講義				
2     患者の意識状態を観察できる     II     統合       数     ③モデル人形で気道確保が正しくできる     III     統合       数     ①モデル人形で人工呼吸が正しく実施できる     III     統合       ⑤     ⑤モデル人形で閉鎖式心マッサージが正しく実施できる     III     統合       ⑥除細動の原理がわかりモデル人形にAEDを用いて正しく実施できる     III     統合       ②定     ②産業・バルの担保方法がわかる     III     統合       ※素     ※素			⑤輸血が生体に及ぼす影響をふまえ、輸血 <b>前・</b> 中・後の観察点がわかる	IV	基礎		講義				
数			①緊急なことが生じた場合にはチームメンバーへの応援要請ができる	I	統合						
6			②患者の意識状態を観察できる	П	統合						
数			③モデル人形で気道確保が正しくできる	Ш	統合						
9     急     切       ⑤     (⑤) モデル人形で閉鎖式心マッサージが正しく実施できる     III     統合       ⑥     (⑥) 除細動の原理がわかりモデル人形にAEDを用いて正しく実施できる     III     統合       (⑦) 音識しばルの担握方法がわかる     IV     基礎     津業			④モデル人形で人工呼吸が正しく実施できる	Ш	統合						
置 ⑥除細動の原理がわかりモデル人形にAEDを用いて正しく実施できる III 統合 IV 基礎 謙兼	9	急	⑤モデル人形で閉鎖式心マッサージが正しく実施できる	Ш	統合						
			⑥除細動の原理がわかりモデル人形にAEDを用いて正しく実施できる	Ш	統合						
			⑦意識レベルの把握方法がわかる	IV			講義				
⑧止血法の原理がわかる     IV     統合			⑧止血法の原理がわかる	IV							

		老年看護学		小児看護学	£	计性看護学		精神看護学		在宅看護論		看護の統合と実践
	1								講義			
	2											
	3											
	4											
	$\vdash$		*# *									
	5		講義	en 2 + 14								
	6		演習	吸入療法								
	7											
6	8											
	9											
	10											
	11)											
	12)											
	13)											
	14)											
	15)											
	1								講義			
	2								講義			
	3								演習	褥瘡予防		
7	4											
	⑤										演習	包帯法
	6											
	7											
	1						講義					
	2						H17 720					
	3											
	4											
	5			+4 >= 46 700								
	6		演習	輸液管理								
	7											
	8											
	9											
	10											
	11)		演習	与薬方法								
	12											
8	13)											
	14)											
	15)											
	16											
	11)											
	18											
	19											
	20											
	(21)											
	22											
	23											
	24)											
	25											
	1										演習	
	2										演習	
	3										演習	心肺薛生
	-											心肺蘇生 (AEDの使用) (トリアージ)
9	4										演習	(トリアーン)
	<b>⑤</b>										演習	
	6										演習	
	7										講義	
L	8										講義	

		項目	当校の卒業 時到達レベル	領域		基礎分野 引基礎分野		基礎看護学		成人看護学
		①バイタルサインが正確に測定できる	I	基礎 小児 母性			演習	バイタルサインの測定		
		②正確に身体計測ができる	I	基礎 小児 母性			講義			
		③患者の一般状態の変化に気づくことができる	I	基礎			講義			
		④系統的な症状の観察ができる	П	基礎			演習	フィジカルイグザム		
	症	⑤バイタルサイン・身体測定データ・症状などから患者の状態をアセスメントできる	П	基礎 母性			講義			
	状・	⑥目的に合わせた採尿の方法を理解し、尿検体の正しい取り扱いができる	П	基礎小児			講義			
10	生	⑦簡易血糖測定ができる	П	成人					演習	簡易血糖測定
10	体機	⑧正確な検査が行えるための患者の準備ができる	П	基礎			講義			
	能管	⑨検査の介助ができる	П	基礎 小児			講義			
	理	⑩検査後の安静保持の援助ができる	П	基礎			講義			
		⑪検査前、中、後の観察ができる	П	基礎			講義			
		⑫モデル人形または学生間で静脈血採血が実施できる	Ш	基礎			演習	モデル人形で採血		
		③血液検査の目的を理解し、目的に合わせた血液検体の取り扱い方がわかる	IV	基礎			講義			
		() 身体侵襲を伴う検査の目的・方法、検査が生体に及ぼす影響がわかる	IV	基礎			講義			
		①スタンダード・プリコーション(標準予防策)に基づく手洗いが実施できる	I	基礎			講義演習	手洗い		
		②必要な防護用具(手袋・ゴーグル・ガウン等)の装着ができる	П	基礎			講義 演習	手袋・エプロンの装着		
	感	③使用した器具の感染防止の取り扱いができる	П	基礎			演習	(針を使う技術)		
11	染予	④感染性廃棄物の取り扱いができる	П	基礎			演習	(針を使う技術)		
	防	⑤無菌操作が確実にできる	П	基礎			演習	無菌操作		
		⑥針刺し事故防止の対策が実施できる	П	基礎 統合			演習	(針を使う技術)		
		⑦針刺し事故後の感染防止の方法がわかる	IV	基礎 統合	講義	薬理学	講義			
		①インシデント・アクシデントが発生した場合には、速やかに報告できる	I	統合						
		②災害が発生した場合には、指示に従って行動がとれる。	I	統合						
		③患者を誤認しないための防止策を実施できる	I	基礎 統合			演習	各基礎看護技術演習		
	安全	④患者の機能や行動特性に合わせて療養環境を安全に整えることができる	П	基礎小児 精神統合			講義			
12	管理	⑤患者の機能や行動特性に合わせて転倒・転落・外傷予防ができる	П	基礎 成人 老年 小児 精神 統合			講義		講義	
		⑥放射線暴露の防止のための行動がとれる	П	基礎			講義			
		⑦誤薬防止の手順に沿った与薬ができる	Ш	基礎成人 統合			演習	与薬方法	講義	
		⑧人体へのリスクの大きい薬剤の暴露の危険性および予防策がわかる	IV	成人 統合					講義	
		①患者の状態に合わせて安楽に体位を保持することができる	П	基礎			演習	体位変換		
13	安楽	②患者の安楽を促進するためのケアができる	П	基礎			演習	体位変換		
	-1	③患者の精神的安寧を保つための工夫を計画できる	П	基礎 精神			講義			

		老年看護学		· 看護学     小児看護学		E	·性看護学		精神看護学	在宅看護論	看護の統合と実践		
	1			講義		演習	バイタルサイン測定						
	2			講義		講義							
	3												
	4												
	(5)					講義							
	6			講義									
	7												
1	8												
	9			演習	骨髓穿刺·腰椎穿刺								
	10												
	11)												
	12												
	13)												
	14)												
	1												
	2												
	3												
1	1 4												
	(5)												
	6										講義		
	7										講義		
	1										講義		
	2										講義		
	3										講義		
	4			講義				講義			演習	対象者の状況に応じた援助の	
1	2 5	講義		講義				講義			演習	対象者の状況に応じた援助の 実際と振り返り 看護事故シミュレーション	
	6												
	7										講義		
	8										講義		
	1												
1	3 ②												
L	3							講義					

- 1. この表の「項目」は『平成23年度 看護教育の内容と方法に関する検討会』で出された内容を明示している。
- 2. 「当校の卒業時到達レベル」は厚生労働省から示されたものを参考にしている。
  - I:単独で実施できる
  - Ⅱ:看護師・教員の指導のもと実施できる
  - Ⅲ. 学内演習で実施できる
  - Ⅳ:知識としてわかる

刊行物名 看護学科教育計画

発 行 者 滋賀県立総合保健専門学校

 $\pm 524-0022$ 

守山市守山五丁目 4番 10号

TEL 077-583-4147

FAX 077-583-8722

印 刷 ●●●●